福 岡 市

埋蔵文化財年報 Vol. 9 1994年度

1 9 9 6

福岡市教育委員会

表紙は、鋤崎古墳群検出横口式炭窯と有田第177次地点甕棺出土鏡

福岡市の概要

位置

この表は建設省国土地理院の２万５千分の１の地図から測定したものです。

方　　位	地　　点	東　　経	北　　緯
市役所(本庁)	中央区天神一丁目８－１	130°24′15″	33°35′14″
極　東	東区大字蒲田字別府の浦	130°29′50″	33°38′34″
極　西(陸部)	西区大字西の浦字外畦	130°12′00″	33°38′11″
極　西	西区大字小呂島字向	130°02′06″	33°51′49″
極　南	早良区大字板屋字苦笑	130°22′50″	33°25′17″
極　北(陸部)	東区大字三苫字牧山	130°25′13″	33°42′33″
極　北	西区大字小呂島字向	130°02′17″	33°52′17″

福岡の気象(平成５年)

年平均気温	16.2℃
最高気温(極)	33.8℃
最低気温(極)	0.3℃
年平均湿度	70%
年降水量(mm)	2049.5mm

※平成６年版福岡市統計書による。

平成６年度福岡市当初予算

一般会計	6,633億4,600万円
特別会計	7,770億2,375万3千円
企業会計	2,520億1,272万4千円
合　　計	１兆6,923億8,247万7千円

平成６年度埋蔵文化財関係予算

開発事業審査費	1288万6千円
公共事業関係費	3億7529万6千円
民間・国庫補助関係調査費	4億9732万8千円
合　　計	8億8551万0千円

面積、人口、土地利用状況（有租地面積など）

(単位千㎡)

区	面積(㎢)	世帯数	人　口	有租地総面積(㎢)	宅地				農地		山林	原野その他	免税点未満
					総数	商業地区	工業地区	住宅地区	田	畑			
全　市	336.81	524,157	1,270,048	178,715	79,348	8,468	9,138	61,743	24,561	9,391	45,574	19,840	14,362
東　区	63.61	103,105	257,769	33,486	18,177	1,075	4,347	12,756	3,039	2,229	4,499	5,541	1,611
博多区	31.40	76,627	167,384	17,187	11,897	2,345	3,598	5,953	926	483	1,131	2,750	292
中央区	15.14	69,895	138,463	8,122	7,712	3,204	759	3,749	2	8	171	229	11
南　区	30.98	96,021	239,225	18,534	13,326	668	261	12,397	1,062	307	1,984	1,854	366
城南区	16.02	54,776	123,667	9,509	6,725	152	－	6,573	355	170	1,532	727	172
早良区	95.88	72,451	193,830	44,336	10,914	686	－	10,228	7,086	654	22,694	2,988	4,150
西　区	83.78	51,282	149,710	47,540	10,597	338	172	10,087	12,090	5,541	13,563	5,749	7,759

※人口・世帯数・面積は平成６年１月１日現在の推計値。福岡市勢要覧－平成６年－による。
※有租地面積他は福岡市統計書平成６年版による。

序

平成６（1994）年度福岡市においては、日本経済の停滞のなかにもかかわらず、翌平成７年のユニバーシアード大会開催に向けて、都市基盤整備と各種施設の建設が多くあり、また民間による中小規模の開発も引き続き行われました。従ってこれらの開発に伴う発掘調査は依然として多く、また脚光を浴びる新発見も少なくありませんでした。

本書は、平成６年度の埋蔵文化財行政の概要を示しています。本書が埋蔵文化財に対する理解の一助となり、活用されることを希望いたしますとともに、調査費の負担をはじめとする関係各位のご協力に感謝を申し上げます。

平成８年３月29日

福岡市教育委員会

教育長　　尾　花　　剛

例　言

1．本書は、教育委員会埋蔵文化財課が平成６年度に行なった事業のうち、各種開発事業に伴う事前審査と発掘調査業務（文化財整備調査を含む）について概要を記したものである。

2．調査報告収録分は、平成６年度に発掘調査を実施した遺跡で、整理報告については予算措置がないものである。

3．本書の作成は、平成７年の事前審査担当（浜石哲也、山崎龍雄、榎本義嗣、池田祐司）で行なった。なお、発掘調査の概要・報告は各調査担当者が分担執筆し、文化財調査の概要については、文化財整備課の三木隆行の執筆である。

目　次

Ⅰ　開発事前審査

1）平成６（1994）年度の概要 …… 1

2）試掘調査一覧 …… 3

Ⅱ　発掘調査の概要 …… 19

1）平成６（1994）年度の概要 …… 19

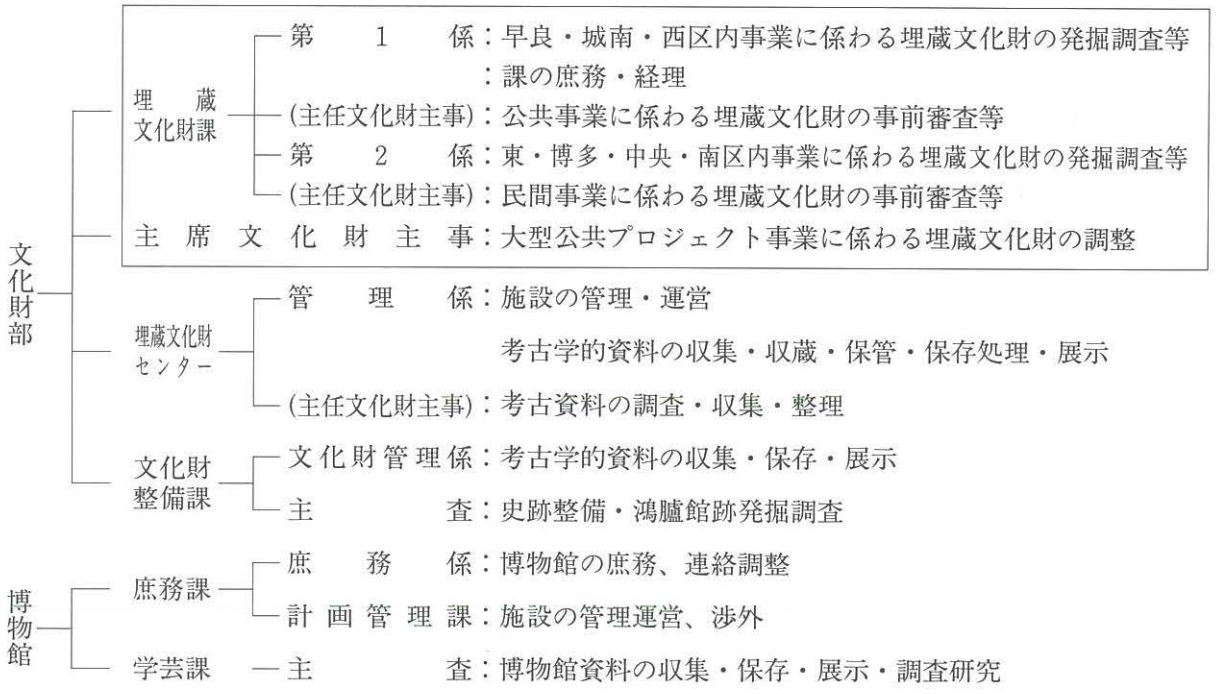
2）発掘調査一覧 …… 21

3）各調査の概要および調査報告 …… 23

Ⅲ　文化財調査の概要 …… 99

附　平成６（1994）年度刊行報告書一覧 …… 101

平成6(1994)年度の組織



埋蔵文化財課の構成

課　　長：折尾　學
主席文化財主事：塩屋勝利
第一係長：横山邦継
主任文化財主事：飛高憲雄、浜石哲也、池崎譲二
係　　員：(文化財主事) 杉山富雄、常松幹雄、荒牧宏之、加藤良彦、池田祐司、長家伸、
榎本義嗣、屋山　洋、中村啓太郎
(事務) 内野保基、吉田麻由美、入江幸男、西田結香
第二係長：山崎純男
主任文化財主事：山口譲治、山崎龍雄、松村道博
係　　員：(文化財主事) 大庭康時、下村　智、佐藤一郎、吉武　学、吉留秀敏、宮井善朗、
菅波正人、白井克也、加藤隆也

Ⅰ　開発事前審査

本市において、土木工事など各種開発に係る埋蔵文化財の事前審査は、昭和53年度から同58年度までの６年間にわたって実施した分布調査の成果（福岡市文化財分布地図）と、昨年度までの発掘調査および試掘調査の成果をもとにして行っている。

文化財分布地図は、市役所各開発部局および関係公社・公団などに配布し、事業計画策定段階での活用をお願いしている。また、民間の各種開発関係、不動産取引関係者などには埋蔵文化財課窓口での分布地図閲覧や各種の相談に応じている。その際に文化財保護法の主旨および手続きなどの説明をするとともに、文化財保護についての協力をお願いしている。

１）　平成６（1994）年度の概要

平成６年度中に埋蔵文化財課に提出された公共および民間開発事業に伴う事前調査の申請（『埋蔵文化財事前審査願』および『事業計画書』）の件数は、下表に示すように公共事業640件、民間開発事業478件の計1118件で、やや減少している。また、事前審査窓口に備え付けた『文化財分布地図』の閲覧および相談は1957件と、昨年度より421件増加している。これは住宅金融公庫などの金利が低下し、住宅建設が活発化したことによるのであろうか。

事業別割合では、公共事業が昨年比15％、民間事業が７％減少している。区別に見ていくと西・博多・早良区が200件を越え、城南区が65件、中央区が90件と少ない。各区の特色を見ると、博多区は民間事業が62％と多いが、ほかは公共事業が多く、特に中央区では80％を公共事業が占めている。民間事業は、昨年度と同じく那珂川・御笠川に挟まれた地域の開発が主体となっており、西区・早良区・東区の開発も増加しつつある。公共事業は、幹線道路建設など1995年開催予定のユニバーシアードに関連する事業が主体を占めている。

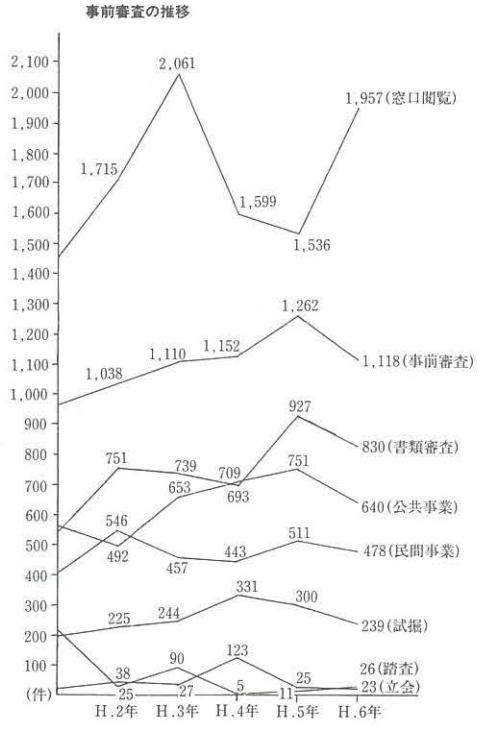
事前審査の内訳は、総件数の75％が書類による審査（要試掘となっており、試掘を実施していないもの、以前の試掘実施地を含む）と多く、次に試掘調査が21％で、あと立会、踏査と続く。また、試掘調査は昨年より20％減少している。

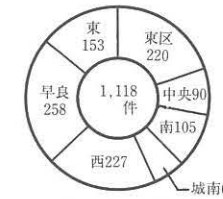
開発事前審査件数の推移　（件）

	H.2年	H.3年	H.4年	H.5年	H.6年
民　間	546	457	443	511	478
公　共	492	653	709	751	640
計	1,038	1,110	1,152	1,262	1,118

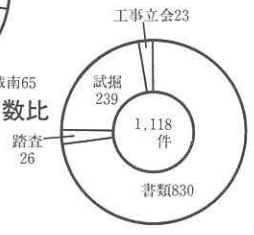
事前審査の内訳　（件）

	H.2年	H.3年	H.4年	H.5年	H.6年
書　類	751	739	693	927	830
踏　査	25	90	5	11	26
試　掘	225	244	331	300	239
立　会	38	27	123	25	23



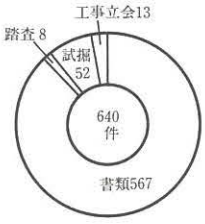


各区別事前審査件数比

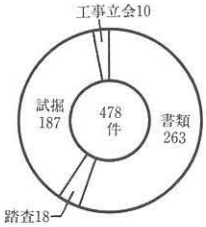


事前審査全体件数比

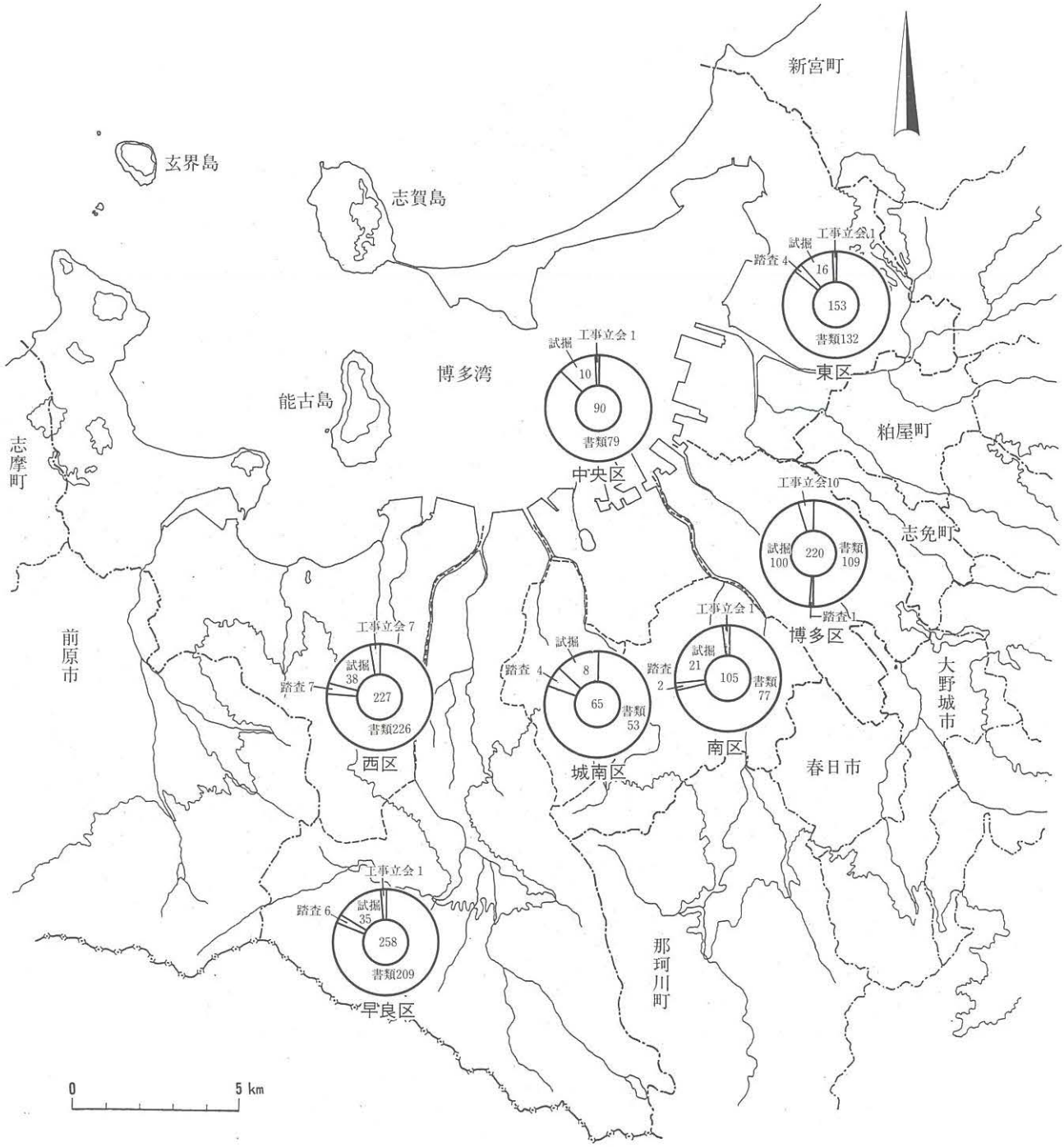
各区別窓口閲覧件数



公共事業



民間事業



平成 6 年度開発事業事前審査状況

試 掘 調 査 一 覧

ここに掲載する試掘調査は、平成６年度（1994年４月１日～1995年３月31日）に行ったものである。

東 区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見（調査番号）	審査番号
1	箱崎	箱崎１丁目2711外４筆	19940413	分譲共同住宅	1,474.51	有	発掘調査	34箱崎	(9448)	5-2-486
2		若宮５丁目	19940419	市営松崎住宅	2,000	無		18松崎	海岸の後背湿地、貝殻を含む	6-1-41
3	唐ノ原	和白４丁目1551-47	19940517	個人専用住宅	144.29	無		29塩浜	砂丘上、遺構・遺物なし	5-2-444
4	三苫	三苫７丁目	19940602～19940603	和白地区小学校	16,500	有	発掘調査	27三苫北部 28三苫	(9449)	6-1-610
5	箱崎	箱崎１丁目906-1 馬出５丁目599-1・2	19940621	事務所兼住宅	383.08	有	工事立会	34箱崎	中世包含層	6-2-91
6	香椎A	香椎３丁目1094-1・4・6	19940713	宅地分譲	606.47	無		17浜男	遺構・遺物なし	6-2-90
7		社領・筥松・博多区・吉塚	19940825	再開発		無		34箱崎	遺構・遺物なし	6-1-99
8	唐ノ原	和白４丁目1551-10・59	19940929	共同住宅	998	無		29塩浜	遺構・遺物なし	6-2-213
9	蒲田部木原	蒲田４丁目108外18筆	19941101	物流センター	24,535	無		２蒲田	遺構・遺物なし	6-2-279
10	蒲田部木原	蒲田２丁目783-1，784-1，785-1	19941101	物流センター	2,710	有	慎重工事	２蒲田	弥生時代の集落	6-2-280
11	下和白	美和台５丁目634の一部，636の一部，638の一部	19941124	共同住宅	1,478	無		27三苫北部	溜池跡	6-2-292
12		下原	19940413～19950209	下原台団地	46,621	無		16唐原	遺構・遺物なし	7-1-21

13	蒲田部木原	蒲田２丁目777-1外５筆	19950328	物流用倉庫	7,602	有	発掘調査	２蒲田	(9517)	6-2-441
14	蒲田部木原	蒲田２丁目771-1 ３丁目773-1，774-1，775	19950328	物流倉庫及駐車場	6,259	有	慎重工事	２蒲田	弥生時代集落	6-2-462
15	多々良込田	多の津１～３丁目	19950323	都市高速建設		有	発掘調査	19多々羅	古代集落	6-1-70

博多区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見(調査番号)	審査番号
1	浦田	大字上月隈字善徳847-4内	19940412	共同住宅	647.26	無		10下月隈	遺構・遺物なし	5-2-286
2	吉塚	吉塚３丁目430-4	19940412	共同住宅	535	無		35吉塚	遺構・遺物なし	5-2-332
3	諸岡A	諸岡１丁目２-７外四筆	19940412	事務所	3,545.52	無		24板付	旧河川と台地、遺構・遺物なし	5-2-439
4	博多	下呉服町2-13	19940412	商業ビル	294.17	無		48千代博多	砂丘上、近・現代遺物あり	5-2-494
5	麦野A	麦野４丁目36-12	19940413	共同住宅	301.81	無		12麦野	削平を受け、遺構・遺物なし	5-2-465
6	諸岡A	諸岡３丁目93	19940413	事務所	396	無		24板付	遺構・遺物なし	5-2-504
7	吉塚	千代１丁目332，333，341，342，345，346	19940420	病院建設	1,141.94	無		35吉塚	遺構・遺物なし	5-2-496
8	席田大谷	東平尾公園２丁目，東平尾公園（大谷広場）	19940408	東平尾公園整備	30,000	有	発掘調査	10下月隈	(9421)	6-1-641
9	吉塚	堅粕４丁目493，493-1	19940420	賃貸住宅	992	無		36博多駅	遺構・遺物なし	6-2-7
10	那珂	東光寺町１丁目147の一部，148	19940426	店舗兼共同住宅	997	有	発掘調査	37東光寺	(9438)	5-2-328
11	立花寺	立花寺539-3外	19940513	道路新設	2,100	有	発掘調査	11金隈	(9439)	6-1-95
12		板付７丁目2-10	19940511	共同住宅	1,456.29	無		24板付	氾濫原、遺構・遺物なし	5-2-364
13	雑餉隈	西春町１丁目3-25	19940511	共同住宅	137.61	無		12麦野	遺構・遺物なし	6-2-13
14	南八幡	寿町３丁目33外６筆	19940511	共同住宅	1,899.91	無		12麦野	遺構・遺物なし	6-2-23
15	堅粕	千代一丁目3-3	19940511	事務所	823.73	有	工事立会	35吉塚	古墳～古代包含層	6-2-34
16	麦野C	竹丘町２丁目7	19940518	駐車場	152.06	無		12麦野	削平を受け、遺構・遺物なし	6-2-28

17	博多	上呉服町579，581，583	19940518	ホテル	263.95	有	工事立会	49天神	中世の包含層	6-2-32
18		上月隈（南福岡養護学校）	19940527	南福岡養護学校	18,820	有	慎重工事	24板付	一部に包含層・ピット・水田面	6-1-567
19	東那珂	東那珂（竹下駅前１号線）	19940603	道路拡幅	1,800	無		23雀居	氾濫原、遺構なし	6-1-47
20	吉塚本町	吉塚本町・東区馬出１丁目	19940603	道路拡幅	5,800	無		34吉塚	時期不明の土坑	6-1-75
21	博多	奈良屋町86	19940608	事務所兼専用住宅	171.90	有	慎重工事	48千代博多	近世以前の包含層	6-2-51
22	麦野A・麦野C	麦野６丁目10-12	19940607	共同住宅	442.36	無		12麦野	溜池、遺構・遺物なし	6-2-68
23	麦野A	麦野１丁目20-1	19940614	個人専用住宅	235.20	無		25井尻	遺構・遺物なし	6-2-54
24	那珂	東光寺町１丁目415-1	19940622	事務所	286.53	有	慎重工事	37東光寺	弥生時代集落・墓地	6-2-79
25	南八幡	寿町３丁目32-1・2，33-1	19940627	分譲共同住宅	921.11	無		12麦野	遺構・遺物なし	6-2-57
26		上月隈・下月隈地内	19940519	月隈調整池	80,000	有	発掘調査	10下月隈	古代～中世水田・集落	6-1-608
			～					11金隈	現在協議中	
			19940617							
27	那珂	竹下３丁目1-1	19940627	工場増設	6,000	有	発掘調査	37東光寺	(9441)	6-2-86
28	比恵	博多駅南４丁目89	19940705	共同住宅	1,042.53	有	発掘調査	37東光寺	現在協議中	5-2-390
29	博多	御供所44-2，45，45-1，46	19940706	共同住宅	359.32	有	工事立会	49天神	中世以前の集落	5-2-363
30	雀居	大字雀居正つり川	19940531	空港西側整備	310,000	有	発掘調査	23雀居	(9506)	6-1-30
			～							
			19940713							
31	雑餉隈	西春町３丁目19	19940712	共同住宅	443.94	無		13雑餉隈	遺構・遺物なし	6-2-100
32	博多	博多駅前１丁目28-27	19940720	個人専用住宅	118.36	有	工事立会	36博多駅	房州堀推定地	6-2-56
33	博多	下川端19	19940727	店舗併用住宅	78.63	無		49天神	近世の包含層	6-2-138
34	諸岡A	諸岡３丁目365-2	19940727	集会所	249.66	無		24板付	遺構・遺物なし	6-2-106
35	博多	下川端	19940809	下川端再開発	28,000	有	発掘調査	49天神	(9505)	6-1-611
			～							
			19950202							
36		住吉５丁目92	19940811	公民館等建設	407	無		37東光寺	旧河道か沖積地	6-1-88
37	比恵	竹下２丁目1-53	19940810	倉庫建設	2,313.71	有	慎重工事	37東光寺	旧河川か	6-2-152

38	堅粕	千代1丁目79，83	19940817	事務所	136.33	無		35吉塚	遺構・遺物なし	6-2-131
39		那珂6丁目23-1	19940826	包装資材保管所	250	無		24板付	谷部にあたり、遺構・遺物なし	6-1-619
40	比恵	博多駅南5丁目10-13	19940817	事務所	711.79	無	工事立会	37東光寺	旧河川	5-2-1
41	板付	板付5丁目7	19940817	共同住宅	580	有	工事立会	24板付	ピット	5-2-405
42	影ヶ浦古墳群	大字金隈字影ヶ浦323-10外5筆	19940823	共同住宅	680.74	無		11金隈	遺構・遺物なし	6-2-175
43	堅粕	千代2丁目167，168	19940823	共同住宅	218.15	無		35吉塚	遺構・遺物なし	6-2-181
44	比恵	博多駅南5丁目166，167，167-1・2	19940823	事務所	480	無		37東光寺	遺構・遺物なし	6-2-192
45	博多	須崎町1丁目7-1～3・8・12	19940824	店舗兼共同住宅	238.50	無	工事立会	49天神	近世後半以降の整地層	6-2-180
46	比恵	博多駅南6丁目16-2	19940831	共同住宅	743	有	発掘調査	37東光寺	(9461)	6-2-122
47	諸岡A	諸岡3丁目28-24・33	19940831	個人専用住宅	228.31	無		24板付	遺構・遺物なし	6-2-182
48	諸岡A	諸岡3丁目500-1	19940907	木造共同住宅	347.86	有	慎重工事	24板付	中世の溝	6-2-184
49	博多	上呉服町221外	19940907	共同住宅	249.90	有	慎重工事	48千代博多	中世の集落	6-2-197
50	那珂	那珂1丁目60	19940913	共同住宅	264	有	慎重工事	37東光寺	包含層	6-2-198
51	豊	豊1丁目109，111	19940913	合宿所	2,300.63	無		36博多駅	中世の水田面か	6-2-207
52	那珂	竹下3丁目1-1	19940908	タンク増設	380	有	発掘調査	37東光寺	(9441)	6-2-148
53	堅粕	千代1丁目地内	19940921	道路建設	約1,400	無		35吉塚	遺構・遺物なし	6-1-621
54	吉塚	堅粕4丁目327外	19940705	共同住宅	1,114.03	有	発掘調査	36博多駅	(9447)	6-2-33
55	比恵	博多駅南4丁目15-3	19940920	商業ビル	280.87	有	発掘調査	37東光寺	(9443)	6-2-193
56	博多	御供所町83	19940928	専用住宅兼事務所	273.16	有	工事立会	49天神	古墳～中世の集落	6-2-78
57	博多	奈良屋町201	19940929	専用住宅兼事務所	99.41	無		48千代博多	近世集落	6-2-151
58	麦野A	麦野2丁目13-9	19941004	個人専用住宅	223	無		12麦野	削平を受け、遺構なし	6-2-206
59	那珂	東光寺町1丁目414	19941004	倉庫	433	有	慎重工事	37東光寺	弥生～古墳時代の集落と小児甕棺	6-2-232
60	持田ヶ浦	大字金隈206-1外	19941020	公園建設	1,200	有	慎重工事	12麦野	古墳～古代集落	6-1-166
61	南八幡	寿町2丁目84，85-1	19941018	ボクシングジム建設	227.43	有	発掘調査	12麦野	(9452)	6-2-254
62	博多	冷泉町423，425	19941026	共同住宅	491.79	有	発掘調査	49天神	現在協議中	6-2-266
63	井相田A	井相田3丁目5-5	19941027	共同住宅	1,549	無		12麦野	氾濫原、遺構・遺物なし	6-2-249

64	立花寺	大字立花寺字石原116-1・2，111-1	19941027	共同住宅	3,965.80	有	発掘調査	11金隈	現在協議中	6-2-263
65	吉塚本町	吉塚本町6丁目367，368	19941108	共同住宅	1,954.43	無		35吉塚	遺構・遺物なし	6-2-258
66	井相田	井相田地内	19941115	道路建設	2,400	無		12麦野	氾濫原か	6-1-46
67	高畑	板付6丁目	19941115	倉庫建設	150	無		24板付	遺構・遺物なし	6-1-629
68	博多	博多駅前357外12筆	19941116		1,054.79	有	工事立会	36博多駅	近世集落	6-2-297
69	諸岡A	諸岡3丁目29-34	19941122	共同住宅	479.94	無		24板付	谷部か、遺構・遺物なし	6-2-303
70		上臼井	19941206	庁舎新築	2,549	無		22上臼井	湿地、遺構・遺物なし	6-1-632
71	井相田C	井相田2丁目8-3の一部	19941207	共同住宅	2,998	無	発掘調査	12麦野	(9457)	6-2-107
72	麦野	麦野6丁目4-12	19941213	事務所	390.69	無		12麦野	遺構・遺物なし	6-2-313
73	博多	冷泉町274，280，281の一部，286，287，288，289，291，293	19941220	共同住宅	891.05	有	慎重工事 工事立会	49天神	古代～近世集落	6-2-328
74	諸岡A	諸岡3丁目12-16	19941221	共同住宅	4,116.52	無		24板付	遺構・遺物なし	6-2-161
75	榎田	榎田2丁目7-5	19941221		952	無		22上臼井	遺構・遺物なし	6-2-322
76	那珂	東光寺町1丁目303	19941226	共同住宅	833	有	工事立会	37東光寺	時期不明の溝	6-2-324
77	那珂君休	那珂4丁目210	19941226	個人専用住宅	221.53	有	慎重工事	24板付	古墳～中世の水田	6-2-329
78	席田大谷	東平尾3丁目	19950117	駐車場	1,000	無		9東平尾	遺構・遺物なし	6-1-618
79	板付	板付2丁目7-27	19950111	共同住宅	373.33	有	慎重工事	24板付	弥生～古墳時代水田	6-2-121
80	那珂	那珂3丁目196	19950118	共同住宅	935	無		24板付	低地部、遺構・遺物なし	6-2-352
81	板付	板付5丁目9-40	19950125	作業所	900.28	無		24板付	遺構・遺物なし	6-2-360
82	吉塚	堅粕4丁目509-1～3	19950201	共同住宅	630	有	慎重工事	36博多駅	古代の集落	6-2-244
83	三筑生産	三筑1丁目6-9・10	19950201	事務所	324	無		25井尻	中世の水田か	6-2-387
84	雑餉隈	元町3丁目2-1・2	19950207	駐車場	336.37	無		13雑餉隈	遺構・遺物なし	6-2-386
85	博多	上呉服町486，487	19950215	事務所	336.44	有	慎重工事	48千代博多	中世集落と包含層	6-2-368
86	高畑	板付7丁目3-3・8・14	19950301	分譲共同住宅	2,253	無		24板付	遺構・遺物なし	6-2-419
87	井相田	井相田3丁目3-10	19950228	貸倉庫	922	無		12麦野	遺構・遺物なし	6-2-403

88	那　　珂	竹下３丁目1-1	19950228	レストラン	860	無		37東光寺	旧河川内、遺構・遺物なし	6-2-418
89	板　　付	板付５丁目9-5･10	19950307	共同住宅	1,699.23	無		24板付	旧河川内、遺物なし	6-2-36
90	諸　岡　A	那珂５丁目236-4	19950307	事務所	701.94	無		24板付	台地縁辺、遺物なし	6-2-371
91	麦　野　A	板付７丁目8-58	19950307	共同住宅	648.71	無	工事立会	25井尻	台地際でロームが残る。遺構･遺物なし	6-2-422
92	博　　多	下呉服町438-1･2，439	19950314	工場兼共同住宅	318.54	無		48千代博多	近世以降の整地層	6-2-228
93	高　　畑	板付６丁目9-6･10	19950314	共同住宅	1,228.93	無		24板付	遺構・遺物なし	6-2-370
94	博　　多	祇園町397外	19950314	店舗付共同住宅	368.53	無		49天神	房州堀内か	6-2-423
95	那　　珂	竹下５丁目～那珂６丁目	19950309	道路建設	9,600	無		24板付	遺構・遺物なし	5-1-647
96	南　八　幡	相生町３丁目27-1	19950316	分譲共同住宅	624.48	無		25井尻	遺構・遺物なし	6-2-420
97	博　　多	博多区下川端	19950309 ～ 19950322	市街地再開発	28,000	有	発掘調査	49天神	(9505)	6-1-611
98	那　　珂	那珂２丁目268	19950324	個人専用住宅	99.17	無		38塩原	遺構・遺物なし	6-2-467
99	笹　　原	諸岡６丁目543，544	19950330	共同住宅	282.18	無		25井尻	遺構・遺物なし	6-2-409

中央区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見(調査番号)	審査番号
1	元寇防塁	地行２丁目13-5･6	19940614		1,602.17	無		71西新	砂丘、遺構・遺物なし	6-2-52
2	福岡城跡	大名２丁目565，614	19940712	商業ビル	307.78	無		60舞鶴	肥前堀内及び北岸	6-2-103
3	鳥　　飼	地行２丁目1-17～24	19940720	寮建設	2,951.41	無		71西新	砂丘、遺構・遺物なし	6-2-132
4		中央区六本松１丁目11-1	19940830	公民館建設	623	無		61六本松	河川の氾濫原	6-1-28
5	福岡城跡	大名１丁目80-146-2	19940906	専門学校	281.08	無		60舞鶴	福岡城の肥前堀内	6-2-157
6	福岡城跡	大名２丁目635～639	19950215	商業ビル	482.61	無		60舞鶴	肥前堀内	6-2-399
7	福岡城跡	赤坂２丁目5-20	19950308	小学校体育館	1,033	有	慎重工事	60舞鶴	福岡城外堀内	7-1-561
8	元寇防塁	地行１～４丁目	19950322	道路拡幅	5,000	無		71西新	遺構・遺物なく、元寇防塁も確認出来ず	6-1-83

城南区

番号	遺跡名称	遺跡所在地	調査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見(調査番号)	審査番号
1	飯倉C	七隈2丁目1178-1	19940427	戸建分譲住宅	498	無		73茶山	削平を受けている。須恵器片出土	6-2-14
2		七隈8丁目19-1	19940512	校舎建設	4,445	無		74七隈	削平を受け、遺構・遺物なし	6-1-609
3	茶山	別府6丁目317-1	19940517		190.40	無		73茶山	削平を受け、遺構・遺物なし	6-2-37
4	飯倉E	七隈5丁目365-1・2,366-1・2	19940530	共同住宅	996.68	有	工事立会	74七隈	中世集石遺構	6-2-42
5	飯倉B	荒江1丁目276外3筆	19940713	共同住宅	805.88	有	工事立会	72荒江	不明土坑と土師器細片少々	6-2-102
6	飯倉B	荒江1丁目394-1外	19941124	共同住宅	1,232.02	無	工事立会	73茶山	遺構・遺物なし	6-2-253
7	飯倉C	七隈2丁目1180-1外5筆	19950302	戸建分譲住宅	2,690	有	慎重工事	73茶山	古代の集落	6-2-373
8	長尾	長尾4丁目173	19950315	共同住宅	600.76	無		63長尾	遺構・遺物なし	6-2-430
9	カルメル修道院	神松寺3丁目1616-3～5,1617-5・7	19950324	共同住宅	4,955	有	発掘調査	63長尾 74七隈	(9509)	6-2-262

南区

番号	遺跡名称	遺跡所在地	調査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見(調査番号)	審査番号
1	警弥郷B	弥永3丁目4-5, 4-14	19940426	共同住宅	2,500.43	無		41警弥郷	遺物・遺構なし	5-2-502
2		太平寺1丁目246-1・3	19940517	共同住宅	3,107.57	有	工事立会	53屋形原	中世集落	5-2-379
3		柏原1丁目37	19940517	賃貸住宅	1,884	無		53屋形原	遺物・遺構なし	6-2-38
4	井尻A	高木2丁目342-13	19940615	事務所	166.07	無		38塩原	遺構なし	6-2-85
5		鶴田1丁目1009-1外	19940701		3,300	無		54柏原	遺構・遺物なし	6-1-169

6	花　畑　A	柏原１丁目29-1,30-1の一部，31-1の一部	19940629	賃貸共同住宅	1,612.50	無		53屋形原	遺構・遺物なし	6-2-18
7	三　宅　B	三宅２丁目934	19940708	共同住宅	980	有	慎重工事	39三宅	古墳～古代の集落	6-2-117
8		柳瀬１丁目1-2	19940722	賃貸ビル	1,243.28	無		40老司	遺構・遺物なし	6-2-123
9	和田田蔵池	南大橋2丁目1246-32･55,1254-4･13	19941004	個人専用住宅	306.94	無		39三宅	遺構・遺物なし	6-2-224
10	三宅廃寺	南大橋２丁目1145-24	19941122	個人専用住宅	214.77	無		39三宅	遺構・遺物なし	6-2-169
11	中　村　町	野間３丁目223	19941213	個人専用住宅	233.78	無		51高宮	遺構・遺物なし	6-2-288
12		大字桧原	19941220	南部運動公園	166,000	無		64東油山 65山田	遺構・遺物なし	6-1-152
13	野多目A	横手２丁目12-1	19950125	事務所	467	無		39三宅	遺構・遺物なし	6-2-359
14	井　尻　B	井尻４丁目170-1，171-1	19950125	共同住宅	1,194.17	有	発掘調査	25井尻	(9501)	6-2-353
15	大　橋　E	大橋４丁目647-1	19950207	分譲共同住宅	477	有	工事立会	39三宅	古代の集落、大橋E1次･2次の隣接地	6-2-372
16	三　宅　B	三宅２丁目885-1	19950208	共同住宅	688	無		39三宅	旧河川、遺構・遺物なし	6-2-379
17		三宅･野多目地内	19950223	道路拡幅	4,900	無		39三宅 40老司	遺構・遺物なし	6-1-50
18	井　尻　B	井尻１丁目361-2，363-7，364-1･2･6･7，365-3	19950301	共同住宅	1,258.09	無	工事立会	25井尻	遺構・遺物なし	6-2-382
19	中　村　町	野間４丁目91外	19950224	分譲共同住宅	1,450.93	無		51高宮	遺構・遺物なし	6-2-417
20	那　　珂	五十川１丁目13-1	19950308	工場増設	11,209	有	発掘調査	38塩原	現在協議中	6-2-402
21	横　　手	横手３丁目221-4	19950308	専用住宅個人	297.31	有	慎重工事	39三宅	古墳時代の集落	6-2-431

早良区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見(調査番号)	審査番号
1		大字小笠木（団体営圃場整備）	19940411 ～ 19940420	団体営圃場整備	41,000	無		10早良	削平を受け、遺構・遺物なし	6-1-549
2	有　　田	小田部３丁目156	19940510	共同住宅	1,586	無		82有田	削平を受け、遺構・遺物なし	6-2-2

3	有田	小田部５丁目150-3	19940510	共同住宅	760.13	有		82有田	(9422)	6-2-3
4	有田	有田１丁目6-1	19940510	個人専用住宅	180.28	有	発掘調査	82有田	(9417)	6-2-29
5	古田	重留５丁目261-3	19940525	個人専用住宅	495.53	無		85入部	遺構・遺物なし	6-2-43
6	田村	田村４丁目675-1	19940525	店舗建設	879	有	慎重工事	83野芥	旧河川	6-2-64
7	野芥大藪	野芥２丁目525-5	19940622	店舗併用住宅	94.18	有	工事立会	83野芥	近世のピット群	6-2-75
8		飯倉２丁目475-75	19940621	共同住宅	1,439.97	無		73茶山	削平を受け、遺構・遺物なし	6-2-95
9	東入部	東入部地内	19940627	圃場整備	10,000	有	発掘調査	85入部	(9427)	6-1-554
			～							
			19940629							
10		飯倉５丁目221-1	19940707	飯倉中央公園	970	無		73茶山	低湿地に立地し、遺構・遺物なし	6-1-159
11	原東	飯倉４丁目34-58	19940708		1,135	有	慎重工事	82原	時期不明ピット群	6-1-575
12	次郎丸	次郎丸２丁目189-1	19940706	店舗建設	602.08	有	慎重工事	92戸切	古代～中世の集落	6-2-115
13	有田	有田１丁目11-6	19940720	共同住宅	199.50	有	工事立会	82原	削平を受け、遺構の残りは悪い	6-2-127
14	西新	西新７丁目704-1	19940725		663.41	無		72荒江	遺構・遺物なし	6-2-144
15	西新	西新５丁目15-43	19940726	共同住宅	1,434.78	有	発掘調査	72荒江	(9440)	6-2-147
16		田村３丁目766-4	19940802	共同住宅	991.80	無		93都地		6-2-160
17	有田	南庄３丁目180	19940823	個人専用住宅	403.84	有	慎重工事	81室見	弥生～古墳時代の集落	6-2-174
18	有田	有田１丁目18-3・9	19940906	個人専用住宅	247.47	有	慎重工事	82原	中世の城館の堀	6-2-170
19	原	原６丁目876-2外10筆	19940927	分譲共同住宅	1,377	無	工事立会	82原	明確な遺構なし	6-2-227
20		大字四箇	19941006	市営四箇住宅	14,800	無		93都地	氾濫原、遺跡なし	6-1-37
								94金武		
21	野芥	野芥４丁目		市営野芥住宅	23,800	有	発掘調査	84重留	(9450)	6-1-38
22	重留村下	重留５丁目818	19941018	個人専用住宅	402.41	無		85入部	遺構・遺物なし	6-2-255
23	野芥	野芥４丁目615-1	19941018	戸建分譲住宅	661.15	無		84重留	遺構・遺物なし	6-2-259
24	有田	小田部１丁目135	19941025	個人専用住宅	330	無		82原	削平を受け、遺構なし	6-2-199
25	熊本	大字東入部1437-1	19941025	ガソリンスタンド	938.90	無		85入部	遺構なし	6-2-257

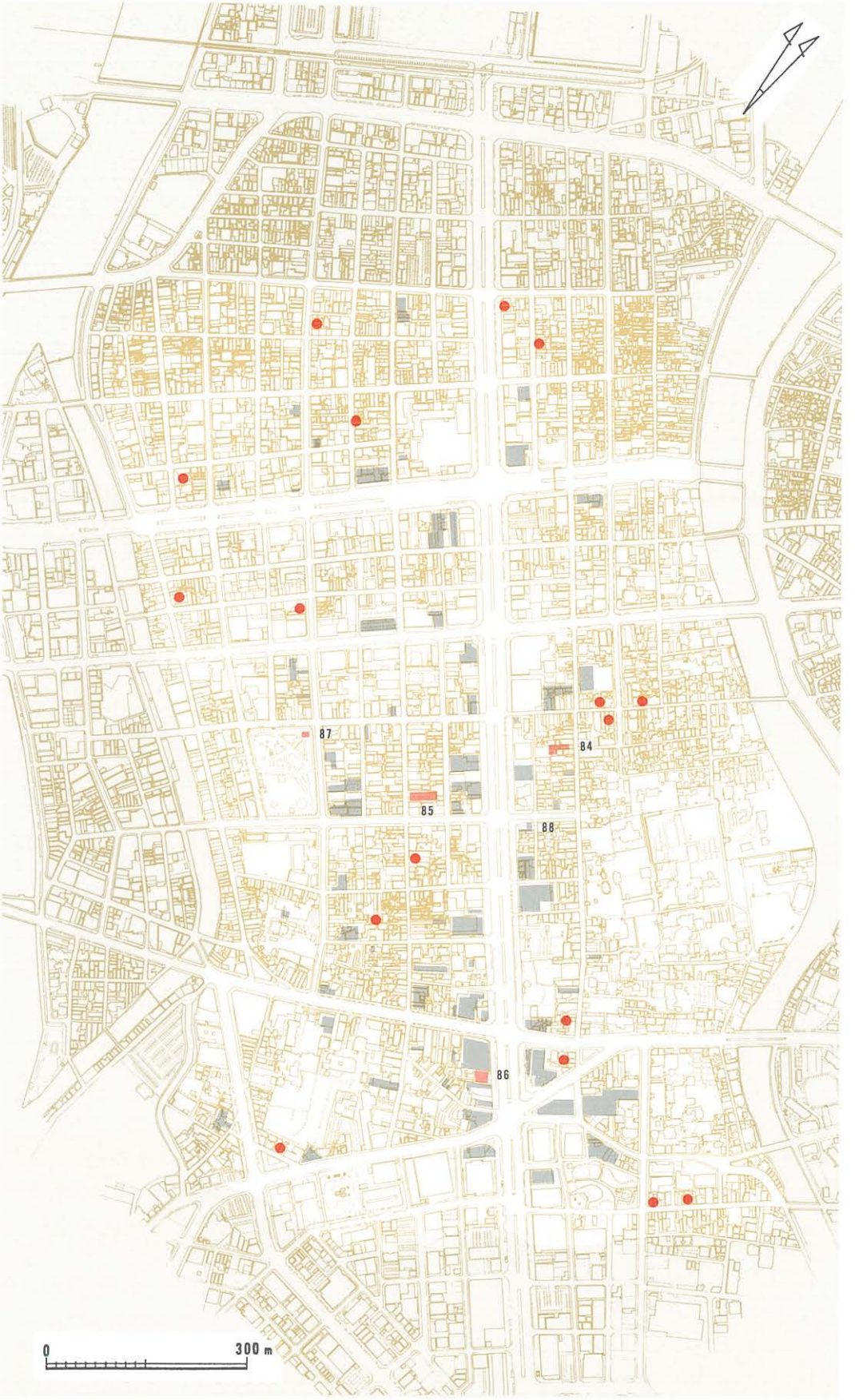
26		次郎丸１丁目224-7・8， ５丁目225-2の一部	19941108	ガソリンスタンド	1,320	無		83戸切 92野芥	旧河川	6-2-168
27	原	原７丁目881-1	19941117	戸建分譲住宅	2,881	有	発掘調査	82原	(9460)	6-2-287
28	四　箇	重留1033-10	19941117	個人専用住宅	165.30	有	慎重工事	84重留	弥生～古墳時代水路	6-2-294
29	東　入　部	東入部字冷水389-4	19941117	倉庫付事務所	130.86	有	慎重工事	早良16一ツ家	古代集落	6-2-286
30	有　田	有田２丁目14-7	19941124	個人専用住宅	245.01	有	慎重工事	82原	中世～近世の土坑	6-2-301
31	田　村	田村３丁目148-1	19941130	戸建分譲住宅	1,813	有	慎重工事	84田村	弥生～古墳時代の旧流路	6-2-260
32	重留村下	重留５丁目837-1外	19941130	戸建分譲住宅	3,200	無		85入部	削平を受け、遺構・遺物なし	6-2-304
33	原	原６丁目807-2	19941206	共同住宅	352.84	有	慎重工事	82原	中世の集落	6-2-314
34	原	原６丁目762-2	19941206	店舗兼共同住宅	647	無		82原	旧河川、遺構・遺物なし	6-2-315
35	西　新　町	西新５丁目564外６筆	19941207	共同住宅	1,953.08	有	発掘調査	72荒江	(9458)	5-2-453
36	田　村	田村３丁目769-1・4	19941221	貸店舗	4,976	有	慎重工事	93都地	中世集落	6-2-316
37	有　田	有田１丁目32-2	19941226	個人専用住宅	218.08	有	慎重工事	82原	弥生～古代集落	6-2-323
38		小笠木地内	19941207 ～ 19941208	圃場整備	63,000	無		早良４萩原 15小笠木 10脇山 11門戸口	地形の改変を受け、遺構・遺物なし	7-1-14
39	藤　崎	藤崎１丁目46-3，47～52	19950110 ～ 19950111	共同住宅	1,588.89	有	工事立会	81室見	包含層、遺構なし	6-2-333
40	田　村	田村４丁目551-1	19950118	共同住宅	1,276	有	慎重工事	84重留	中世の集落	6-2-332
41	次　郎　丸	次郎丸５丁目244-1	19950207	ガソリンスタンド	1,786	無		83野芥	遺構・遺物なし	6-2-310
42	四　箇	四箇521-1	19950208	個人専用住宅	1,330	無		84重留	遺構・遺物なし	6-2-388
43		大字東入部	19950216	道路改良	1,680	有		85入部	遺構・遺物なし	7-1-34
44	飯　倉　C	飯倉６丁目117-1外	19950222	分譲共同住宅		無		73茶山	遺構・遺物なし	6-2-404
45	西　新　町	高取１丁目136，137，139	19950316	共同住宅	386.57	無		72荒江	遺構なし	6-2-145

西　区

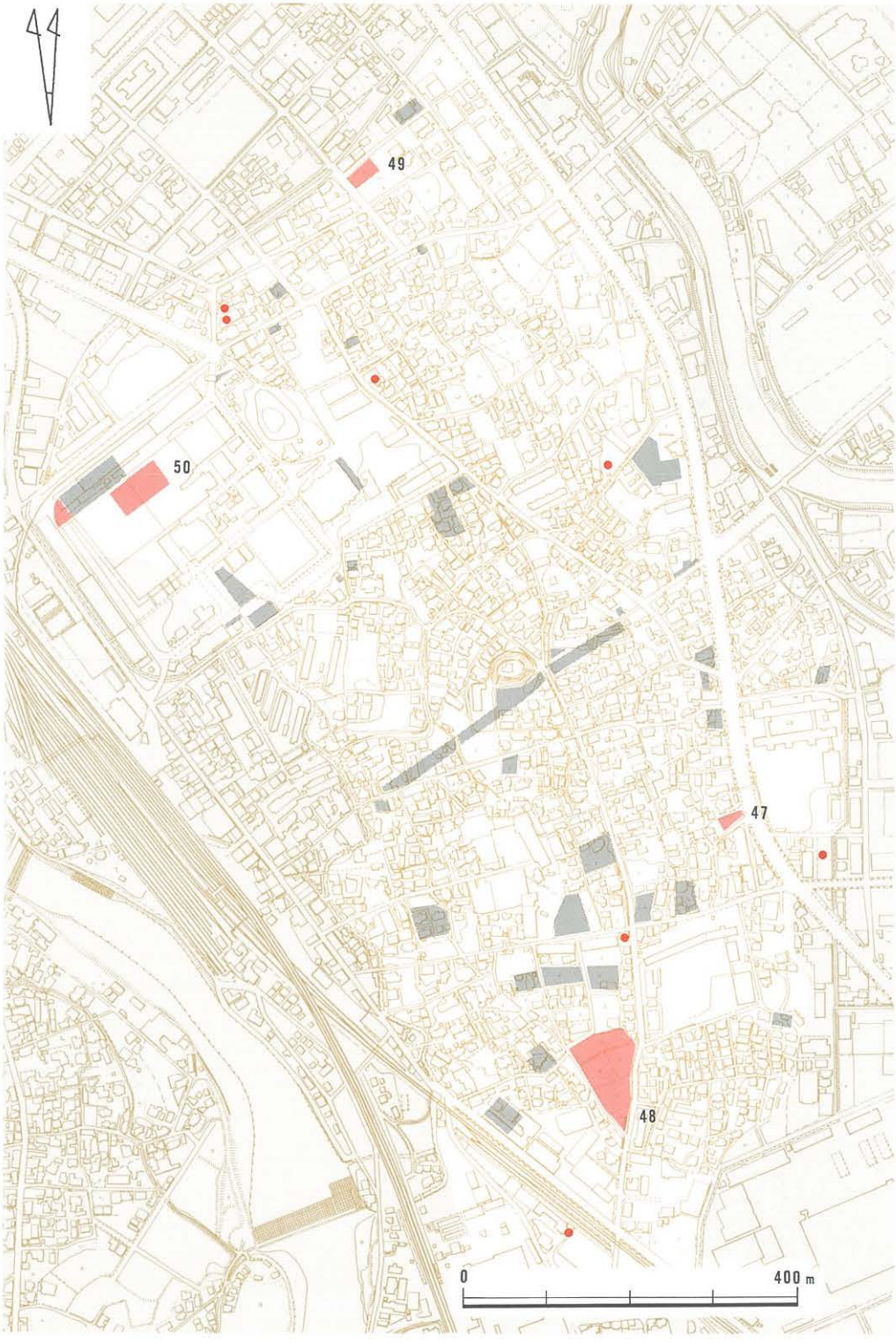
番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見(調査番号)	審査番号
1	大北	大字金武字大北2098	19940426	資材置場	1,566	有		93都地	弥生時代集落	6-2-8
2	野方塚原	野方4丁目1092-17	19940510	個人専用住宅	208.27	無		105叶岳	削平を受け、遺構・遺物なし	6-2-9
3	宮ノ浦畑中	大字宮ノ浦字サワリ1955-1	19940518	歯科医院建設	540	無		126宮ノ浦	低湿地、遺構・遺物なし	6-2-39
4	大塚	今宿町字大塚307-1	19940530	宅地造成	574.73	無		112今宿	削平を受けており、遺構・遺物なし	6-2-15
5	姪浜	姪の浜2丁目3423-5・6, 3426-2	19940531	共同住宅	393.07	有	工事立会	89姪浜	弥生～古墳時代の包含層	6-2-67
6	姪浜	姪の浜3丁目3139-1	19940621	商業ビル	215.79	無		89姪浜	砂丘後背地、遺構・遺物なし	6-2-96
7		拾六町2丁目16-1	19940623	体育館改築	1,135	無		91橋本	旧河川	6-1-573
8	飯氏	大字飯氏字柳	19940630	農業改良普及所	5,333	無		120周船寺	氾濫原、遺構・遺物なし	6-1-64
9		今津1694外	19940707	今津2号公園	450	有	慎重工事	118今津	ピット群	6-1-72
10	大原D	大字今津地内	19940624～19940728	新西部埋立場	20,000	有	発掘調査	128大原	(9518)	6-1-613
11	周船寺	大字飯氏字カリ町987-2・4	19940726	個人専用住宅	296.84	有		131泉	溝状遺構、弥生時代か	6-2-137
12	下山門北小路	下山門4丁目857-1外	19940804	共同住宅	3,150.38	無		90石丸	旧河川	6-2-135
13	打ヶ浦	野方6丁目602-2外24筆	19940810	戸建分譲住宅	6,607.66	無		91橋本 104十六町	遺物を少量含むが、遺構なし 弥生土器出土、遺構なし	6-2-142
14	野方久保	野方1丁目280-1, 289-1	19940906	変電所	1,688	無		91橋本		6-2-191
15		今宿青木	19940901	福岡前原道路		無		103長垂 112今宿	遺構・遺物なし	6-1-624

16	周船寺	周船寺２丁目452-1，461-2	19941005	共同住宅	1,414.73	無		120周船寺	遺構・遺物なし	6-2-177
17	周船寺	大字千里字庄ノ坪459-1・23	19941005	共同住宅	1,250.38	有	工事立会	132千里	弥生時代包含層	6-2-185
18	橋本１丁目	拾六町１丁目24-1	19941020	西体育館駐車場	941	有	慎重工事	91橋本	時期不明溝、水田	6-1-626
19	野方久保	野方２丁目501-1，501-3の一部	19941026	共同住宅	571.09	無		91橋本	旧河川と氾濫原	6-2-273
20		大字千里342-1外	19941102	千里中央公園	2,300	無			遺構・遺物なし	6-1-165
21	今宿	今宿１丁目	19941116	市営住宅建替	3,000	無		111横浜 112今宿	砂丘上、遺構・遺物なし	6-1-35
22	捨六町平田	石丸４丁目89-1，90-1，91-1	19941130	住宅展示場	4,109	無		91橋本	近世以降水田か	6-2-305
23	姪浜	姪の浜３丁目3524	19941207	共同住宅	211.12	無		89姪浜	遺構・遺物なし	6-2-307
24		拾六町団地	19941214	市営住宅建替	10,200	無		104拾六町	遺構・遺物なし	6-1-34
25	浦江B	大字金武780-2外５筆	19950111	戸建分譲	3,205.70	無		94金武	遺構・遺物なし	6-2-339
26		拾六町５丁目地内	19950207	道路改良	400	無		103長垂 104拾六町	削平を受け、遺構・遺物なし	6-1-480
27	周船寺	大字千里字ミドリ441-2・3	19950201	戸建分譲	1,976.2	有	発掘調査	132千里		6-2-362
28	大塚	大字今宿字前田76-1の一部，78-1の一部，78-4	19950214	ガソリンスタンド	1,284.52	有	慎重工事 工事立会	112今宿	弥生時代集落	6-2-393
29	牟多田	拾六町２丁目345，346～348-1，355，356	19950214	スーパーマーケット	5,420	無		91橋本	遺構・遺物なし	6-2-384
30	羽根原C	大字羽根戸小畑283-1	19950224	木材置場兼専用住宅	1,319	有	慎重工事	92戸切	須恵器が出土したが、遺構なし	6-2-400
31	畑ヶ尾	拾六町３丁目533，534	19950228	通信設備設置	258	有	慎重工事	91橋本	中世の集落	6-2-410
32	今宿	今宿2丁目925-2・7,926-1	19950315	ビル建設	416.19	無		112今宿	遺構・遺物なし	6-2-457

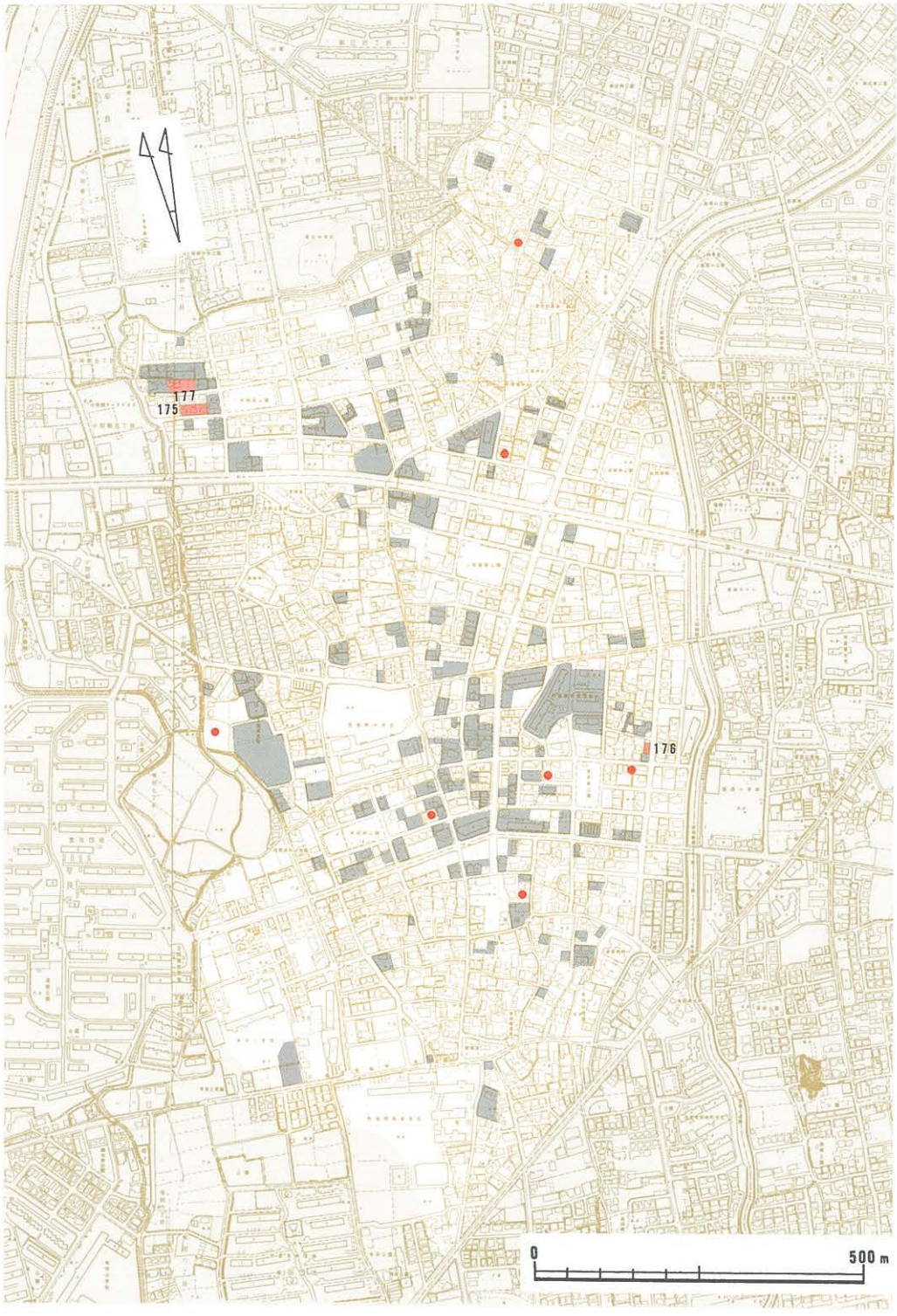
博多区比恵遺跡　平成６(1994)年度試掘・発掘調査地点一覧
●は試掘調査地点　　は発掘調査地点(番号は発掘調査一覧に一致)
　　は既発掘調査地点



博多区博多遺跡　平成６(1994)年度試掘・発掘調査地点一覧
●は試掘調査地点 ■は発掘調査地点(番号は発掘調査一覧に一致)
■は既発掘調査地点



博多区那珂遺跡　平成６(1994)年度試掘・発掘調査地点一覧
●は試掘調査地点 ▭は発掘調査地点(番号は発掘調査一覧に一致)
▭は既発掘調査地点



早良区有田遺跡　平成６(1994)年度試掘・発掘調査地点一覧
●は試掘調査地点■は発掘調査地点(番号は発掘調査一覧に一致)
■は既発掘調査地点

II　発掘調査の概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、西部地区（早良区、城南区、西区）を本課第１係、東部地区（中央区、博多区、東区、南区）を同第２係が担当している。なお、年度の調査量の多少により係間で随時調査業務の補完を行っている。

また、本市では調査資料の保管・管理のため、個々の遺跡の発掘調査に固有の遺跡登録番号・調査番号をつけて登録し、数字・アルファベットで調査資料を検索するシステムを採用している。以下の概要記述で調査番号とするものはこの番号であり、西暦年（上２桁）＋調査番号（下２桁）の４桁数字で表示する。さらに調査番号は、調査開始の時に設定するため１遺跡の調査が複数年度にまたがる場合、開始年度のみに番号登録される。

１）　平成６(1994)年度の概要

平成６年度実施した発掘調査は、下表の63件と、前年度からの継続調査６件の計69件である。調査件数では、博多区が30件、早良区が18件と多く、城南区が１件のみである。次に事業別で見ていくと、民間事業では、共同住宅建設・商業ビル建設・個人専用住宅兼事務所建設が多く、全体の半分を占める。公共事業では道路建設・改良・拡幅と福岡空港の整備に伴うものが多い。また福岡城内の史跡整備に伴う調査、志賀島・玄界島の遺跡総合調査がある。

発掘調査は、恒久性の高い構築物（道路・公共施設・RC造の構築物など）と、地下げ・造成工事・圃場整備などの工事により、遺構破壊の恐れがある場合と、学術的価値が高く、将来、史跡指定等保存処置が必要な時などを調査の対象としている。なお、博多遺跡群などは重層的に文化層が所在し、GL下４～５ｍにおよぶ遺構面の深さの為、地下室の建設がないおおむね開発が200㎡以下の非木造の建物については、地中梁を遺構面より上げてもらうなど設計変更をお願いし、遺跡破壊を最小限にとどめ、将来の調査に託する例もある。

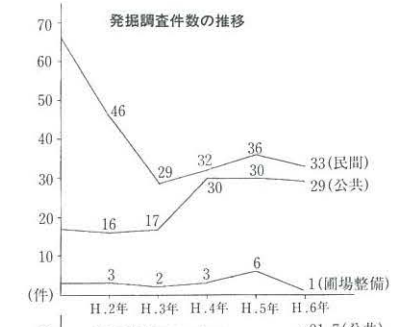
平成６年度は、東区の三苫区画整理地内の永浦遺跡で、弥生時代中期の大規模な集落と灌漑用の溜井が発見され、また市内西部の早良区有田遺跡群の第177次調査では弥生時代中期の甕棺墓から中国渡来の鏡などが出土するなど、市内各地で貴重な発見があった。

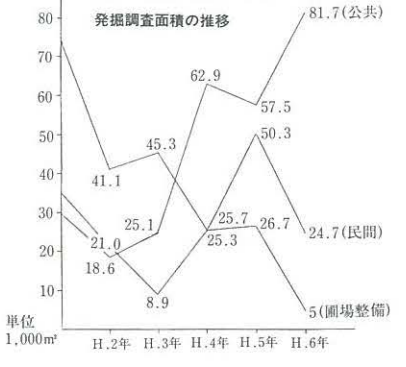
発掘調査件数の推移　（件）

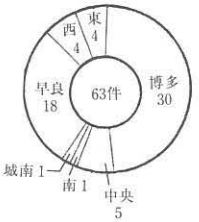
	H.2年	H.3年	H.4年	H.5年	H.6年
民間	46	29	32	36	33
圃場整備	3	2	3	6	1
公共	16	17	30	30	29
計	65	48	65	72	63

発掘調査面積の推移　（㎡）

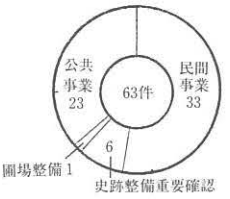
	H.2年	H.3年	H.4年	H.5年	H.6年
民　間	21,000	8,923	25,694.5	50,259.6	24,689
圃場整備	41,132	45,285	25,332.0	26,678.0	5,000
公　共	18,609	25,048	62,943.0	57,517.3	81,655
計	80,741	79,256	113,969.5	134,454.9	111,344



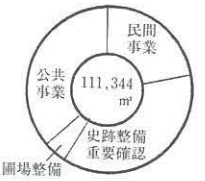




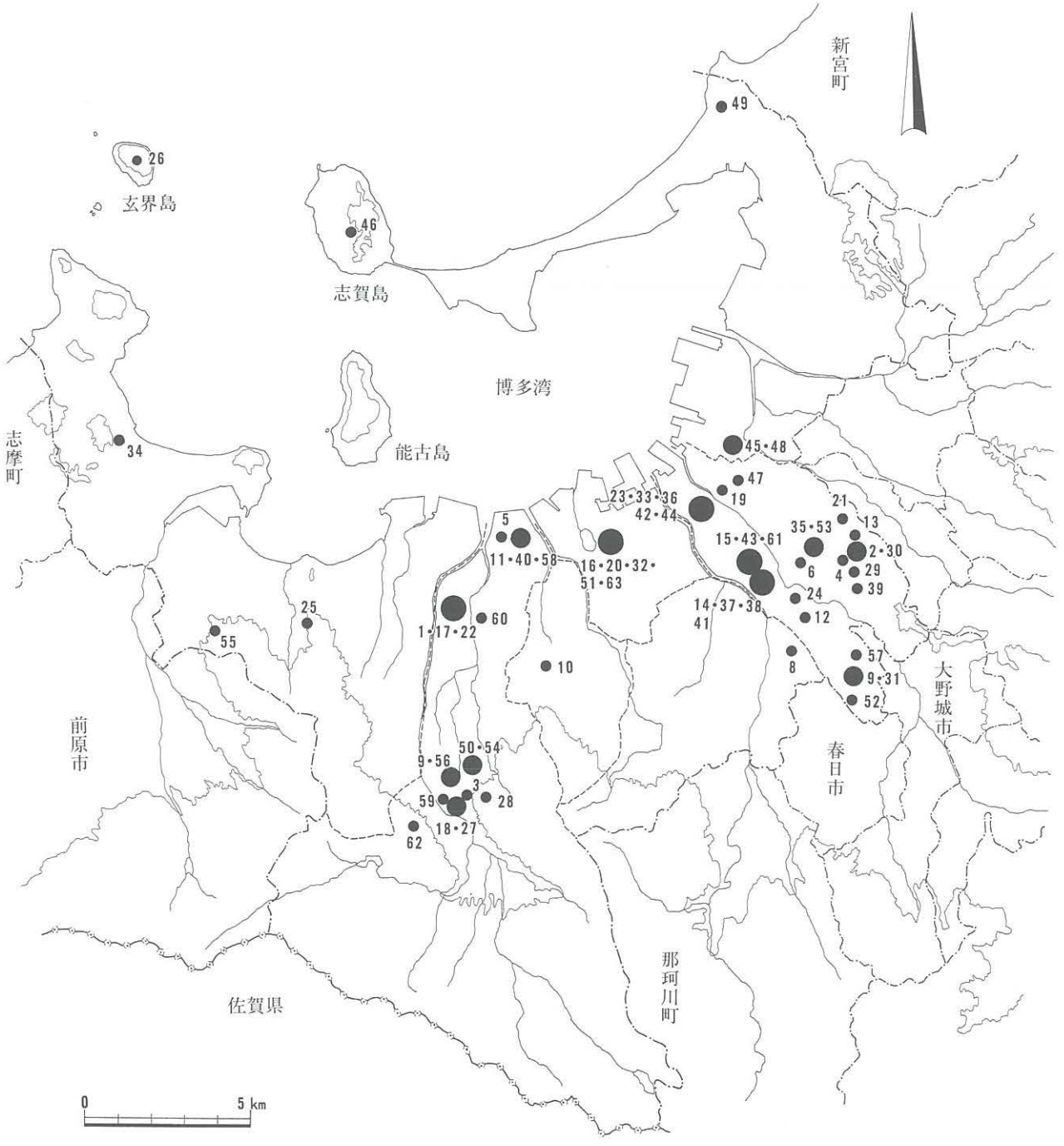
各区別調査件数



事業別調査件数



事業別調査面積比



平成 6 年度発掘調査状況と調査地点の位置　（調査地点の番号は発掘調査一覧21～22ページと一致する。）

平成６(1994)年度埋蔵文化財発掘調査一覧

調査番号	遺跡名	次数	遺跡略号	調査原因	調査種類	原因者	調査地所在地	対象面積(㎡)	調査面積(㎡)	調査面積古墳	調査期間	担当者	分布地図番号	遺跡概要	事前審査番号
9401	有田遺跡群	175	ART	共同住宅建設	民受	毛利三男	早良区小田部５丁目160～164	656	656		940404～940607	榎本義嗣	室見82-0309	弥生甕棺墓、弥生～中世集落	5-2-263
9402	下月隈Ｂ遺跡群	2	SHB	道路建設	令達	土木局街路課	博多区下月隈地内	4,400	1,100		940401～940525	松村・白井	下月隈10-0031	近世集落	5-1-734
9403	重留村下遺跡群	1	SGM	道路建設	令達	土木局道路建設課	早良区重留１丁目510-2･511-3	1,250	1,114		940401～940708	屋山洋	重留85-0324	弥生～古墳集落	6-1-45
9404	下月隈Ｃ遺跡群	1	SHC	道路建設	令達	土木局街路課	博多区下月隈地内	3,000	885		940408～940627	松村･白井	下月隈10-2625	弥生集落	5-1-734
9405	藤崎遺跡群	26	FUA	自宅兼共同住宅建設	民受・補	宮原エミ子	早良区高取２丁目41・47	216	130		940419～940514	荒牧宏行	室見81-0307	土抗群	5-2-395
9406	東那珂遺跡	2	ENK	道路建設	令達	土木局道路建設１課	博多区東那珂３丁目地内	600	315		940408～940520	吉武学	雀居23-2635	古代～中世集落	5-1-131
9407	雑餉隈遺跡群	5	ZSK	市営住宅建設	令達	建設局住宅改良課	博多区新和町１丁目2～6	5,900	4,784.5		940411～941018	宮井善朗	雑餉隈13-0054	弥生～古代集落	5-1-50
9408	井尻Ｂ遺跡群	5	IZB	医院建設	民受	坂口常夫	南区井尻５丁目171-3	171	131	1	940411～940428	山口・菅波	井尻25-0090	古墳１基、弥生～古墳集落	5-2-455
9409	四箇遺跡群	25	SIK	戸建分譲住宅建設	民受	株式会社鴻池組	早良区重留７丁目1068-1	500	462		940411～940520	池田祐司	重留84-0320	縄文包含層、中世水田	5-2-448
9410	カルメル修道院遺跡	4	KMS	共同住宅建設	民受	九州電工ホーム㈱	城南区神松寺３丁目1616-2外	600	1,388		940411～940728	中村・屋山	七隈74-0257	弥生～古墳の集落・墓地	5-2-146
9411	西新町遺跡	7	NSJ	共同住宅建設	民受	三井建設株式会社	早良区西新５丁目53・54	368	300		940416～940522	常松幹雄	荒江72-0240	弥生甕棺墓・集落	5-2-487
9412	麦野Ａ遺跡群	4	MGA	共同住宅建設	市単	川上清三・康子	博多区麦野１丁目27-1・2	36	6		940411～940412	佐藤一郎	麦野12-0048	古代井戸１基	5-2-204
9413	天神森遺跡群	3	STM	道路建設	令達	土木局街路課	博多区下月隈地内	3,000	830		940518～940716	松村・白井	下月隈10-0029	弥生墓地	5-1-39
9414	那珂遺跡群	47	NAK	共同住宅建設	民受	山浦ハル	博多区那珂２丁目100-1	712	450		940518～940628	佐藤一郎	板付24-0085	弥生時代集落、中世集落	5-2-389
9415	比恵遺跡群	53	HIE	商業ビル建設	民受	シェル・エンタープライズ	博多区博多駅南６丁目7-27	1,609	1,095		940524～940922	下村智	東光寺37-0127	弥生～中世集落	5-2-381
9416	福岡城跡	26	FUE	変電所建設	民受	九州電力株式会社	中央区赤坂１丁目102-2	430	255		940523～940806	吉武学	舞鶴60-0193	赤坂門石垣	5-2-164
9417	有田遺跡群	176	ART	個人専用住宅建設	国補	坂口良一	早良区有田１丁目6-1	180	123		940524～940616	池崎譲二	原82-0309	古墳～古代集落	6-2-29
9418	東入部遺跡群	9	HGI	道路建設	令達	道路建設第１課	早良区東入部地内	321	152		940525～940628	池田祐司	入部85-0343	縄文、弥生、古代集落	6-1-49
9419	堅粕遺跡群	6	KKS	共同住宅建設	公受	住宅都市整備公団	博多区千代2丁目163,164の一部	1,591	444.5		940601～940630	大庭康時	吉塚35-0122	弥生集落	5-1-731
9420	福岡城跡	27	FUE	鴻臚館跡範囲確認	市単	教育委員会	中央区城内1-1	50	50		940606～940731	田中・瀧本	舞鶴60-0193	奈良～平安建物群	
9421	席田大谷遺跡群	5	OTN	公園整備	令達	公園建設課	博多区東平尾公園内	150	100	1	940610～940728	常松幹雄	下月隈10-0024	古墳１基、甕棺墓３基	6-1-641
9422	有田遺跡群	177	ART	共同住宅建設	民受	金子亮司	早良区小田部５丁目150-3	760	480		940620～940731	榎本義嗣	原82-0309	甕棺墓	6-2-3
9423	博多遺跡群	84	HKT	共同住宅建設	民受	株式会社ユニカ	博多区上呉服町119･122･123	328	60		940630～940831	大庭康時	千代博多48-0121	中世都市	5-2-66
9424	板付遺跡	66	ITZ	道路建設	令達	土木局街路課	博多区板付２・３丁目地内	2,500	545		940601～940830	白井克也	板付24-0094	旧河川･溝･土坑	5-1-734
9425	鋤崎古墳群Ａ群	3	SKK-A	文化施設建設	民受	西部ガス株式会社	西区大字今宿青木字鋤崎421-4	10,000	6,090	18	940704～950829	荒牧･榎本･大塚	今宿112-0631	古墳群と集落	60-2-219
9426	玄界島海底遺跡	2	GKK	遺跡発掘事前総合調査	国補	教育委員会	西区大字玄界島	40,000	40,000		940601～940630	塩屋勝利	玄界島123・124	中世～近世海底遺物散布地	
9427	東入部遺跡群	10	HGI	圃場整備	令達・補	農水局土木農林	早良区東入部地内	4,997	5,000		940707～941125	池崎・屋山	早良16-0343	縄文包含層、奈良～平安集落	6-1-554
9428	古田Ｂ遺跡	1	FRB	公園建設	令達	公園建設課	早良区重留５丁目235外	5,440	4,358.5		940705～941104	池田祐司	入部85-0361	古墳～平安～中世集落	6-1-156
9429	立花寺Ｂ遺跡群	1	RGB	都市高速道路建設	公受	都市高速道路	博多区大字上月隈地内	563	430		940701～940825	吉武学	板付24-2626	平安～中世集落	4-1-704
9430	下月隈Ｂ遺跡群	3	SHB	道路建設	令達	土木局街路課	博多区下月隈地内	689	430		940812～940831	佐藤一郎	下月隈10-0031	弥生時代集落	5-1-734
9431	雑餉隈遺跡群	6	ZSK	共同住宅建設	民受	信国征八郎	博多区新和町２丁目1-35	374	481		940812～940914	加藤(隆)・宮井	雑餉隈13-0054	古代集落	4-2-395
9432	福岡城跡	28	FUE	鴻臚館跡範囲確認	市単・補	福岡市教育委員会	中央区城内1-1	850	850		940801～950315	田中・瀧本	舞鶴60-0193	近世屋敷地	
9433	博多遺跡群	85	HKT	共同住宅建設	民受	三井不動産株式会社	博多区店屋町37	973.8	670		940901～950729	大庭康時	天神49-0121	古墳～中世都市	5-2-477

9434	大原E遺跡	1	OBE	道路建設	令	達	環境局	西区大字今津	10,000	870		940516～940731	加藤良彦	大原128-2592	古代集落	5-1-25
9435	雀居遺跡	7	SAS	空港整備	公	受	運輸省第四港湾建設局	博多区雀居	5,000	1,350		940801～941226	松村・白井	雀居23-2633	弥生墓地、古墳集落	6-1-30
9436	博多遺跡群	86	HKT	ホテル建設	民	受	西嶋正司	博多区祇園町13・16・17	479	479		940824～941125	佐藤一郎	天神49-0121	古墳～中世集落	4-2-29
9437	那珂遺跡群	48	NAK	共同住宅建設	民	受	川辺俊範	博多区那珂６丁目290外	5,541	2,500		940901～941102	吉武学	塩原38-0085	古墳～中世集落	5-2-275
9438	那珂遺跡群	49	NAK	共同住宅建設	民	受	日下部隆則	博多区東光寺町１丁目148外	997	723		940905～941102	加藤隆也	東光寺37-0085	弥生集落、中世溝・墓	5-2-328
9439	立花寺遺跡群	4	RGG	道路建設	令	達	博多区土木農林課	博多区立花寺539-3外	2,100	590		940905～941027	中村啓太郎	金隈11-0038	古代～中世集落	6-1-95
9440	西新町遺跡	8	NSJ	共同住宅建設	民	受	株式会社原田組	早良区西新５丁目15-43	1,435	610		940906～941118	加藤良彦	荒江72-0240	弥生中期～古墳時代集落	6-2-147
9441	那珂遺跡群	50	NAK	工場整備	民	受	アサヒビール株式会社	博多区竹下３丁目1-1	6,380	3,000		940929～941220	下村智	東光寺37-0085	弥生墓地・集落、中世集落	6-2-86
9442	博多遺跡群	87	HKT	電話通信施設建設	民	受	NTT	博多区上川端町7	100	100		941003～941122	大庭康時	天神49-0121	中世集落	5-2-335
9443	比恵遺跡群	54	HIE	商業ビル建設	民	受	松井スミ・田代喜代江	博多区博多駅南４丁目15-3	281	187		941011～941122	吉武・山口・白井	東光寺37-0127	弥生集落	6-2-193
9444	博多遺跡群	88	HKT	共同住宅建設	民受・補		加藤和雄	博多区御供所町311外	355	255		941001～950314	佐藤一郎	天神49-0121	弥生墓地、古代～中世集落	5-2-345
9445	箱崎遺跡	6	HKZ	共同住宅建設	民	受	株式会社第一双葉	東区箱崎３丁目2437-1・4	630	430.5		941020～950131	宮井善朗	箱崎34-2639	中世～近世集落	3-2-188
9446	志賀島遺跡群	4	SKS	遺跡発掘事前総合調査	国	補	福岡市教育委員会	東区大字志賀島・弘・勝馬	5,770,000	145	1	940511～941031	塩屋勝利	勝馬96・弘97A-1	縄文～中世集落、墓地	
9447	吉塚遺跡群	2	YSZ	共同住宅建設	民	受	森俊子	博多区堅粕４丁目327外	600	337		941107～941228	吉武学	博多駅36-0123	古墳～古代集落	6-2-33
9448	箱崎遺跡	7	HKZ	共同住宅建設	民	受	ダイア建設株式会社	東区箱崎１丁目2711外	200	85		941115～941227	加藤隆也	箱崎34-2639	中世集落	5-2-486
9449	三苫遺跡群	2	MTM	小学校建設	令	達	土地公社	東区三苫７丁目地内	16,500	1,200		941107～950127	榎本義嗣	三苫28-A-3	弥生～古墳集落	6-1-610
9450	野芥遺跡群	4	NOK	市営住宅建設	令	達	住宅改良課	早良区野芥４丁目	23,800	12,000		941107～950812	常松・中村・屋山	重留84-0319	弥生～中世集落	6-1-38
9451	福岡城跡	29	FUE	裁判所庁舎建設	公	受	高等裁判所	中央区城内1-1	1,024	1,276		941101～950224	力武卓治	舞鶴60-0193	古墳溝、近世屋敷	6-1-90
9452	南八幡遺跡群	5	MHM	商業ビル建設	民	受	熊澤章子・由美子	博多区寿町２丁目84，85-1	227	56		941201～941220	白井克也	麦野12-0051	弥生時代集落	6-2-254
9453	雀居遺跡	8	SAS	空港整備	公	受	運輸省第四港湾建設局	博多区雀居	20,000	4,850		941107～950320	松村・白井	上臼井22-2633	古代集落・水田	6-1-30
9454	野芥遺跡群	5	NOK	外環状道路建設	公	受	九州地方建設局	早良区野芥2丁目・千隈6丁目	6,200	5,555		940420～941215	山崎龍雄	野芥83-0319	弥生時代溝、古墳時代集落	6-1-196
9455	飯氏古墳群A群	1	IIK-A	重要遺跡確認調査	国	補	福岡市教育委員会	西区大字飯氏字マツヲ	5,000	195	1	941214～950420	杉山富雄	飯氏121-0698	古墳時代中期前方後円墳	
9456	四箇遺跡群	26	SIK	道路建設	令	達	早良区土木農林課	早良区重留７丁目8-8	850	75		941215～950118	屋山洋	重留84-0320	縄文時代包含層	6-1-127
9457	井相田C遺跡群	5	ISC	共同住宅建設	民	受	村上義友	博多区井相田2丁目8-3の一部	2,998	900		950109～950303	吉武学	麦野12-2630	古墳時代水田、古代集落	6-2-107
9458	西新町遺跡	9	NSJ	自宅兼共同住宅建設	民受・補		松十醤油株式会社	早良区西新５丁目564外	1,953	920		950119～950424	加藤良彦	荒江72-0240	弥生～古墳時代集落	5-2-453
9459	清末遺跡群	4	KYS	下水道整備	公	受	下水道局	早良区東入部・西入部	1,000	672		950209～950403	屋山洋	金武94-0341	古墳～中世時代集落	6-1-327
9460	原遺跡群	17	HAR	戸建分譲住宅建設	民	受	株式会社末永ホーム	早良区原７丁目881-1	2,881	730		950206～950322	山崎龍雄	原82-0311	弥生～古墳時代集落	6-2-287
9461	比恵遺跡群	55	HIE	共同住宅建設	民	受	日下部新蔵	博多区博多駅南６丁目16-2	738	390		950213～950322	宮井善朗	東光寺37-0127	弥生～古墳時代集落	6-2-122
9462	長峰甕棺遺跡	2	NGM	土取り	国	補	板倉英雄	早良区大字東入部735-2	50	35		950213～950310	池田祐司	早良16-0461	弥生甕棺墓	6-2-380
9463	福岡城跡	30	FUE	鴻臚館跡範囲確認	市	単	福岡市教育委員会	中央区城内1-1	50	50		950201～950309	瀧本・田中	舞鶴60-0193	近世土塁	

9401　有田（ありた）遺跡群第175次調査（ART-175）

所在地　早良区小田部５丁目160外
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940404～940607
調査面積　656㎡
担当者　榎本義嗣
処置　調査後破壊

位置・環境　有田遺跡群は室見川東岸の洪積世独立台地上に立地し、小谷の開析によって八手状に派生する支丘を有する。本調査区は北西側に舌状に延びる支丘上の尾根筋及び西側緩斜面に位置する。遺構は表土下約40cmの鳥栖ローム上で検出され、標高は5.5～5.9ｍを測る。

検出遺構
・弥生時代：円形竪穴住居（前期）１軒
　甕棺墓（中期）１基
・古墳時代：方形竪穴住居（前期）２軒
・中世後半：掘立柱建物　４棟
　溝　３条
　土坑、ピット群

竪穴住居・甕棺墓はいずれも調査区東側の尾根付近に位置し、削平のため遺存状況は良好でない。方形住居には壁溝が巡り、１軒にはベッド状遺構が認められた。

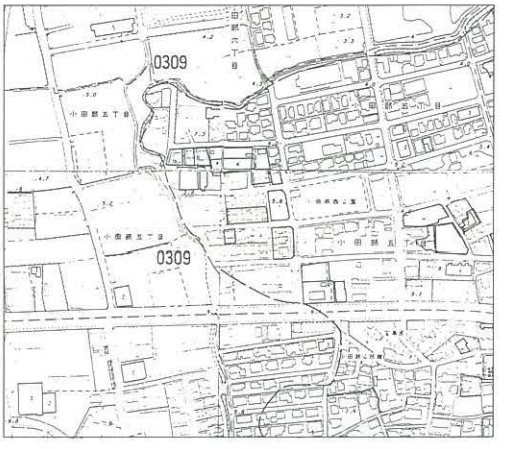
調査区東側で検出された南北方向の溝は幅約７ｍ、深さ１ｍを測り、断面逆梯形の濠状を呈する。

比較的遺構遺存状況の良好な調査区西側で確認された掘立柱建物は、１又は２間×４間で、３棟の主軸方向は濠に並行、直行する。

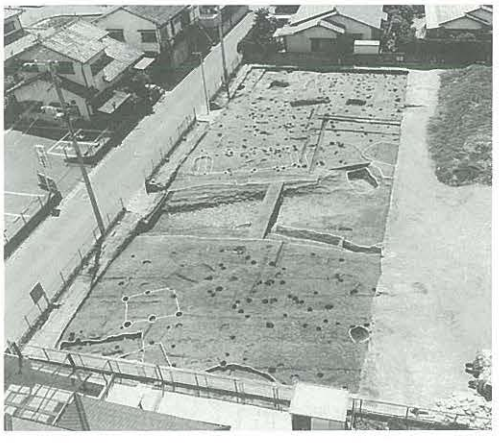
出土遺物　遺物の総量はコンテナ34箱である。大半は上述した濠からの出土で、土師器・瓦質土器・李朝等の輸入陶磁器がある。他に弥生土器・古式土師器・黒曜石等が出土した。

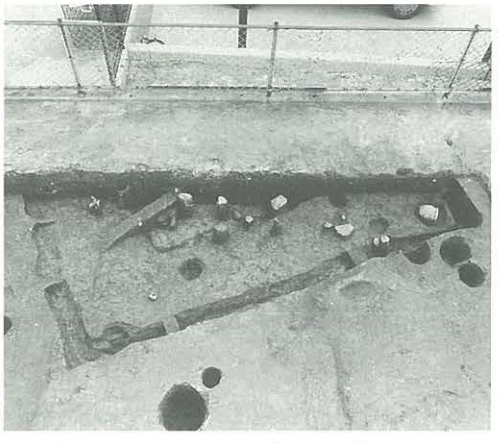
まとめ　方形竪穴住居は、本調査区が位置する舌状台地東側緩斜面に形成される、弥生時代終末から古墳時代の集落の一端である。また、濠は第35・106・125次調査で確認されている溝と、一連の遺構の可能性が高く、その規模・性格の究明は今後の課題といえよう。

なお、報告書は1997年に刊行予定である。



1．調査地点の位置（082-0309 1:8,000）


2．調査区全景（東から）


3．竪穴住居検出状況（西から）

9402　下月隈（しもつきぐま）B遺跡群第２次調査（SHB-2）

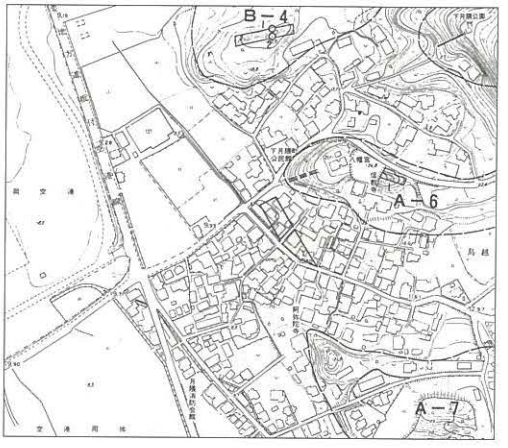
所　在　地　博多区下月隈地内
調査原因　道路建設
調査期間　940401～940525
調査面積　1,100㎡
担　当　者　松村道博・白井克也
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、福岡空港の東側にあたり、席田丘陵より西側へ伸びる丘陵の先端から裾部に立地する。標高は10.5ｍ前後を測り、東から西へ緩やかな傾斜を示す。調査地点の東側は自然地形を保っているが、西側は騒音対策から空港緑地となり、埋め立てられ平坦となっている。

検出遺構　今回の調査で検出した主要な遺構は、溝状遺構８条、土壙５基、井戸２基があり、他にピット群多数がある。調査区の中央部に、東西に延びる生活用道路があるため南北に分かれているので、便宜上南区、北区として説明を行う。南区では、北西隅に宅地化されるまで使用されていた溜池があり、それに流れ込む幅４ｍの溝が、調査区の長辺に沿って南東方向へ延びている。他に古代から中世にいたる蛇行する溝が４条、土壙が３基と現代の瓦井筒の井戸が１基検出出来た。北区では、東西に延びる溝が１条あり、その南に素掘りの井戸１基、北側に土壙２基とピット群が見られる。溝は幅0.8ｍ、深さ0.5ｍを測り、直線的に延びていることから集落に伴う区画の溝であろう。遺物は少なく、13～14世紀の杯等が出土している。井戸は素掘りで掘り方は大きく、木製井筒をもつ15世紀前後の時期である。ピット群には根石等もあり掘立柱建物の柱穴と考えられるが、建物の復元までには至らなかった。

出土遺物　コンテナ３箱出土している。大部分は近～現代にかけての陶磁器である。他に弥生式土器、土師器、須恵器、龍泉窯の青磁等、中世の土器も少量出土している。

ま　と　め　今回の調査では、古代から近世に至る柱穴、土壙、溝を検出した。大部分は中世から近世にかけての集落で、ピットはその時期の掘立柱建物で、丘陵裾部に展開する農村集落の端部にあたるものであろう。



1．調査地点の位置図(010-0031 1:8,000)

2．調査区全景（北西から）

3．調査区西側

9403　重留村下遺跡群第Ⅰ次調査（SGM-Ⅰ）

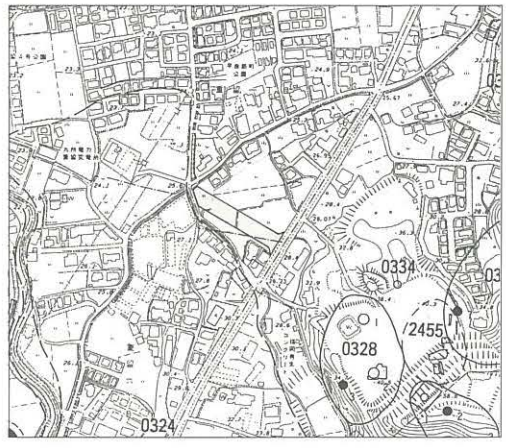
所　在　地　早良区重留１丁目510-2,511-3
調査原因　道路建設
調査期間　940401～940708
調査面積　1,114㎡
担　当　者　屋山洋
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、油山山塊から北西に延びる樹枝状の小支脈の先端部から一段落ちたところに位置する。東側は国道263号線に面し、西側に緩く傾斜する。南西側は金屑川の支流に削られている。調査区の東側は、水田耕作によってかなり削平されており、遺構の遺存状況は悪かったが、西側は、中世の包含層の下に弥生から古墳時代の遺構が良好に遺存していた。

検出遺構
・弥生時代中期：溝、土壙
・古墳時代　　：竪穴住居、土壙
・古代　　：溝、土壙
・中世　　：包含層

出土遺物　遺構・包含層からコンテナ50箱の遺物が出土した。遺物としては弥生土器・土師器・須恵器・石製品・鉄製品・製鉄関連遺物等がある。

ま　と　め　今回の調査では、５世紀中頃～６世紀後半の竪穴式住居が10軒ほど検出された。弥生時代の遺構は少なかったが、後世の遺構のほとんどから、多量の弥生時代中期前半の土器が出土しており、多くの遺構が存在していたものと思われる。1997年報告書刊行予定である。



1．調査地点の位置（085-0324 1:8,000）

2．遺跡全景（東側）

3．遺跡全景（西側）

9404　下月隈C遺跡群第Ⅰ次調査（SHC-1）

所　在　地　博多区下月隈地内
調査原因　道路建設
調査期間　940408～940627
調査面積　885㎡
担　当　者　松村道博・白井克也
処　　置　調査後破壊

位置・環境　御笠川西岸の低地に位置する下月隈C遺跡群の北端近くに当たり、遺構検出面は標高6.8m前後、溝の底が標高5.8m前後である。

調査区中央では粗砂層、調査区東西両端近くでは灰緑色粘質土を地山としている。

検出遺構　東西に長い調査対象地に3カ所の調査区を設け、中央を第Ⅰ調査区、東を第Ⅱ調査区、西を第Ⅲ調査区としたが、遺構は第Ⅰ調査区に主に分布している。

第Ⅰ調査区では、地山の砂層とその上の黒色粘質土の間に黒褐色土層があり、遺構はこの黒褐色土層を切っている。黒褐色土層中には、遺物はほとんどみられなかった。遺構としてはピットと若干の土壙があり、2間×1間の建物（弥生時代終末）もみられる。ピットには礎板や柱の遺存するものがある。第Ⅰ調査区の遺構群は、第Ⅱ・第Ⅲ調査区に延びていない。

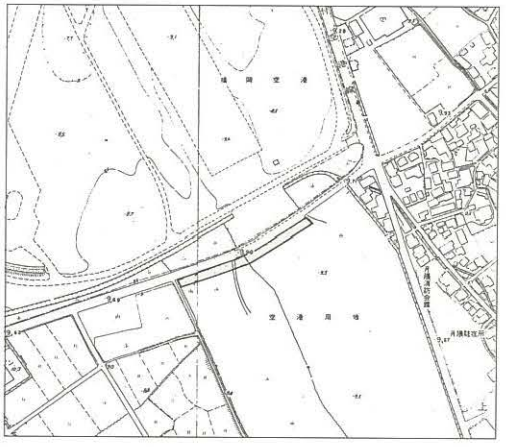
第Ⅱ調査区は、中央から東側に溝3条を検出したが、SD02・SD03は自然の流路とみられる。杭が打ち込まれている。溝の覆土は第Ⅰ調査区でみられた地山上の黒褐色土に似ている。溝の出土遺物は弥生中期に属す。

第Ⅲ調査区では、遺構はほとんどなく遺物も皆無に近かった。西側は地形が徐々に低くなる。

出土遺物　遺構・包含層（第Ⅰ調査区黒色粘質土）からコンテナ40箱の遺物が出土した。弥生時代中期～終末の土器と、建物の礎板・柱が出土した。

まとめ　1993年の試掘で初めて存在が確認された下月隈C遺跡群は、低地に点在する微高地上に集落等が営まれていたものと推定される。今回の調査は限られた範囲のものであったが、試掘時の想定を裏づけるとともに、今後の調査に手がかりを与えるものとなった。

1996年報告書刊行予定である。



1. 調査地点の位置(010-2625 1:8,000)

2. 第Ⅰ調査区全景（東から）

3. 第Ⅱ調査区全景（東から）

9405　藤崎（ふじさき）遺跡群26次調査（FUA-26）

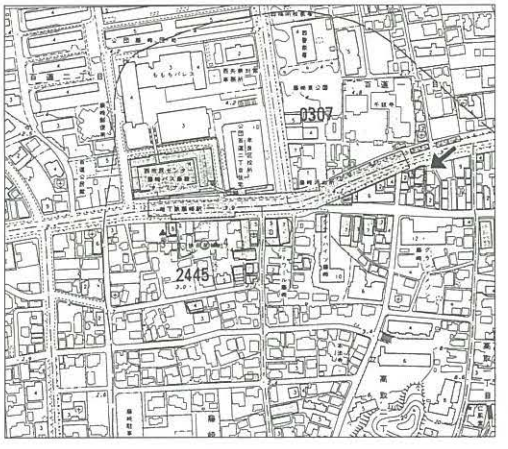
所　在　地　早良区高取２丁目41,47
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940419～940514
調査面積　130m²
担　当　者　荒牧宏行
処　　置　調査後消滅

位置・環境　調査地点は藤崎遺跡群の東縁辺に位置する。現況は宅地で、表土から100cmまでは埋め立てた整地層である。客土の下部には、地山と近似した砂丘砂層が層厚20～30cm堆積する。以下、包含層である暗褐色砂がほぼ水平に層厚約20cm堆積し、その下層が地山の明黄褐色砂となる。地山の砂丘砂は海浜砂に近く、南側では青灰色の海浜砂が地山から浅いレベルでみられる。地山の標高は3.50ｍである。

検出遺構　平面は不整形で、底面も起伏の大きいものが多い。大半は自然的なものと考えられるが、土壙状の落ち込みを８基検出した。古墳時代後期までの遺物を含む。

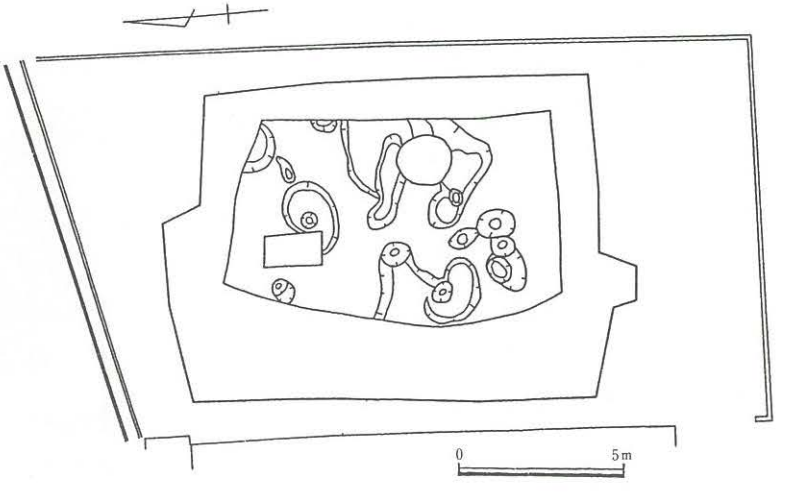
出土遺物　出土遺物は少なく、総量にしてコンテナ１箱に満たない。弥生中期土器、古墳時代後期の須恵器が多いが、夜臼式土器片が出土したことは注目される。

ま　と　め　藤崎遺跡群の東限が概ね判断できた。南側も当地から近い位置で後背湿地になるものと考えられる。また、夜臼式土器の出土は、藤崎遺跡群の砂丘地帯に遺跡が形成された時期を示唆するものであろう。



1．調査地点の位置（081-0307 1:8,000）

2．調査区全景（南から）



3．遺構全体図（1/200）

9406　東那珂（ひがしなか）遺跡第２次調査（ENK-2）

所　在　地　博多区東那珂３丁目地内
調査原因　道路建設
調査期間　940408～940520
調査面積　315㎡
担　当　者　吉武学
処　　置　調査後破壊

位置・環境　三笠川中流域東側の沖積微高地上に位置する。現状は宅地跡で、標高は約７ｍを測る。昔の国道３号線を挟んで東西２か所を調査しており、この国道は南北に長い沖積微高地上を縦断する形で造られたのではないかと考えられる。

検出遺構　東側を１区、西側を２区とした。遺構は主に１区で検出した。検出した遺構は以下の通り。

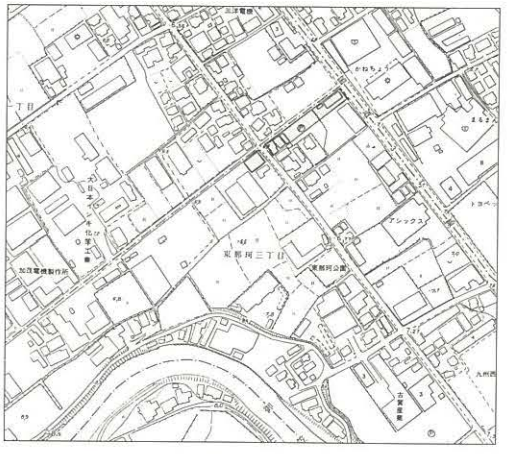
・古墳時代前期：方形に曲がる溝　1
・古代　　：溝　1
　　掘立柱建物　2
　　遺物包含層
・中世　　：大溝　1
　　水田水路

古代の遺物包含層は中世の水田造営時の整地層と考えられる。

出土遺物　古代の遺物を主体に、コンテナ約10箱分が出土した。古代の遺物は奈良時代末～平安時代初頭のものがほとんどであり、主要な遺物としては、白磁、カマド片などがある。

古墳時代の遺物は、溝から甕・壺１個体ずつが出土したのみである。

ま　と　め　２次調査の西約250mに１次調査地点が位置するが、２次調査の検出遺構は時期的にも内容的にも１次調査のそれに良く似ている。１次調査では、古墳時代初頭の竪穴住居跡と土坑、古代の掘立柱建物を中心とする集落跡、および中世の水田跡が検出された。１、２次調査の結果から見て、東那珂遺跡の中には幾つかの沖積微高地が存在し、この上に島状に各時代の集落跡が点在している状況が想定できるのである。



1．調査地点の位置（023-2635 1:8,000）

2．調査区全景（東から）

3．１区全景（南から）

9407　雑餉隈遺跡群第5次調査（ZSK-5）

所在地　博多区新和町1丁目2～6
調査原因　市営住宅建設
調査期間　940411～941018
調査面積　4784.5m²
担当者　宮井善朗
処置　調査後破壊

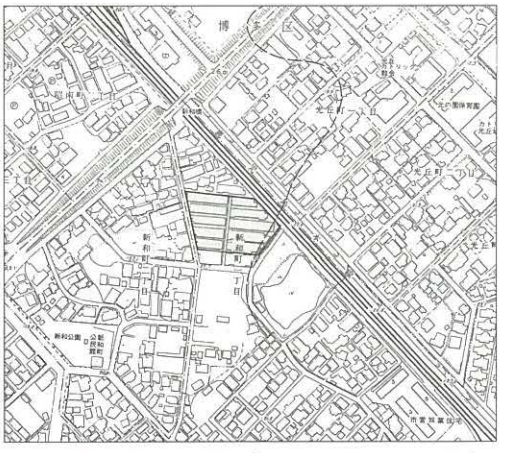
位置・環境　雑餉隈遺跡は福岡市の最南端、春日市との境に位置する。立地としては、須玖丘陵の北東に延びる台地の上に当る。

検出遺構　今回の調査では弥生時代と、奈良時代の遺構、遺物が多数検出された。まず弥生時代の遺構としては、竪穴住居跡、貯蔵穴などが見つかっている。住居跡は、円形のもの4基、方形のもの2基が見つかっている。弥生時代の前期末から中期のものである。また貯蔵穴は8基ほどが見つかった。方形のものばかりである。弥生時代には遺跡内の広い範囲に集落が広がっていたことがわかる。

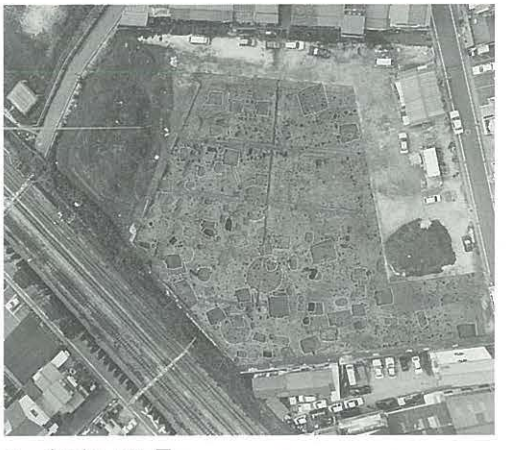
奈良時代の遺構としては、51基に及ぶ住居跡があげられる。住居跡はほぼ調査区全体に広がり、また奈良時代を超えることのない短い期間の集落である。51基の住居跡にもほとんど重複がない。住居跡の形は正方形で、小さいものでは一辺3mほど、大きなものでも一辺5mほどである。住居の中には竈があり、ほとんどの住居では竈の後の壁からトンネルを掘って、煙を外に出す工夫をしている。竈が何度か作り替えられた住居もあり、トンネルが2本以上掘られているものもある。住居の他には井戸や、土壙などが見つかっている。

出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ55箱である。弥生土器、須恵器、土師器が多数出土している。土器以外の生活用品として鉄製の紡錘車が出土している。また中国製の白磁片が数点出土している。

まとめ　雑餉隈遺跡5次調査の成果としては、奈良時代の大規模な集落があげられよう。周辺にも南八幡遺跡など、竪穴式住居を主体とする集落が検出されている。奈良時代には近畿地方などでは既に掘立柱建物になっており、竪穴式住居ばかりからなる雑餉隈遺跡のような集落は、当時の社会の底辺を支えていた人々の村ということができよう。当時大宰府に勤務していた万葉歌人である山上憶良の「貧窮問答歌」に歌われた人々に重なるものがある。



1．調査地点の位置（013-0054 1:8,000）



2．調査区全景

3．36号住居址検出状況

9408　井尻（いじり）B遺跡群第5次（IZB-5）

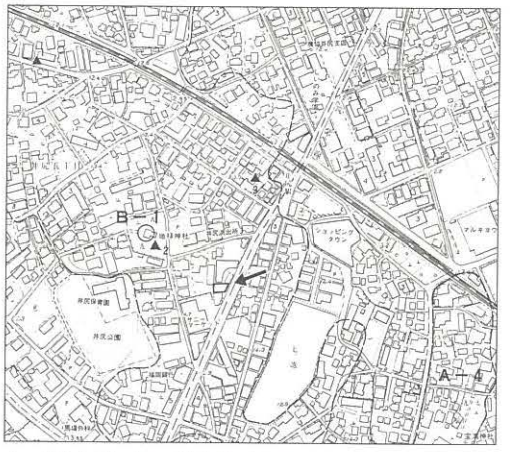
所在地　南区井尻5丁目171-3
調査原因　医院建設
調査期間　940411～940428
調査面積　131㎡
担当者　山口譲治・菅波正人
処置　調査後破壊

位置・環境　井尻B遺跡群は御笠川、那珂川に挟まれた平野内に位置し、春日丘陵から那珂川の蛇行に沿って延びてくる洪積丘陵に立地する。本調査地は、遺跡群の南側中央部分にあたり、第2次調査地点の北側に位置する。遺構面は表土から20cm下の鳥栖ローム層で、標高約14mを測る。

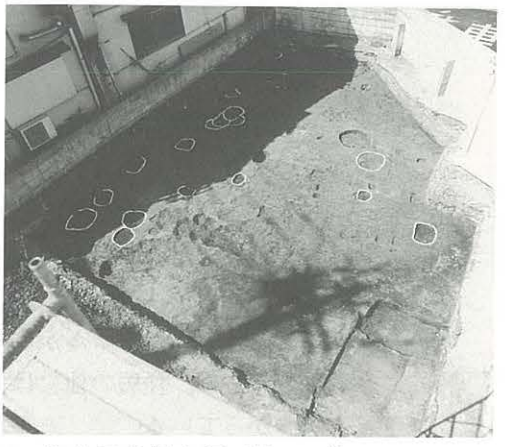
検出遺構　遺構は弥生～古墳時代の柱穴、古墳の周濠等を検出した。古墳の周濠は第2次調査で検出された井尻B1号墳の一部で、削平のため盛土や主体部は検出できなかった。古墳の時期は埴輪や須恵器などから5世紀後半に位置づけられている。

出土遺物　遺物は主に周濠から円筒埴輪・朝顔形埴輪・刀子等が出土した。（コンテナ5箱）

まとめ　調査成果は第2次調査に重複するが、周濠が深さ25～50cm程遺存する。周濠は円形に巡り、今回の調査で円周の約1/2が検出されたことになる。幅は2.5～3.5mを測る。墳形は円墳と考えられるが、東側に張り出しがつく可能性もある。墳径は周溝の内側の下端で約19m、外側で約24mを測る。周濠内に崩落した石等はほとんど見られないことから、葺石はなかったものと考えられる。主体部は検出されておらず、形態は不明である。未調査部分で掘り方などが検出されることも考えられる。



1．調査地点の位置（025-0090 1:8,000）


2．調査区北側全景（東から）

3．井尻1号墳周濠（南から）

9409　四箇（しか）遺跡群第25次調査（SIK-25）

所在地　早良区重留７丁目1068-1
調査原因　戸建分譲住宅建設
調査期間　940411-940520
調査面積　462㎡
担当者　池田祐司
処置　調査後破壊

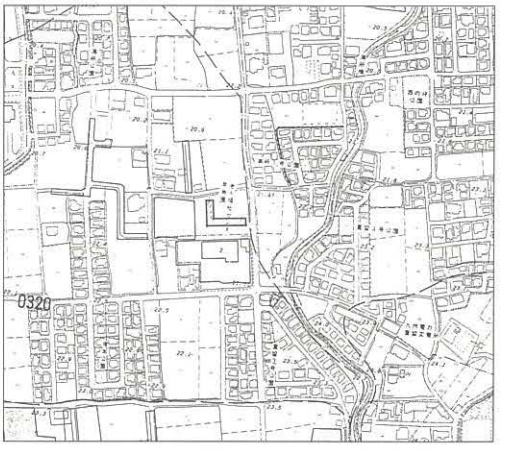
位置・環境　本調査区は、四箇遺跡群の東端に位置する。周辺では第22次～24次調査で弥生時代から中世の河川、水路が検出されている。調査前は1.5mの土盛りが成されており、それ以前は水田であった。旧水田は標高25mを測る。

検出遺構　・縄文時代：土坑、包含層
・古墳時代：河川
・中世　　：溝、足跡状遺構

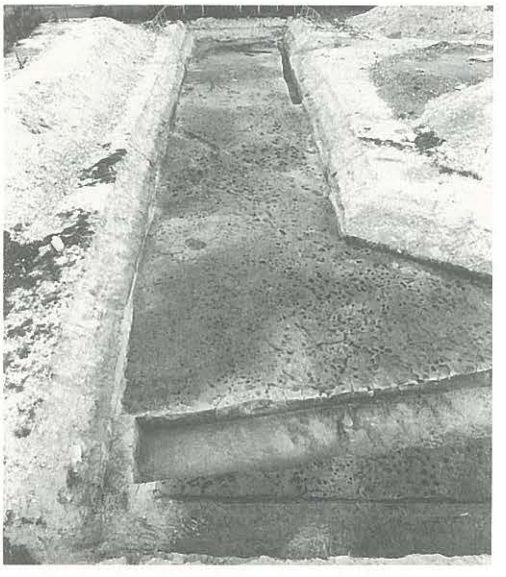
出土遺物　遺構、包含層からコンテナ１箱の遺物が出土した。遺物としては、縄文晩期の土器、石鏃、石斧、弥生土器、土師器、須恵器がある。

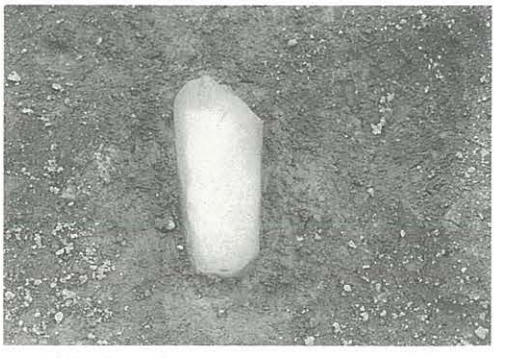
ま と め　１層旧耕作土下に２層黒褐色土が広がり、この下の３層黄褐色土を掘り込んで遺構が検出され、溝、足跡状遺構等周りの調査と同様の遺構の広がりが見られた。３a層は22次調査で後期初頭の遺物が出土した層と類似するが、当期の遺物は見られず、縄文晩期の遺物がわずかに出土したのみである。

報告書は『四箇遺跡25次調査　熊本遺跡２次調査』福岡市埋蔵文化財調査報告第418集として1995年に刊行している。



1．調査地点の位置（084-0320 1:8,000）


2．調査区全景（南から）


3．遺物出土状況

9410　カルメル修道院（しゅうどういん）遺跡第４次調査（KMS-4）

所　在　地　城南区神松寺３丁目1616-2外
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940411～940728
調査面積　1388㎡
担　当　者　中村啓太郎・屋山洋
処　　置　調査後破壊

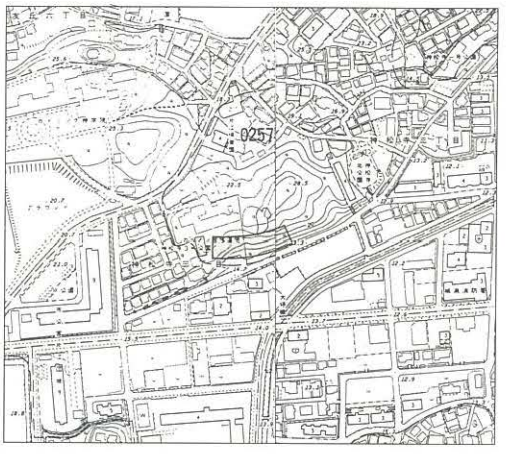
位置・環境　カルメル修道院遺跡は早良区神松寺に位置し、油山山塊から北に広がる低丘陵上に立地する。これまでに３次にわたる調査が行われている。昭和49年の１次調査では弥生時代前期末～中期初頭の甕棺墓２基を検出した。昭和51年の２次調査では甕棺墓３基、木棺墓６基を検出した。このうち１基の木棺墓より、錫釧３個が出土した。平成２年の３次調査では甕棺墓６基、土坑（墓）９基を検出した。

検出遺構
・弥生時代：甕棺墓　２基
　　土壙墓　19基
　　貯蔵穴　１基
・古墳時代：住居址　２軒
・時期不明：焼土坑　２基

出土遺物　弥生時代の壺、甕、甕棺、土壙墓より投弾、古墳時代須恵器の蓋坏、土師器の甕、壺等総量でコンテナ10箱出土した。特筆すべき遺物としては古墳時代の住居から出土した鉄刀があげられる。

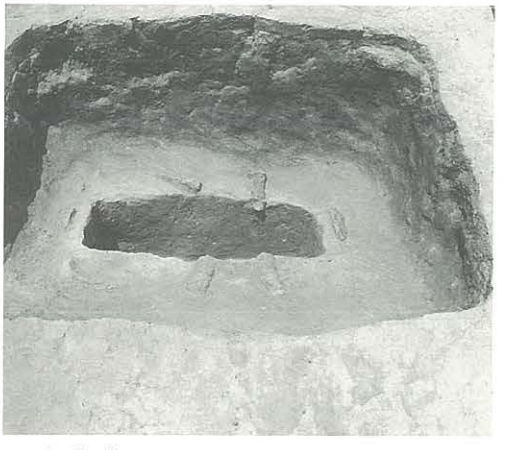
ま　と　め　今回の調査では、興味深い遺構がいくつか検出された。土壙墓については１つの墓壙に２つの主体部をもつもの、割竹形の蓋を持つと考えられるもの等があり、弥生時代の墓制を考える上で重要である。小児用甕棺からは石剣の切先が出土した。古墳時代の刀を出土した遺構は、住居である可能性が高い。出土状況が特異であり、これをどう考えるかが今後の問題である。

報告書は1996年刊行予定である。



1．調査地点の位置（074-0257　1:8,000）

2．土壙墓1


3．土壙墓2

9411　西新町（にしじんまち）遺跡第７次調査（NSJ-7）

所　在　地　早良区西新５丁目53,54
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940416～940522
調査面積　300㎡
担　当　者　常松幹雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、博多湾に面する古砂丘上に立地する。標高３～４ｍ前後である。これまでの調査で、弥生時代の墓地や古墳時代の集落跡が確認されている。今年度の調査区は、東西に延びる砂丘の南斜面にあたる。東接する１次調査区では、弥生中期の甕棺墓が検出されている。

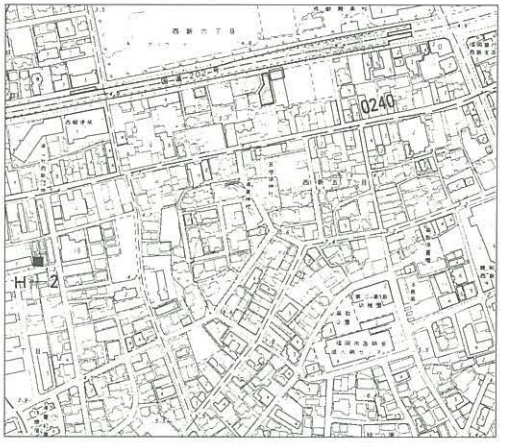
検出遺構　甕棺墓５基と住居跡２基、土壙５基が検出された。甕棺墓は、調査区の南部で確認された。中型棺２基と小児棺３基よりなる。いずれも弥生中期後半に比定される。

住居跡は、隅丸長方形の平面プランを呈している。調査区の中央で検出されたSC01は、撹乱をうけていたが、長軸4.0ｍ、短軸3.0ｍに復元される。弥生後期終末に比定される。出土した遺物は在来系土器で占められる。また覆土から碧玉製管玉１点が出土したが、甕棺の装身具が混入したものかもしれない。

SC03は、小判形に近い平面プランを呈している。長軸5.4ｍ、短軸3.9ｍをはかり、長軸上に２箇所の主柱穴を確認した。住居の壁面は40cm以上残っていた。覆土から出土した土器から弥生後期終末に比定される。住居跡の南東部で検出された直径１ｍほどの隅丸方形の土坑の覆土は、炭化物を多く含み、鋳造鉄斧１点も出土した。住居跡と同時期と断定できないが、位置関係を含め検討したい。

出土遺物　甕棺と住居跡・土坑から出土した弥生土器は、計30箱となる。

ま　と　め　住居跡から検出された土器は在来系の器種によって占められており、集落の構成を考える上で重要である。とくにSC03は、平面プランが明瞭で砂地であるにもかかわらず、遺構の遺存状況は驚くほど良好であった。遺構はさらに南側に広がるようであり、これは砂丘をセトルメントとして理解する場合、稲作や鍛冶、土器作りを含めた生産管理機能が、後背湿地に位置していたことを暗示するものであろう。



1．調査地点の位置(072-0240 1:8,000)

2．調査区全景（東から）

3．SC03（西から）

9412　麦野（むぎの）A遺跡群第4次調査（MGA-4）

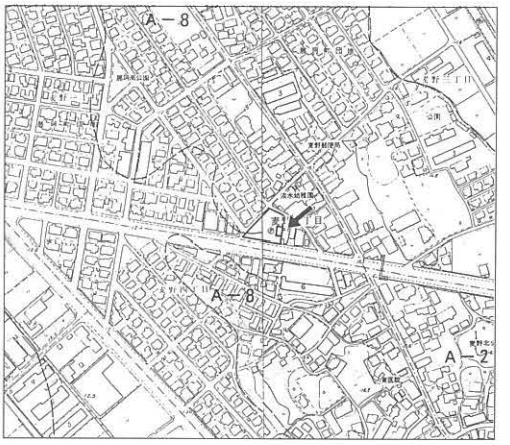
所　在　地　博多区麦野1丁目27-1,2
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940411～940412
調査面積　6㎡
担　当　者　佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　麦野A遺跡は福岡平野を貫流する御笠川と那珂川とに挟まれた洪積台地、中位段丘上に立地する。今回の調査区域は麦野A遺跡の西側に位置し、東側では麦野A遺跡第3次調査が行われている。

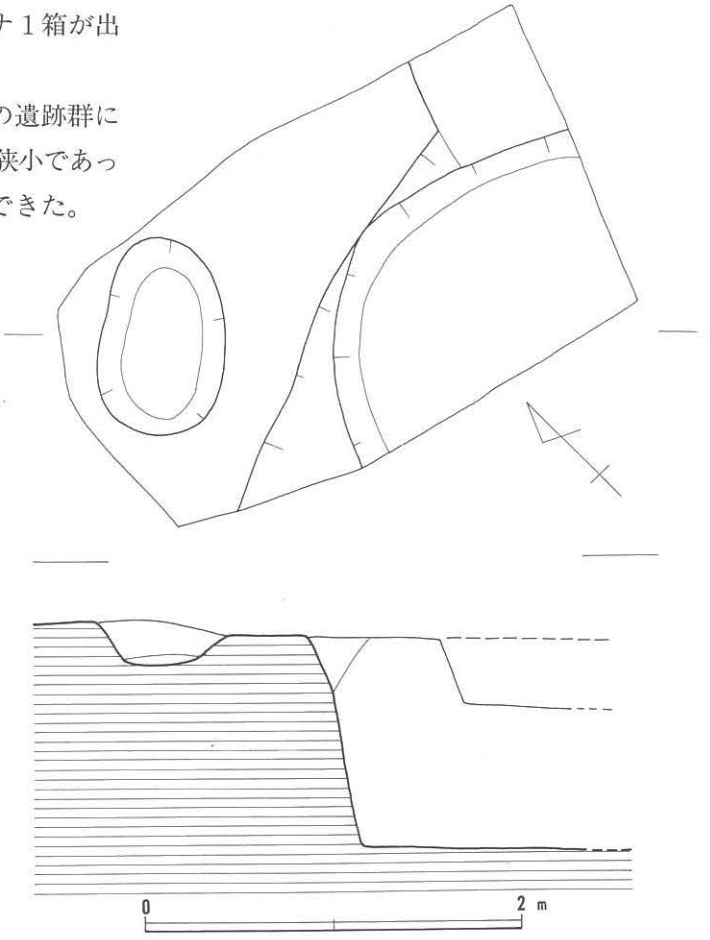
検出遺構　試堀調査によって遺構がみとめられた6㎡を対象とする限定された調査である。現地表下130cmの客土を除去すると暗褐色粘質土の包含層が確認され、さらに30cm掘り下げると地山の八女粘土層上面で古代の井戸・土壙各1基を検出した。井戸は全体の約1/4を検出した。残存する深さ90cmを測り、直径は約3mと推定される。井戸枠等は検出されなかった。

出土遺物　遺物は、井戸から土師器片コンテナ1箱が出土した。

ま　と　め　古代の集落が広がる麦野周辺地域の遺跡群において、今回の調査は甚だ調査面積が狭小であったが、集落の西端を押さえることができた。



1．調査地点の位置（012-0048 1:8,000）



2．遺構配置実測図（1/40）

9413　天神森（てんじんもり）遺跡群第３次調査（STM-3）

所在地　博多区下月隈地内
調査原因　道路建設
調査期間　940516～940716
調査面積　830㎡
担当者　松村道博　白井克也
処置　調査後破壊

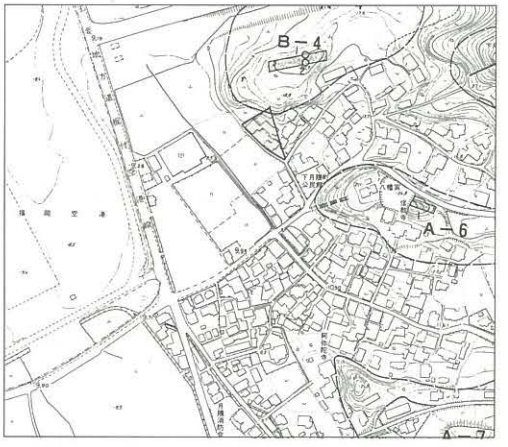
位置・環境　福岡平野と粕屋平野を二分する月隈丘陵の先端部、席田丘陵から西側へ延びる丘陵裾部に立地する。標高11ｍ前後を測る丘陵斜面にあたる。調査地点は宅地化され階段状に造成を受ける。

検出遺構　主要な遺構は弥生時代前期の木棺墓、甕棺墓が大半を占め、その他に奈良時代の土壙、溝等が見られる。木棺墓は二列埋葬で計29基検出でき、その内19基から棺外の副葬小壺が出土している。木棺墓は隅丸長方形で、その規模は長軸約1.8ｍ、短軸約１ｍを測る。相互の切り合いは少ないが18～21号木棺墓のように４基が切り合うものも見られ、出土土器からも板付Ⅰ～Ⅱ式にかけての墓地で併行して甕棺も埋葬されている。甕棺墓は計44基検出したが、大部分は小児用の小型の甕棺で壺と壺の組合せが多い。成人用の大型棺３基出土しているが、いずれも中期まで下がる時期である。前期後半の甕棺には棺外副葬の小壺が数例見られる。

出土遺物　遺物はほとんどが甕棺でコンテナ130箱出土している。甕棺の他に副葬小壺28個体・須恵器・土師器がコンテナ１箱ある。

ま と め　標高11ｍ前後を測る丘陵裾部に弥生時代前期の木棺墓、甕棺墓が計73基もの墓地が形成されていたのは驚きであった。墓地群は更に北側の道路下にも拡大し、南側では階段状の削平を受け、破壊、消滅したものも少なからずあり、総計で100基前後になるものであろう。木棺墓は副葬小壺から板付Ⅰ～Ⅱ式の時期考えられ、甕棺も板付Ⅱ式の時期に埋葬が開始され、中期中頃まで墓地が造営されている。木棺墓は丘陵裾部に築かれ、丘陵と直角方向に二列に列埋葬されていることも注目される。

報告書は1996年に刊行予定である。



1．調査地点の位置（010-0029 1:8,000）

2．調査区全景（北から）

3．西側土壙墓・甕棺墓（西から）

9414　那珂（なか）遺跡群第47次調査（NAK-47）

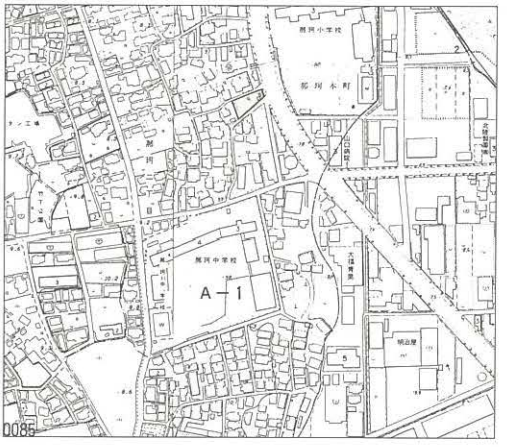
所　在　地　博多区那珂２丁目100-1
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940518～950628
調査面積　450㎡
担　当　者　佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　福岡平野を貫流する御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地、中位段丘上の先端部近くに那珂遺跡は位置する。第47次調査区は那珂遺跡群の南東部にあたり、標高8.5ｍを測る。

検出遺構　弥生時代中期の土壙・柱穴が調査区の西側で集中して検出されたが、後世の削平が著しかった。15～16世紀の遺構では、溝２条・地下式壙３基を検出した。溝は土層観察から空堀とみられ、平行する両溝間には土塁が築かれていた可能性がある。SD01溝は幅1.4ｍ、深さ1.0ｍを測る断面台形の溝で、L字に屈曲し調査区の北側で切れる。SD05溝は幅3.0ｍ、深さ1.2ｍの断面V字形の溝である。SK02・03地下式壙は両溝の間でSD01溝のコーナーに出入口を向けた状態で検出された。残存する深さ60㎝前後を測り、両溝より底面が50㎝ほど高い。平面形はSK02が隅丸方形、SK03は不整円形を呈する。SD05の東側では、SK09地下式壙が検出された。17～18世紀の遺構では井戸・土壙各１基が検出された。

出土遺物　SD05の底面から土師器杯・小皿がコンテナ１箱、SK03からは銅製分銅、金銅製鍬形、輝緑凝灰岩製硯、陶器小皿が出土している。

ま　と　め　今回の調査で検出された溝は居館の防御機能をもつものであろうが、重複して検出された地下式壙との関連等、周辺での調査例とあわせ検討すべき課題は多い。SK03から出土した多様な遺物は、その性格が判然としない地下式壙の機能を考える上でも貴重な資料である。



1．調査地点の位置（024-0085　1:8,000）

2．調査区全景（東から）

3．SD05溝（南から）

9415　比恵(ひえ)遺跡群第53次調査（HIE-53）

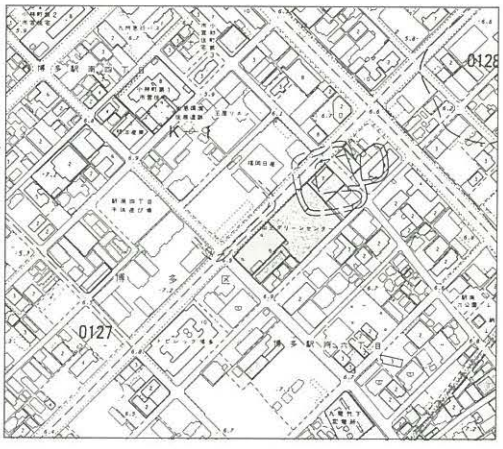
所　在　地　博多区博多駅南６丁目7-27
調査原因　商業ビル建設
調査期間　940524～940922
調査面積　1,095㎡
担　当　者　下村　智
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、御笠川と那珂川に挟まれた標高６ｍの台地上に立地し、比恵遺跡群のほぼ中央部に位置する。学史的に有名な比恵の環溝集落のすぐ西側にあたり、周辺には第９・10・15・50次調査地点が広がっている。一帯は戦前の区画整理でかなり削平され、かつ、調査地点は真砂土で盛土されていた。地表下－0.5～1.0ｍで遺構が掘込まれた基盤の黄褐色ロームに達する。

検出遺構
・弥生時代中期：掘立柱建物５棟、井戸１基、土坑２基、溝４条、不定形土坑３基
・古墳時代前期：竪穴住居址４軒、井戸３基、溝１条、不定形土坑１基
・古墳時代後期：竪穴住居址１軒、井戸１基、土坑２基、溝７条、不定形土坑９基
・古代　：井戸２基、溝５条
・中世　：井戸１基、溝３条
・時期　未確定：溝４条、不定形土坑６基

出土遺物　各遺構からはコンテナ63箱の遺物が出土した。特にSD10の断面逆台形の大溝からは、弥生時代中期末の甕、丹塗袋状口縁壺、無頸壺、鉢、高杯、器台、丹塗桿頭形土製品など数十個体がまとまって出土している。また、包含層からは青銅製鋤先が２点出土している。弥生時代終末から古墳時代前期にかけての井戸や竪穴住居址からは、庄内・布留式土器が出土している。中世の井戸からは、石鍋などとともに火切臼の出土が注目される。

まとめ　第53次調査では、比恵遺跡群に広がる弥生時代から古墳時代にかけての集落遺構の連続を確認することができた。SD10は第15次・35次・40次・41次・46次の大溝と関連するものであろう。
報告書刊行予定は1996年である。



1．調査地点の位置（037-0127、1:8,000）

2．東半部全景（西から）

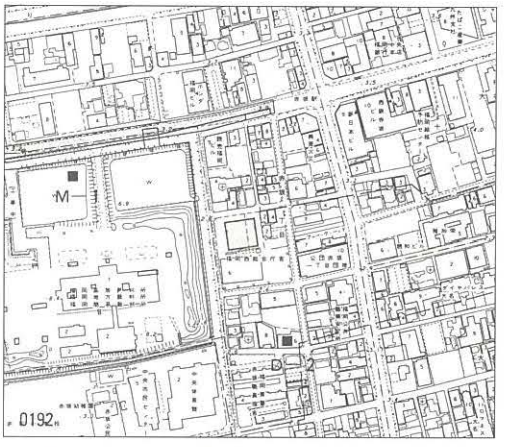
3．SE27遺物出土状況（北から）

9416　福岡城跡（FUE-26）

所　在　地　中央区赤坂１丁目102-2
調査原因　変電所建設
調査期間　940523～940806
調査面積　255㎡
担　当　者　吉武学
処　　置　設計変更により保存

位置・環境　福岡城は、関が原の役の恩賞として筑前国を授かった黒田長政が、慶長６年から７年がかりで築いた平山城である。戦前は陸軍の管轄にあり、昭和32年に国指定史跡となった。

調査地点は、福岡城を取り巻く内堀が東へ伸びて、中堀・肥前堀へと続く、内堀の入口部分に相当する位置にある。福岡城古絵図には、このあたりに赤坂門と門から南へ堀を渡る橋が描かれてあり、江戸時代には、福岡城の南の玄関口に相当する重要な場所であったものと見られる。また、明治～昭和初期の地図により、この辺り一帯が大正末から昭和初期にかけて埋め立てられたことが分かる。現地表面の標高は約４ｍ。



1．調査地点の位置（060-0193 1:8,000）

検出遺構　本調査は、試掘により石垣が発見された変電所用地の北東隅15×17ｍの範囲を掘削することによって実施した。石垣は発掘調査区内で南北長12ｍ、東西長５ｍが確認され、北および東はそのまま調査区の外へ続いている。石垣の高さは３ｍ強あるが、石垣上部は明治時代に破壊されており、本来もっと高い石垣であったものと考えられる。石垣が造られたのは江戸時代初期と考えられるが、埋め立てられる大正末までに、石垣の崩壊修復や堀の浚渫などの工事が数度にわたって行われていたことが分かった。

2．福岡城赤坂門石垣（南西から）

出土遺物　堀の中からは江戸時代の瓦や陶磁器、明治時代の生活雑貨などが出土した。このうち、軒瓦には黒田家の家紋である三つ藤紋や黒餅紋などの瓦当がある。

ま　と　め　これまで赤坂門は、調査地点の北東側に位置するものと考えられており、当地点は堀の中に含まれるのではないかと見られていたが、赤坂門の位置が予想よりも南西へずれることが判明した。また、周辺にも石垣が良好な状態で保存されている可能性が強く、今回の石垣が保存されたことにより、今後の福岡城整備への道を残した。

3．福岡城赤坂門石垣（西から）

9417　有田（ありた）遺跡群第176次調査（ART-176）

所　在　地　早良区有田１丁目6-1
調査原因　個人専用住宅建設
調査期間　940524～940616
調査面積　123㎡
担　当　者　池崎譲二
処　　置　調査後破壊

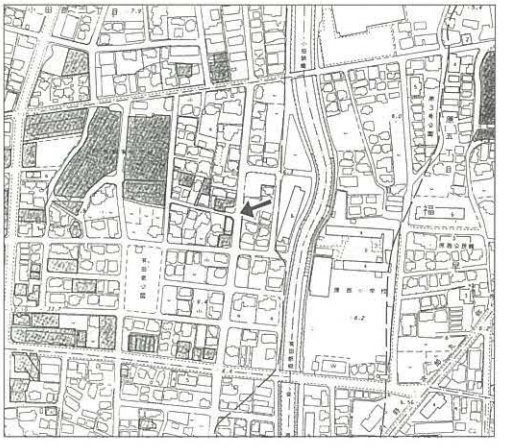
位置・環境　北側に八手状に伸びる有田台地の中央部、東端の支丘付根に位置する。69次、156次調査地点に挟まれた地点で、現地表面で標高9.5ｍ程である。

検出遺構　・古墳時代：竪穴住居址２棟
・奈良時代：掘立柱建物１棟、柱穴等

調査区は、宅地造成による削平や住宅基礎等による撹乱を受け、遺構の遺存状態は不良である。辛うじて検出できた竪穴住居址も壁高わずか数cmを残すのみであり、また調査区が狭いため遺構の全容は把握できなかった。SC03は、南北約3.9ｍの竪穴住居址でほぼ半分が検出できた。床面中央部に焼土を充たす炉がみられ、一部壁溝がみられた。出土遺物は土師器小片が小量みられるのみである。SC05は一辺約２ｍの竪穴で全容は不明である。覆土中から一個体分の土師器甕が出土している。SB02は２間×２間に復元できる総柱の掘立柱建物である。柱穴から土師器の小片が微量検出されたのみであるが、時期は奈良時代に属するものであろうか。この他、時期は明確にしえないが、柱穴かと思われる小ピットが散見されるが組織的に把握できない。

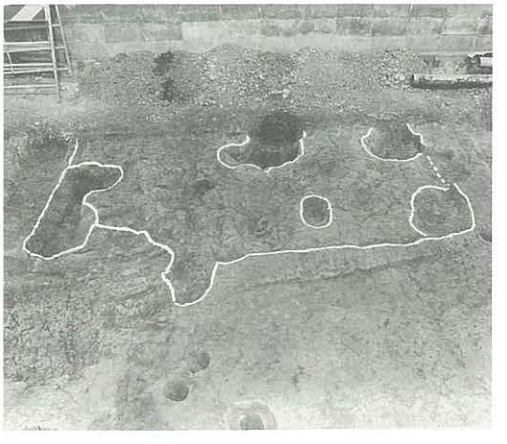
出土遺物　出土遺物はごく小量で、コンテナ１箱分程度にすぎない。SC05で１個体分の土師器を検出したものの、大半は土師器、須恵器の小破片、細片である。

ま　と　め　本調査地点では地形の改変により、遺構の遺存状態は不良であったが、調査地点の西側に向かってやや厚くなる整地層があり、西側の谷頭部を中世前後に埋め、整地したものであろう。有田遺跡群の遺構の分布と、この地域の旧地形の変遷の一端を窺うことができる。



1．調査地点の位置（082-0309. 1:8,000）

2．調査区全景（南から）



3．住居址検出（西から）

9418　東入部（ひがしいるべ）遺跡群第９次調査（HGI-9）

所　在　地　早良区東入部地内
調査原因　道路建設
調査期間　940525～940628
調査面積　152㎡
担　当　者　池田祐司
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は荒平山の西裾から貞島川への緩斜面に位置し、東入部遺跡の東端部に位置する。道路拡幅に伴う調査であるため道路を挟んだ両側に狭長な調査区となった。周辺では東入部４、５、８次調査が行われている。

調査前は宅地で標高約35ｍを測る。宅地、道路建設の際、盛土が１ｍ弱ほど行われている。旧表土下50cmの黄褐色土上面で遺構を検出した。

検出遺構　・弥生時代：河川
・中世　　：河川、土坑

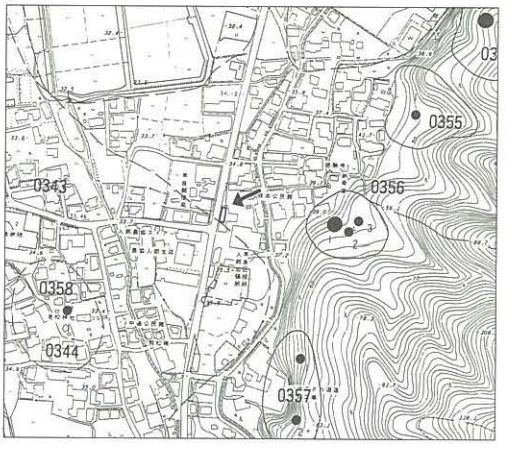
出土遺物　遺構からコンテナ10箱の遺物が出土した。遺物は河川からの出土が多く、弥生中期土器、土師器、須恵器、黒色土器、越州窯系青磁、白磁、石鏃、石斧、石剣等が出土した。

ま　と　め　今回の調査は、面積が狭くトレンチ状の調査であった。12世紀中頃までに埋没したと考えられる河川は、北西に向かって流れるものと考えられる。遺物は弥生土器が最も多く、次いで古代の須恵器、中世の遺物の順で、４次調査での検出遺構の時期と一致する。

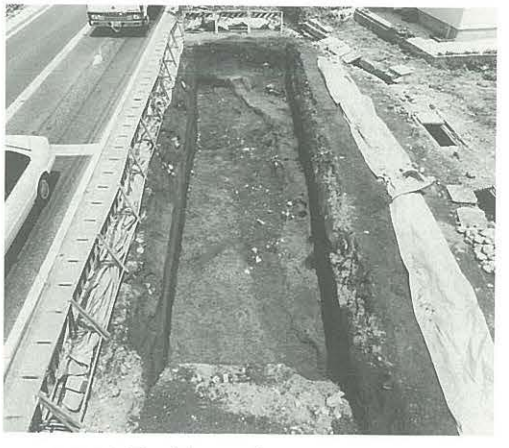
西側の調査区南端では、弥生土器のみを出土する河川状の落ちが見られる。

さらに８次調査区の道路を挟んだ西側で、下水道工事時に立会を行ったが、砂礫層のみで遺構を見いだすことはできなかった。

報告書は『東入部遺跡群４』福岡市埋蔵文化財調査報告書第421集として1995年に刊行している。



1．調査地点の位置（085-0343　1:8,000）


2．Ｉ区全景（南から）

3．遺物出土状況

9419　堅粕（かたかす）遺跡群第６次調査（KKS-6）

所在地　博多区千代２丁目163,164の一部
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940601～940630
調査面積　444.5㎡
担当者　大庭康時
処置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、博多湾の最奥部に形成された砂丘上に位置する。西側には、古代以来貿易都市として繁栄した博多遺跡群が続く。東側には、吉塚本町遺跡を挟んで、箱崎八幡宮の門前町であり、港町でもあった箱崎遺跡群が存在する。

調査地点は、以前は病院の敷地の一部であり、病棟及び住宅が建てられていた。そのためほぼ全面にわたって撹乱がみられ、遺構の遺存状態はよくなかった。

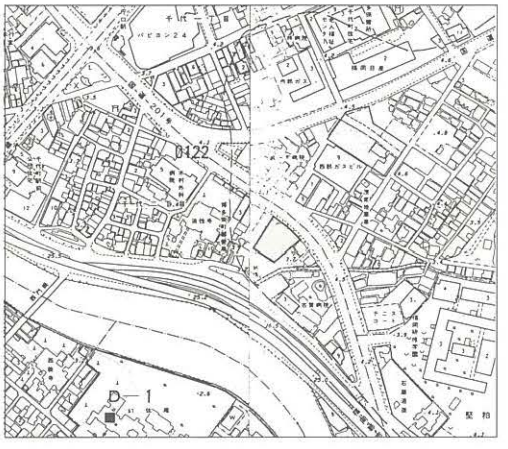
検出遺構　・弥生時代：溝状遺構（谷状地形）
・時期不明：柱穴、土坑

出土遺物　主として、弥生時代の溝状遺構からコンテナ５箱分の遺物が出土した。

まとめ　弥生時代中期から後期の土器が出土した溝状遺構は、調査区の北東から南西方面に伸びており、その埋積状況、立ち上がりの形状から人為的な遺構とするよりも、自然地形の可能性が強く考えられた。おそらく砂丘の間に形成された小規模な谷地形の谷頭近くと考えられる。

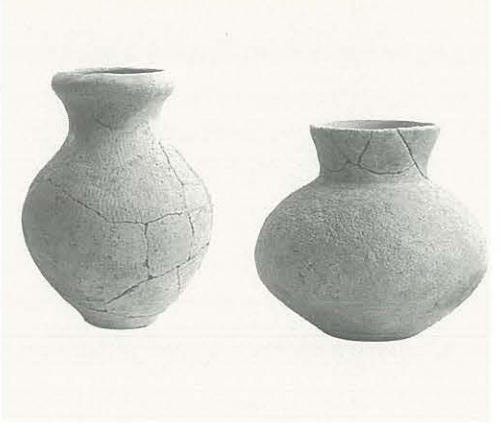
この溝状遺構出土の土器は、遺存状況が良好で、また完形に近い状態のものも多く、近隣に弥生時代後期の集落の存在をうかがわせた。堅粕遺跡群のこれまでの調査では、弥生時代の遺構は少なく、第１次調査で弥生時代後期の土坑が検出されているにすぎない。第１次調査地点は、砂丘の稜線に近い南側傾斜面にあたると考えられているが、砂丘北側斜面および頂部は、博多湾からの海風やそれが巻きあげる砂塵をまともに受けることになるから、集落としては南側斜面に営むのが適当であろう。すると、砂丘背面の南側斜面に沿って集落が存在した可能性が考えうる。いずれにしても、遺構の検出、旧地形の復元とも今後の調査に期するところ大である。

報告書は1995年に刊行済み。



1．調査地点の位置（035-0122　1:8,000）

2．溝状遺構全景（南西から）

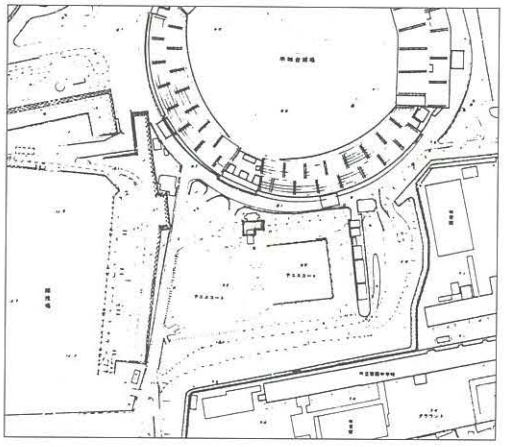

3．溝状遺構出土弥生時代土器

9420　福岡城跡（ふくおかじょう）第27次調査（FUE-27）

所在地　中央区城内1-1
調査原因　鴻臚館跡確認調査
調査期間　940606～940731
調査面積　50m²
担当者　田中壽夫・瀧本正志
処置　調査後埋め戻し保存

位置・環境　福岡城跡は、大休山、赤坂山から北へ突き出した丘陵の鞍部～先端部に立地している。この地点は博多湾のほぼ中央部に位置しており、湾岸全体をほぼ一望できる高台である。

調査地点は、これまでの調査によって筑紫館～鴻臚館の遺構と遺物が確認できた、平和台野球場南側部分にあたる。今回の調査は、鴻臚館跡整備に伴い撤去されることとなったトイレ部分と改築予定の展示館北東隅について実施した。



1．調査地点の位置(060-0193)

検出遺構　福岡城跡第6次調査で明らかにされていた建物基壇内盛土層上面、中位、下面（整地面）の3面からそれぞれ掘られた掘立柱建物の柱穴を検出した。上面の柱穴は江戸期以降のもので、中位および下面の柱穴は奈良時代筑紫館のころのものと考えられるが、柱穴の配列および方向性からみて、これらの建物は第II期の建物群の一部である可能性が高いと考えられた。

遺物は、国産の瓦、土師器片のほか越州窯系青磁を中心とした中国産陶磁器片が多数出土している。

2．調査区全景（南から）

調査の結果　基壇部分で確かめられた柱穴列は、第II期の掘立柱建物群の構成を明らかにする上で重要である。また基壇の規模および構造については東～南側が削平されているために明確にできなかった。

3．奈良時代礎板をもつ柱穴（南から）

9421　席田大谷遺跡群５次調査（OTN-5）

所　在　地　博多区東平尾公園内
調査原因　公園整備
調査期間　940610～940728
調査面積　100㎡と古墳１基
担　当　者　常松幹雄
処　　置　甕棺消滅・古墳は保存

位置・環境　調査地は、福岡空港の400ｍ東側、南東から北西に延びる月隈丘陵の北端部に位置する。標高30から50ｍの尾根上にあたり、甕棺墓は、西側に眺望の開けた部分、古墳は、南斜面の散策道下で石室の一部が露呈したことから確認された。

検出遺構　甕棺墓３基と円墳１基を検出した。

甕棺墓は、成人の単棺と含口棺各１基と小児棺１基よりなる。時期は中期後半に比定される。甕棺墓は掘り方の上部を失われていることから、集団墓の端に埋設された可能性がたかい。

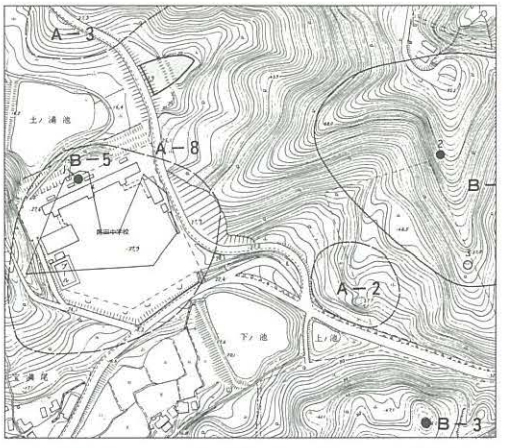
古墳の現況は散策道によって削平を受けており、墳丘は確認できない。露呈した矩形の石組プランと、その中央部から延ばしたトレンチの土層によって径８ｍ程の円墳と推定される。

石室は、両袖式の平面プランを呈し、床面には敷石を配す。石材は花崗岩の粗石を用いている。残りのよい箇所は基底部を含め５段程遺存していた。

副葬品として、勾玉、管玉、ガラス小玉、水晶製切子玉、耳環として金環、銀環、銅環が出土した。鉄器では鋸、鏃、刀子が出土した。石室内出土の須恵器は、７世紀前半に比定される。

出土遺物　甕棺はコンテナ10箱。古墳出土の遺物はコンテナ３箱。

ま　と　め　今回の調査によって新たな甕棺の分布が明らかになった。また円墳は散策道を迂回させることによって現況で保存されることになったため、石室は、土嚢袋に土をいれて埋め戻した。



1．調査地点の位置(010-0024 1:8,000)

2．円墳検出状況

3．甕棺墓検出状況（東から）

9422　有田（ありた）遺跡群第177次調査（ART-177）

所　在　地　早良区小田部５丁目150-3
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940620～940731
調査面積　480㎡
担　当　者　榎本義嗣
処　　置　調査後破壊

位置・環境　有田遺跡群は室見川東岸の洪積世独立台地上に立地し、小谷の開析によって八手状に派生する支丘を有する。本調査区は北西側に舌状に延びる支丘端部付近の尾根筋上に位置する。遺構は表土下約20cmの鳥栖ローム上で検出され、標高は6.0m前後を測る。

検出遺構　・弥生時代：貯蔵穴（前期）２基
甕棺墓（中期～後期）３基
・古墳時代：ピット
・中世後半：溝　４条
土坑、ピット

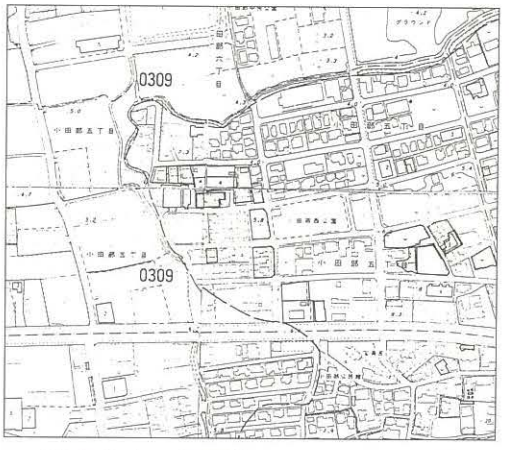
調査区が尾根線上に位置するため、全体的に削平が著しく遺構の遺存状況は悪い。

貯蔵穴は平面不整円形、断面袋状を呈する。調査区西側で検出された甕棺墓のうち中期後半のST001には前漢鏡、また隣接する中期末～後期初頭のST002には小形　製鏡が１面棺内に副葬されていた。中世の溝には幅約２ｍ、深さ約70cmの断面「V」字型を呈する濠状のものがあり、北接する第64次調査１号溝の延長である。

出土遺物　遺物の総量はコンテナ15箱である。前漢鏡は面径7.5cmで、「内日月心忽而不泄」の銘文を有する。小形仿製鏡は面径5.1cmで、外区に斜行櫛歯文、内区に蕨手状文を配する。韓国漁隠洞遺跡等出土の小銅鏡に類似するが同笵品はない。

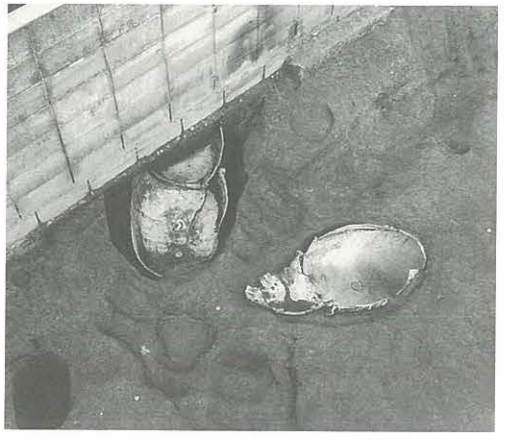
まとめ　今回の調査区周辺では約40×60ｍの範囲内で弥生時代前期末～後期初頭に及ぶ40数基の甕棺墓地が検出されている。本調査区の３基を含めた５基は墓域の主体となる北側とやや隔絶された南端に造墓され、うち２基に青銅鏡の副葬が認められた。早良平野内では同時期に副葬品を有する墳墓が数基存在しており、被葬者の権力構造を考察する上で貴重な資料となる。

なお、報告書は1997年に刊行予定である。



1．調査地点の位置（082-0309　1:8,000）

2．調査区全景（南東から）


3．ST001・002検出状況（南東から）

9423　博多（はかた）遺跡群第84次調査（HKT-84）

所在地　博多区上呉服町119,122,123
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940630～940831
調査面積　60㎡
担当者　大庭康時
処置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、博多遺跡群が所在する２列の砂丘の内、内陸側の「博多浜砂丘」のほぼ中央に位置する。

現況は宅地であり、建物基礎等の撹乱はほとんどなく遺構の遺存状態は良好であったが、周辺住民への配慮から、周囲に十分の余地を取っての調査となり、開発面積に対して一部分の発掘にとどまった。

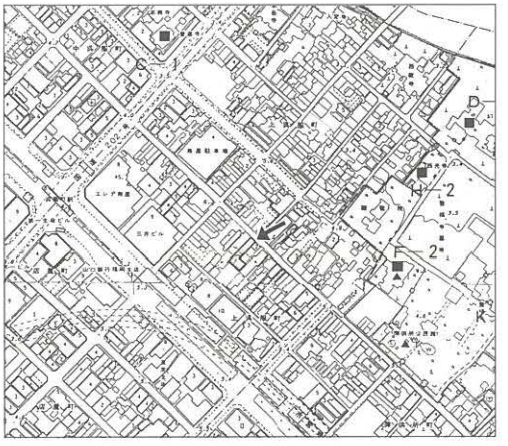
検出遺構　・古代：土壙墓、柱穴、土坑
・中世：柱穴、土坑、道路

出土遺物　主として、古代・中世の土器・陶磁器がコンテナ30箱分出土した。このほか、中世の金属製品がコンテナ２箱、古代の人骨１体が出土している。金属製品では、13世紀前半の土坑から完形の銅鍋２、鉄鍋１が入子になって出土したのが、注目される。

ま と め　本調査地点は、これまでの周辺の調査、聖福寺古図（16世紀中頃）などからみて、中世最末期においては聖福寺の寺内町であったことが知られる。検出された16世紀の道路遺構は、聖福寺の寺内町を書き上げた「安山借家牒」（16世紀中頃）にいう普賢堂道に当ると考えられる。この道路は、16世紀以前の遺構検出面にはみられず、15世紀代では一面に灰色の粘土による整地面が検出された。したがって、普賢堂道は16世紀にはいって通された道路であり、寺内町の形成が中世前半まではさかのぼらない可能性を示している。

古代の土壙墓は、副葬・供献遺物が出土しなかったが、遺構の切り合い関係から奈良時代末から平安時代初めの時期が想定できる。中年男性が、左側臥屈葬で葬られていたが、この時期の人骨の遺存は全国的にも少なく、貴重な出土例と言える。

1998年に報告書を刊行する予定である。



1．調査地点の位置（048-0121　1:8,000）

2．土壙墓検出状況（南西から）

3．銅製鍋出土状況（東から）

9424　板付（いたづけ）遺跡第66次調査（ITZ-66）

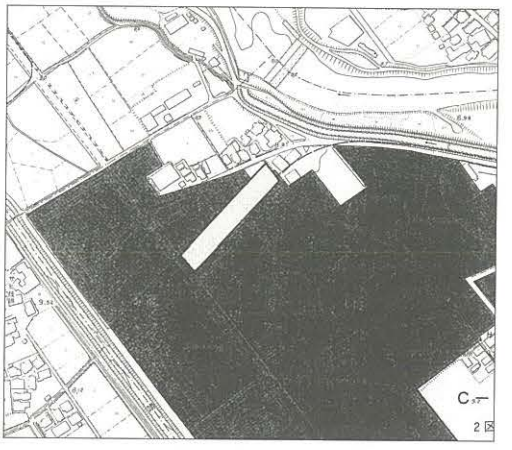
所　在　地　博多区板付２，３丁目地内
調査原因　道路建設
調査期間　940601～940830
調査面積　545 ㎡
担　当　者　白井克也
処　　置　調査後破壊

位置・環境　御笠川左岸に所在する板付遺跡群のうち、北西端近くの標高約9.5ｍ地点に位置する。市営住宅建設以前、この地点は周辺より１段低く、条件の悪い水田だったという。

市営住宅建設にともなう1971～1974年の第６次調査地点に含まれている。調査区西端近くで第６次調査のQ－８トレンチが南北に横切るように再検出された。

『板付周辺遺跡調査報告書』のJ－４地点・K－４地点に当たる。

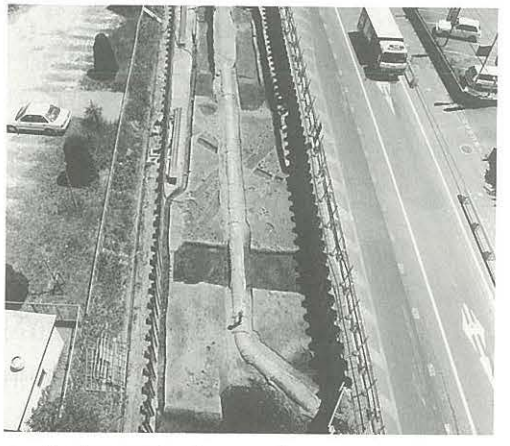
調査区西半は道路の半分、東半は北よりのトレンチのみ調査した。



1．調査地点の位置（024-0094 1:8,000）

検出遺構　調査区の東側３分の２は旧河川に当たり、台風７号の接近と、崩落の危険のため、粗砂層の途中までで調査を中止した。

灰白色の粗砂を多く含む粘質土の下の青灰色粘質土（上位では赤変したところがある）の上面（標高約7.2ｍ）で遺構を検出した。足跡は多数みられたが、畦畔は確認できず、水田は不明確である。溝４条（うち１条が検出面を掘り込み面とする）と土坑３基が検出された。



2．調査区西半（西から）

出土遺物　遺構からの出土遺物はほとんどなく、粗砂層からコンテナ10箱の遺物が出土した。粗砂中より土器片、須恵器片等がわずかに出土した。旧河川の粗砂層からは弥生土器等が出土した。

ま　と　め　調査前に期待したような水田は、はっきりしなかったが、第６次調査時に想定された旧河川の範囲を、限定された範囲ながら追認できた。

1996年報告書刊行予定である。

3．調査区東半（西から）

9425　鋤崎（すきさき）古墳群A群第3次調査（SKK-A-3）

所在地　西区大字今宿青木字鋤崎421-4
調査原因　文化施設建設
調査期間　940704～950829
調査面積　6,090㎡
担当者　荒牧宏行・榎本義嗣・大塚紀宜
処置　調査後消滅

位置・環境　早良平野の西を限る叶岳から派生した丘陵端に位置する。下方の狭小な今宿平野の向うに今津湾が臨める。隣接した西側の丘陵尾根線には著名な前方後円墳、鋤崎古墳が立地する。

現況は山林で標高16～35ｍを測る。調査区は丘陵部と東西両脇の谷部を含み、遺構は全域に及ぶ。北側は溜め池で限られる。

検出遺構
- 古墳（径８ｍ以上で主体部が竪穴系横口式石室ないし横穴式石室）　9基
- 古墳（径６ｍ位の低墳丘で主体部が竪穴式の小石室のもの）　5基
- 古墳（主体部の規模から小児用と考えられるもの）　4基
- 焼土壙　28基
- 横口式炭窯　1基
- 製鉄炉　1基
- 竪穴住居跡（古墳時代後期）　4基

横口式炭窯の本体は地山を刳貫いて築き天井部が遺存する。横口は７本で、全長約12ｍを測る。

出土遺物　総量にしてコンテナ77箱が出土した。盗掘を受けた古墳が多いが、15号墳石室内からは太刀１、鉄製鍔１、紡錘車１、耳環１が、９号墳石室内からは６世紀末～７世紀後半以降までの多量の土器類とともに、鞘金具や把が遺存する太刀１、刀子１、耳環２、鉄鏃等が出土した。さらに石室内および墓道に精錬滓が供献されている。

ま と め　古墳の築造時期は６世紀前半から７世紀前半にまで及ぶと考えられる。６世紀後半以降の重複した時期に製鉄関連の操業が開始されている。丘陵裾で検出された製鉄炉、横口式炭窯は７世紀後半以降に操業されたものと考えられ、概ねこの時期に終焉を迎えている。竪穴住居跡は６世紀後半に営まれ、古墳や製鉄遺構との関連を詰めていく必要がある。

1．調査地点の位置（112-0631 1:8,000）

2．調査区全景（東から）

3．9号墳石室内遺物出土状況

9426　玄界島（げんかいじま）海底遺跡２次調査（GKK-2）

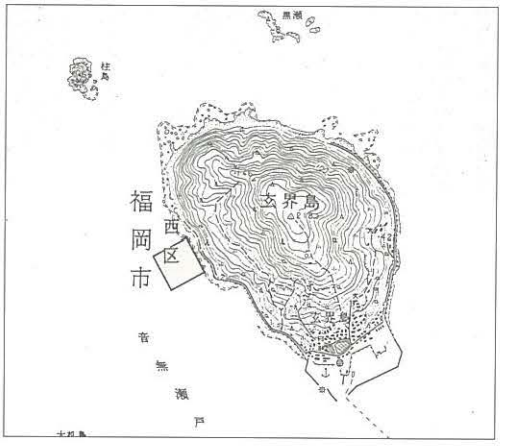
所　在　地　西区大字玄界島
調査原因　遺跡発掘事前総合調査
調査期間　940601～940630
調査面積　40,000㎡
担　当　者　塩屋勝利
処　　置　保存

位置・環境　玄界島は糸島半島西浦崎と志賀島の間の博多湾頭に浮かぶ島で、周囲約４km、面積1.17㎢の楕円形を呈する島である。島の南西側海底からは、これまで中国宋代の龍泉窯青磁碗、初期唐津焼などが引き上げられており、1984年に福岡市立歴史資料館が初めて潜水による分布調査を行った（第１次調査）。

調査の概要　玄界島海底遺跡は島の南西側タケノシリ・ミズノシタ海岸の沖合200ｍまでの海底に所在する。調査は200×200ｍの調査区域を海底に設定し、さらに50×50ｍのグリットに分け、全部で16区の調査区を設定した。

遺物の確認作業は各グリットに潜水し、５～10ｍ幅に海底面を目視しながら遺物を探し、発見した遺物には目印のブイを付けた。遺物が集中的に確認できた地点では、遺物の出土位置を計測して記録するとともに、出土状況の写真撮影を行った。調査区域内で確認できた遺物の総数は250点であるが、器種がこれまで不明であった分を含めて15点を引き上げた。

ま　と　め　今回の調査では中国製の陶磁器類は認められなかったが、17世紀前半期の唐津焼各器種を確認できた。とくに、船の積荷であったことを示す重なった状態での出土状況を現認できたことは、近世海運史の研究に貴重な資料を提供するもので、今後の本格的な調査が期待される。



1．調査地点の位置（1:40,000）

2．潜水作業風景

3．海底遺物出土状況

9427　東入部（ひがしいるべ）遺跡群第10次調査（HGI-10）

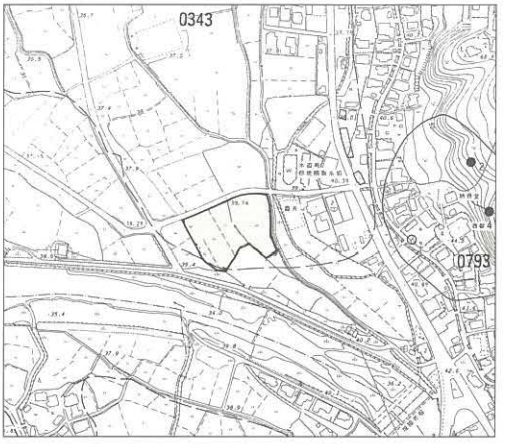
所　在　地　早良区東入部地内
調査原因　圃場整備
調査期間　940707～941125
調査面積　5,000㎡
担　当　者　池崎譲二・屋山洋
処　　置　調査後破壊

位置・環境　早良平野の南部、荒平山と西山にはさまれた平野の隘路部にあたり、室見川と金屑川にはさまれた沖積地上に立地する。東入部遺跡群の最南端にあたり、標高39ｍ、現況は水田、畑等の耕作地である。周辺には縄文時代から中世にいたる遺跡が広く分布している。

検出遺構　遺構の主たるものは、奈良時代から平安時代にかけてのもので、32棟以上の掘立柱建物、１軒の竪穴式住居、これらの付属施設である20基以上の製鉄関係遺構、室見川、金屑川の旧河川、用水路などからなる。これらは、西側に集中する奈良時代～平安時代前期の遺構と、東側に分布する平安時代中～後期の遺跡と大きくふたつのグループに区別できる。

出土遺物　縄文時代から室町時代にいたる各期の遺物が検出されているが、弥生・古墳時代の遺物は微量である。縄文時代の遺物は、後期を中心とした土器片、石斧・石鏃などの石器が出土している。出土遺物の大半は、奈良・平安時代の遺物であるが、それらのうち、国産の須恵器、土師器が大多数をしめ、緑釉陶器、中国産の越州窯青磁、白磁、緑釉緑彩陶、唐三彩などのいわゆる初期貿易陶磁も出土している。これらのなかでも、唐三彩「万年壺」の蓋の出土は国内初例で貴重なものである。

まとめ　今回の調査地点は製鉄、特に鍛錬鍛冶を行っている奈良・平安時代の集落であるが、唐三彩をはじめとする初期貿易陶磁がまとまって出土すること、須恵器円面硯がみられること、また、周辺の調査で石帯が出土していること等から官衙に関連する集落であると考えられる。入部地区は平安時代には大宰府安楽寺（天満宮）の所領であったといわれ、大宰府との密接な関係が想定できる。



1．調査地点の位置（早良16-0343　1:8,000）

2．検出遺構（空中写真）

3．出土遺物（唐三彩「万年壺」蓋）

9428　古田（ふるた）B遺跡第Ⅰ次調査（FRB-Ⅰ）

所　在　地　早良区重留５丁目235外
調査原因　公園建設
調査期間　940705～941104
調査面積　4,358.5㎡
担　当　者　池田祐司
処　　置　調査後破壊

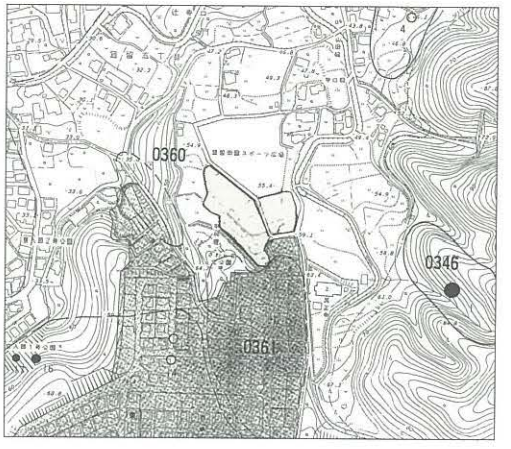
位置・環境　油山山塊の西側斜面、北面する斜面に位置し、調査区中央には谷が入る。調査前は水田で、段を成して営まれていた。このため遺構面は削平を受けた部分が多く、遺構検出面も段を成している。標高約54～60ｍを測る。

検出遺構
・縄文時代：包含層
・古墳時代：古墳石室
・古代　　：土坑
・中世　　：土坑、掘立柱建物
・不明　　：土坑、焼土坑、火葬施設

出土遺物　遺構・包含層からコンテナ５箱の遺物が出土した。遺物としては、縄文晩期前半の土器、刻目突帯文土器、須恵器、土師器等の土器類と、火葬施設からは骨片が、石室からは鉄製鋤先が出土した。

ま　と　め　全体に遺物が少なく遺構の時期を決め難い。縄文土器は谷部の包含層に見られた。しかし、小片で、量も少ない。遺構を検出した黄褐色土と色調が類似した覆土を持つ時期不明の土坑が各所で見られたが、縄文期に入るものもあると思われる。古墳は斜面に営まれており、水田の造成時にほとんど破壊され、わずかに敷石が残るのみであった。火葬施設は床に礫を並べ、定型化している。掘立柱建物は３棟を確認している。調査区は荒平城の麓でこれに関連する遺構が予想されたが検出できなかった。

報告書は1997年に刊行予定である。



1．調査地点の位置（085-0361　1:8,000）

2．調査区全景（北から）

3．火葬施設検出状況

9429　立花寺（りゅうげじ）B遺跡群第Ⅰ次調査（RGB-Ⅰ）

所　在　地　博多区大字上月隈地内
調査原因　都市高速道路建設
調査期間　940701～940831
調査面積　430㎡
担　当　者　吉武学
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、御笠川東岸の沖積地上にあり、標高は約10ｍを測る。試掘調査前は遺跡の空白地帯であり、御笠川の氾濫原であったのではないかと見られていたが、試掘により古代から中世にかけての集落の存在が明らかとなった。調査地は現３号線南バイパスの中央分離帯となっている南北に長い緑地部分であり、高速道路の橋脚建設にかかる部分のみを調査対象とし、他は現状保存される。今回は計３ヵ所の地点で調査を実施した。北から１、２、３区とした。

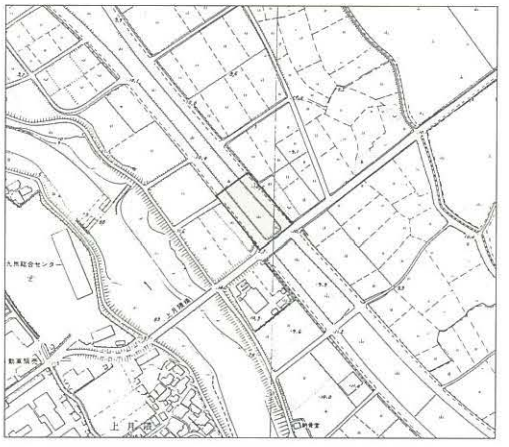
検出遺構と出土遺物　・１区　南北15.5ｍ、東西10.5ｍを掘削した。詳細な時代は不明だが、少なくとも中世以前にさかのぼると考えられる水田と河川の跡を検出した。水田跡は主に調査区の北よりに見ることができ、水田の畦畔と人・牛などの足跡が残っていた。しかし遺構密度は薄く、立花寺Ｂ遺跡の北限を示すものと考えられる。

・２区　13×13ｍを掘削。古代の集落とその廃絶後に造られた中世の水田跡を検出した。古代の集落は掘立柱建物２棟、溝３条、土坑６基などから成っているが、集落としての存続期間は短いようである。出土遺物は、土坑から曲物や木簡などが出土した。木簡にはかすかに墨痕があるものの文字としては判読できなかった。この他、各遺構から土師器、須恵器や中国産陶磁器などが出土した。中世の水田跡は古代の集落跡を整地して造られているが、遺存状態が悪く、足跡を検出したのみである。

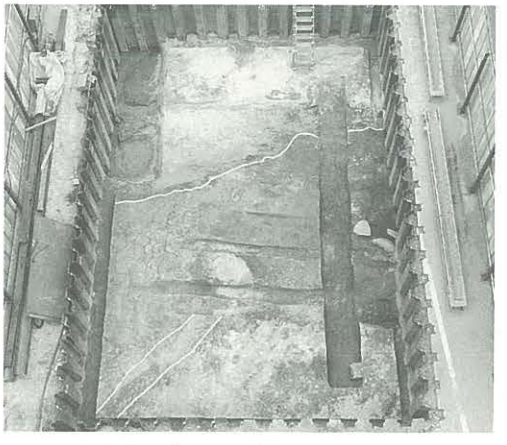
・３区　水田に伴うと見られる水路２条を検出した。水田の時期は明確でないが、中世と思われる。また、３区の南よりの部分には古代の遺物包含層があり、南側へ厚くなっていく。

まとめ　古代では集落跡が２区を中心に検出された。集落に伴う土坑からは木簡が出土しており注目される。また３区では古代の遺物包含層が検出されており、試掘調査の結果からも、３区から南へ向かって古代の集落が本格的に展開していくものと予想される。

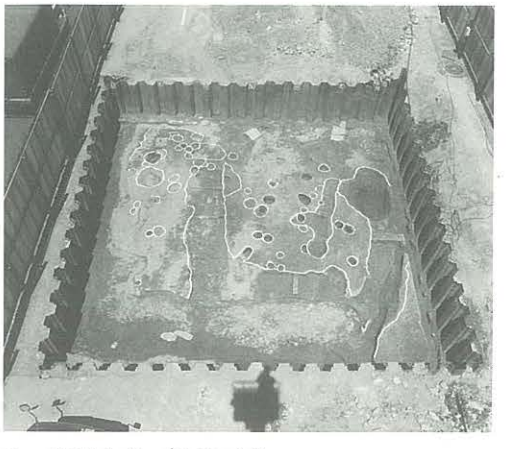
中世では全域で水田跡が検出された。いずれも残りが悪く、水路、畦畔、足跡を部分的に確認したのみだが、周辺は中世には大規模な水田地帯であったことを想定するには充分な資料である。



1．調査地点の位置（24-2626 1:8,000）



2．１区全景（北から）



3．２区全景（南から）

9430　下月隈（しもつきぐま）B遺跡群第3次調査（SHB-3）

所　在　地　博多区大字下月隈地内
調査原因　道路建設
調査期間　940701～940809
調査面積　430㎡
担　当　者　佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　福岡平野の東を限る三郡山地より派生した大城山山麓からは、月隈丘陵が南東から北西に延びている。丘陵の西側には支丘が幾つも延びており、今回の調査区域は支丘間の谷部に位置する。

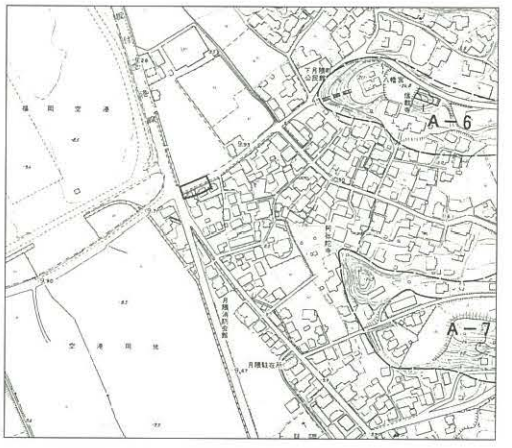
検出遺構　弥生時代中期後半から後期初頭にかけての掘立柱建物1棟、井戸4基、土壙3基、溝5条を検出した。他に、建物を構成するとみられる柱穴群が検出されたが、後世の削平が著しかったためか、竪穴式住居は検出されなかった。

他に、時期不明の杭列を検出した。

出土遺物　遺物は井戸を中心に出土した。完形の弥生土器壺、甕、器台の他、石包丁がその主たるもので、総量はコンテナ45箱。

ま　と　め　支丘先端の東約40mに位置する下月隈B遺跡群第1次調査（下月隈宮ノ後遺跡）では、弥生時代中期後半から後期初頭にかけての甕棺墓、土壙墓群が検出されている。支丘間の谷部に位置する今回の調査区域では、同時期の集落の一部が検出され、今後集落と墓地との関係を求めていく上で、良好な資料を得ることができた。

報告書の刊行予定は1996年である。



1．調査地点の位置（010-0031　1:8,000）

2．I区東半部全景（西から）

3．SE04井戸（北から）

9431　雑餉隈遺跡群第6次調査（ZSK-6）

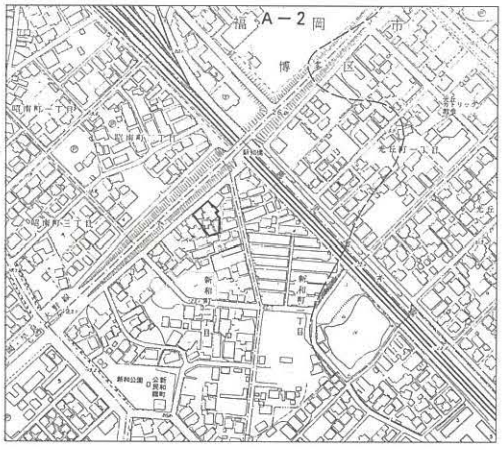
所在地　博多区新和町2丁目1-35
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940812～940914
調査面積　481㎡
担当者　加藤隆也・宮井善朗
処置　調査後破壊

位置・環境　雑餉隈遺跡は福岡市の最南端、春日市との境に位置する。第6次調査は博多区新和町2丁目で行われ、第5次調査区の西側に当り、須玖丘陵の北東に延びる台地の縁辺に近い位置と考えられる。

検出遺構　今回の調査では奈良時代遺構がほとんどで、不定形の土壙、掘立柱建物などが検出された。土壙はいずれも不定形で、覆土からは相当量の須恵器、土師器が出土している。掘立柱建物は2棟確認した。

出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ17箱である。須恵器、土師器が多数出土している。

ま と め　調査地点は5次調査区で検出した集落に近く、出土遺構、立地からこの集落の縁辺部に当り、主に廃棄空間として利用された箇所ではないかと考えられる。



1．調査地点の位置（013-0054 1:8,000）

2．調査区東半区全景（北西から）

3．土坑25（北から）

9432　福岡城跡第28次調査（FUE-28）

所　在　地　中央区城内1-1
調査原因　鴻臚館跡範囲確認
調査期間　940801～950315
調査面積　850㎡
担　当　者　田中壽夫・瀧本正志
処　　置　調査後埋め戻し保存

位置・環境　福岡城跡は、大休山、赤坂山から北へ突き出した丘陵の鞍部～先端部に立地している。この地点は博多湾のほぼ中央部に位置しており、湾岸全体をほぼ一望できる高台である。

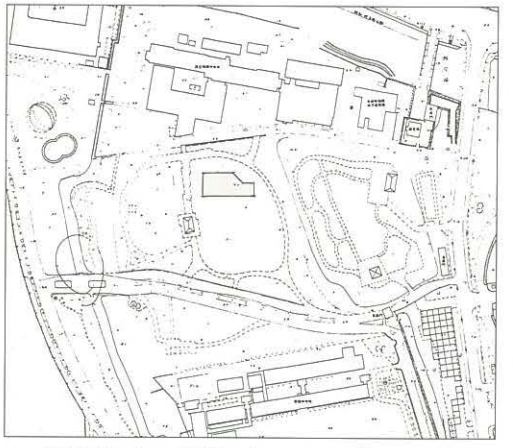
調査地点は、二の丸西北部郭にあたる、通称舞鶴公園西広場であり、３代目以降の藩主私邸部分に相当している。現況は標高6.5ｍ前後の平坦地であるが、福岡城築城前は汀線に沿って広がる干潟だったと推定されている。

検出遺構　調査地では、明治期および昭和期の盛り土整地層（厚さ約1.5ｍ）の下部に、江戸期の包含層および２～３枚の生活面を確認した。さらに、これらの下部に、干潟を埋め立て行われた福岡城築城当時の大規模な盛土造成を確認した。

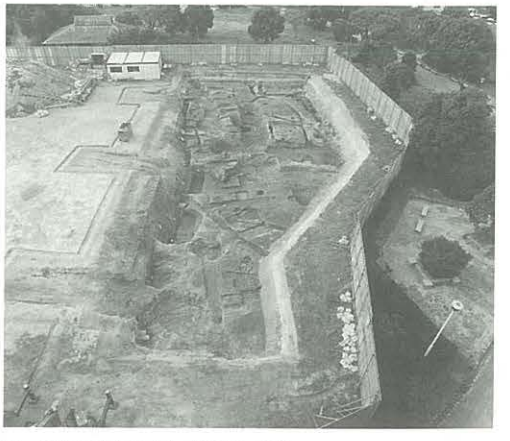
検出遺構は、江戸期土塀の基礎である石組み列を３条、土壙５基、井戸１基、掘立柱建物の柱穴、および礎板を持つ大型建物の柱穴多数、溝４条などである。これらの遺構は、盛土造成面を覆う整地（真砂土による仕上げ面）層上面およびそれ以降の整地面で確認したもので、いずれも17世紀半ば以降のものである。

包含層および各遺構からは、近世瓦を初めとして李朝陶磁器、古唐津、古伊万里、高取系の陶磁器などが出土している。

調査の結果　土塀および溝の前後関係と方向性からみて、江戸時代前期から中期における当該地点での屋敷地の区画が大きく３回程度変化していることが推定できた。ただし区画における建物の個別の規模・性格および配置関係については明確ではない。なお、鴻臚館関係の遺構については今回の調査では確認することはできなかった。



1．調査地点の位置（060-0193）



2．調査区全景（東から）

3．江戸時代土塀基礎検出状況（西から）

9433　博多（はかた）遺跡群第85次調査（HKT-33）

所在地　博多区店屋町37
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940901～950729
調査面積　670㎡
担当者　大庭康時
処置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、博多遺跡群が所在する２列の砂丘の内、内陸側の「博多浜砂丘」に位置する。

現況は宅地であり、建物基礎等の撹乱はほとんどなく遺構の遺存状態は良好であった。

地表から１ｍほどの近・現代の包含層を除去した後、奈良時代から鎌倉時代・江戸時代に及ぶ遺構を調査した。

検出遺構　・古代：竪穴住居跡、柱穴、土坑
・中世：柱穴、土坑、井戸
・近世：土坑、井戸

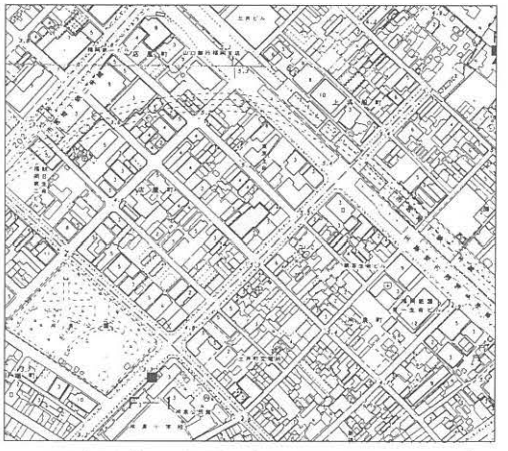
出土遺物　主として、古代・中世の土器・陶磁器がコンテナ234箱分出土した。このほか、中世の金属製品がコンテナ１箱、石製品２箱、獣骨等１箱が出土している。中世の土坑からは、鍋などの鋳型片が大量に出土しており、この地点で鋳物が行われていたことを示している。

また、古代では、石帯（巡方）、墨書須恵器、円面硯など律令官人の存在をうかがわせる一方で、竪穴住居跡から滑石製臼玉未製品、包含層から碧玉製管玉や石帯（丸鞆）の未製品が出土するなど、工房的な性格が強く感じられる。

ま　と　め　本調査地点は、博多浜のほぼ真ん中近くに位置しているにもかかわらず、他の調査地点でよく見られるような土器溜りや陶磁器の大量廃棄遺構は検出できなかった。都市的消費を示すとされる土師器の大量一括廃棄が見られないということは、本調査地点での生活が比較的零細な階層によっていたことをうかがわせる。とは言っても、他の遺構の上からこの差異を見いだすことは困難であり、中世前半の都市「博多」における全体的な生活水準の高さが考えられる。

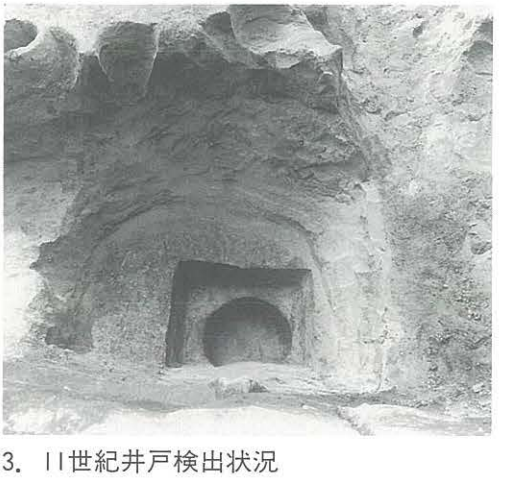
本調査は、都市生活の水準と構造的な重層性を示す、貴重な調査例と言える。

1998年報告書刊行予定である。



1．調査地点の位置（049-0121 1:8,000）

2．第２面遺構全景13世紀代（南西から）



3．11世紀井戸検出状況

9434　大原（おおばる）E遺跡第Ⅰ次調査（OBE-Ⅰ）

所　在　地　西区大字今津
調査原因　道路建設
調査期間　930516～930731
調査面積　870㎡
担　当　者　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

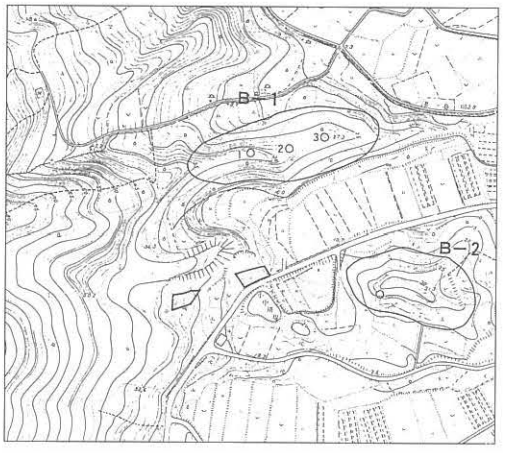
位置・環境　本調査区は、糸島半島の東部、博多湾に面した標高255ｍの柑子岳から東に派生する舌状丘陵間の谷部南緩斜面に位置する。現地表面で標高30～21ｍ。現状は山林で、地表下１～３ｍで遺構面に達する。

検出遺構　古代：焼土壙14基、鍛冶炉４基、棚列１条、土壙８基、溝・流路18条、地山整形部１基、柱穴多数

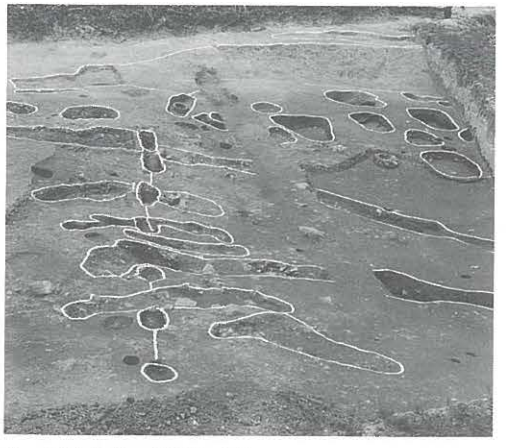
出土遺物　遺物は、遺構内及び包含層中から弥生時代中期の弥生土器、古墳時代後期の土師器・須恵器・古代の土師器・黒色土器・瓦器・須恵器・中国製磁器・鉄滓等、コンテナ５箱分を検出している。

まとめ　北の丘陵間の大原Ｄ遺跡、南の丘陵間の大原Ａ遺跡の両遺跡にはさまれており、両遺跡とも古代の製鉄・鍛冶遺構・遺物を多数検出しており、大原海岸の海浜砂鉄を用いた製鉄遺跡群の一部を形成している。製鉄炉・精錬炉は検出されておらず、小鍛冶のみ行っていた様である。少量の白磁碗・同安窯系青磁碗を伴っており、平安時代末が最終末と思われる。

1996年報告書刊行予定である。



1．調査地点の位置（128-2592　1:8,000）


2．1区全景（東から）

3．2区全景（南から）

9435　雀居（ささい）遺跡第７次調査（SAS-7）

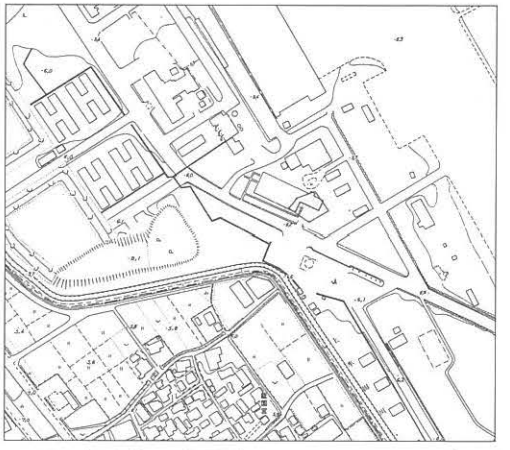
所　在　地　博多区雀居（福岡空港西側整備地区）
調査原因　空港整備
調査期間　940801～941226
調査面積　1,350㎡
担　当　者　松村道博・白井克也
処　　置　調査後破壊

位置・環境　三笠側の右岸に位置し、標高５～5.5ｍに前後の沖積微高地に立地する。調査地点は、福岡空港の西側整備地区にあたり昨年度調査（４・５次調査）の北約300ｍの位置にあり、沖積微高地の先端部にあたる。

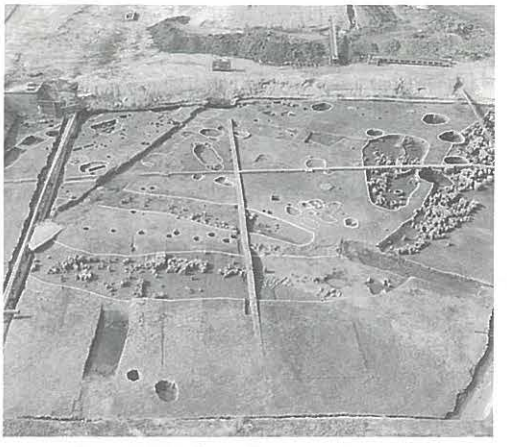
検出遺構　今回の調査地点は２面の遺構面があり、１面のみ調査を実施した。検出した遺構は縄文時代晩期から弥生時代中期の土壙15基、弥生時代前期の土壙墓（木棺墓）６基、甕棺墓８基、及び古墳時代前期の環濠１条、井戸５基である。土壙墓からはいずれも人骨が遺存しており中には頭から足、指先までの全身の骨が遺存しているのもある。ただ湿度の高い土壌に長期間埋没していた為かなり脆弱で、取上げ時に細片に砕けたのも多い。１基の人骨は調査時の概数では154㎝前後の身長との結果を得ている。土壙墓からはほとんど土器が出土していないが、１基に板付Ⅱ式の小壺が副葬され、その時期の土壙墓群であろう。甕棺もほぼ同時期のもので１基は成人棺、７基は小児棺で、微高地の先端部に位置し総計14基の小規模な墓地群を形成している。古墳時代の環濠は微高地を取り囲むように馬蹄形に大量の土器が投棄されていた。一部には掘り込みも見られるが大部分は自然地形のままで微高地の縁の低い場所に土器等の不要物を投棄したものであろう。井戸は環濠の上から掘り込まれる素掘りのままで井筒は検出出来なかった。

出土遺物　コンテナ180箱出土している。主に環濠出土の土師器である。他に甕棺、溝出土の弥生時代中期土器、井戸出土の土師器、木製品がある。

ま　と　め　今回の調査では、弥生時代前期の墓地群及び古墳時代の環濠集落を検出した。この地域の遺跡の有り様は不明であったが、沖積平野の微高地上に小規模な遺跡が点在しているようである。



1．調査地点の位置（023-2633　1:8,000）



2．調査区全景（Ⅰ面）

3．土壙墓人骨出土状況

9436　博多（はかた）遺跡群第86次調査（HKT-86）

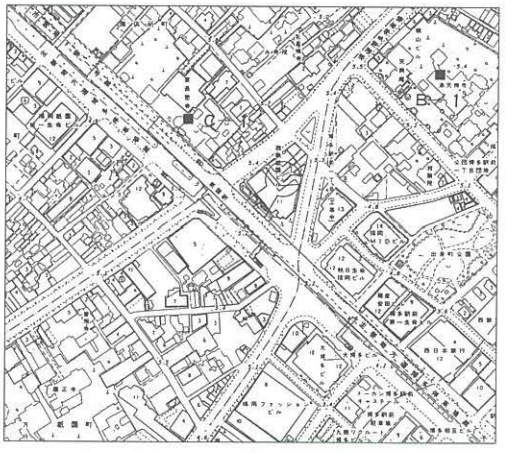
所　在　地　博多区祇園町13,16,17
調査原因　ホテル建設
調査期間　940824～941125
調査面積　479㎡
担　当　者　佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は博多区祇園町13,16,17、博多浜の南側に位置する。

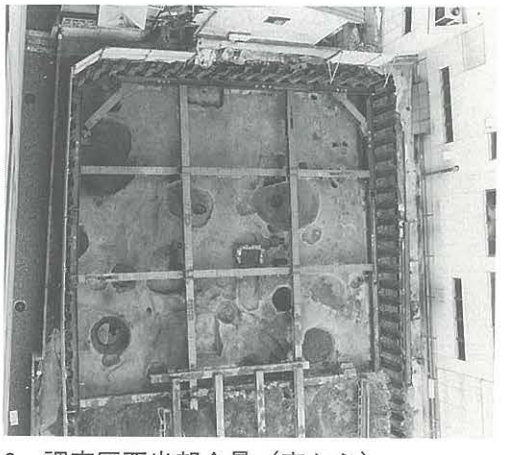
検出遺構　遺構の残りは良くない。地山の砂層まで撹乱が及ぶところもみられ、一部南半部を中心として包含層（灰褐色砂）が残されていた。包含層の時期は８世紀代で、地山の標高は約3.5ｍである。検出された遺構は12世紀後半～13世紀前半－井戸20基、矩形の溝１条、土壙10数基、８世紀－溝数条、４世紀前半－竪穴式住居跡の断片である。

出土遺物　遺物は井戸を中心に出土した。土師器杯・皿類の他、青磁、白磁、陶器などの中国製陶磁器など整理用コンテナ150箱が出土した。

ま　と　め　限られた調査面積であったが、20基のほぼ同時期の井戸を検出することができた。先に延べた通り、後世の撹乱が著しく同時期の他の遺構は土壙以外は検出できず、井戸と建物の関係を把握することができなかった。今後遺構の先後関係や出土資料を検討し、一括遺物が示す時期をより細分化する上で貴重な資料が得られた。



1．調査地点の位置（049-0121 1:8,000）



2．調査区西半部全景（南から）

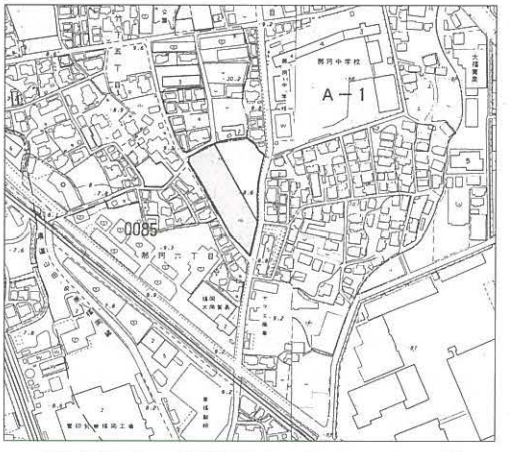
3．SE05井戸土層（南東から）

9437　那珂（なか）遺跡群第48次調査（NAK-48）

所　在　地　博多区那珂6丁目290外
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940901～941012
調査面積　2,500㎡
担　当　者　吉武学
処　　置　調査後破壊

位置・環境　那珂遺跡群は福岡平野中央部に位置する中～低位の段丘上に形成された遺跡で、48次調査地点はこれの南西隅の一角に位置する。1920年代の古い地形図には、調査地点は周辺を台地に囲まれ、周囲よりも一段低い地形であったことが示されている。標高は約８ｍ。

試掘調査により、古墳時代の竪穴住居跡を中心とする遺構が検出された。遺構は申請地の東側に集中しており、建物によって破壊される申請地西側には遺構が少なかった。東側は駐車場となり、遺構は保存されている。



1．調査地点の位置（038-0085　1:8,000）

検出遺構　地表下約30㎝で遺構面となる。調査区内では遺構は少ない。全体的に削平を受けており、特に北側では隣地との段差が１ｍ近いが、削平されていることを考慮しても、もともと遺構の少ない地区であったものと思われる。

検出した遺構は以下の通りである。

・古代（９～11世紀）：井戸１
・中世（12～13世紀）：溝６、土坑３、井戸５、掘立柱建物１
・近世：水田区画をしめす溝多数

2．調査区南半全景（東から）

出土遺物　出土した遺物は、日常容器を中心にコンテナ20箱分である。

ま　と　め　古墳時代の遺構は保存された申請地の東側に多数存在しており、調査で出土した遺物はこの集落に伴うものであると考えられる。

中世の遺構では井戸が多く、祭祀を行った井戸が二つある。掘立柱建物は１棟しか確認されなかったが、他の建物は削平されてしまっている可能性もある。溝は最低３回にわたって掘り直されており、水の流れた痕跡もあった。この溝は水田水利あるいは土地の区画を示す溝と考えられるが、長い期間にわたって土地の区画が動かなかったことを示しており、興味深い。

古代と中世の遺構以外に、溝や土坑が多数認められた。これらは近世～現代までの水田区画を示す溝や粘土採掘坑、撹乱などである。

3．調査区北半全景（東から）

9438　那珂（なか）遺跡群第49次調査（NAK-49）

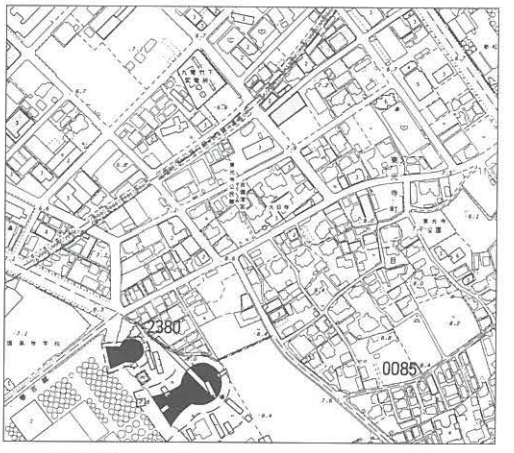
所在地　博多区東光寺町1丁目148,147の一部　　調査面積　723m²
調査原因　共同住宅建設　　担当者　加藤隆也
調査期間　940905～941102　　処置　調査後破壊

位置・環境　那珂遺跡は福岡平野のほぼ中央に位置し、北流して博多湾に注ぐ那珂川・御笠川に挟まれた中位段丘上に立地する。遺構は鳥栖ローム上面にて検出され標高は6.5mを測る。調査地は那珂遺跡の北端、比恵遺跡との境に位置する。地形は北側にやや傾斜する。現況は畑地で20～40センチの耕作土を除去した面にて遺構が確認され遺存は比較的良好であった。

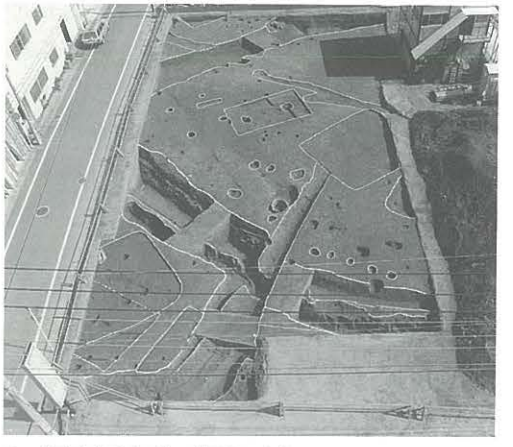
検出遺構　主な遺構には弥生時代中期の甕棺1基、終末期から古墳時代初頭にかけての竪穴式住居5基、うち1基はベッド状遺構をもち焼失家屋と考えられる。断面形V字の溝、井戸1基、掘立柱建物、土坑、柱穴。古墳時代の竪穴式住居3基、掘立柱建物、土坑、柱穴。13世紀代の溝、木棺墓2基などを調査した。

出土遺物　遺物は総量でコンテナ57箱ほどである。遺物の量が最も多かったものはV字溝からのもので、弥生土器、石器、土師器、須恵器など整理箱30箱ほど出土した。下層からは手焙形土器が出土している。また中世の木棺墓には青磁碗が1点ずつ出土している。

ま と め　今回の調査で確認された遺構の時期は、大きく4期に分けられる。第1期は弥生時代中期前半の甕棺である。1基だけではあったが、調査地の東側に墓地の存在が予想される。第2期は弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての時期で、主柱穴2本のベッド状遺構をもつ竪穴式住居や溝などがあり、今回の多くの遺構はこの時期に属する。第3期は古墳時代後期のもので、竪穴式住居、溝などがある。第4期は中世のもので、住居を画する溝、墓地などが確認された。今回の調査の報告は1996年を予定している。



1. 調査地点の位置(037-0085 1:8,000)


2. 調査区全景（西から）

3. SC02（北東から）

9439　立花寺（りゅうげじ）遺跡群第4次調査（RGG-4）

所　在　地　博多区立花寺谷頭539-3外
調査原因　道路建設
調査期間　940905～941027
調査面積　590m²
担　当　者　中村啓太郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査区は福岡平野の東部、四王寺山から延びてくる月隈丘陵の西斜面、標高20～25mに位置する。現況はぶどう畑であった。

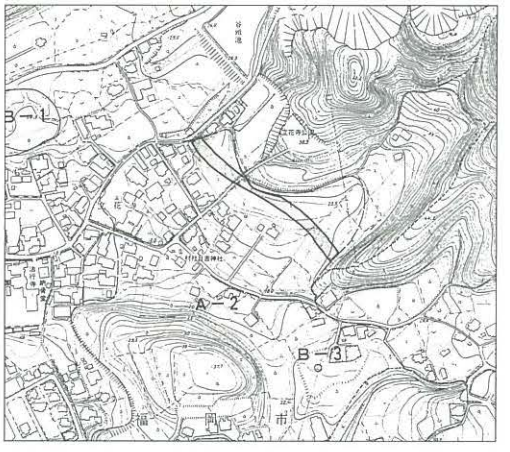
検出遺構　調査区を便宜上3区に分け、南よりⅠ・Ⅱ・Ⅲ区とした。Ⅲ区において上下2面で遺構を検出した。上面は遺物が少なく時期を決めかねるが、これまでの調査成果によると古代末～中世であろうか。Ⅲ区下面及びⅠ、Ⅱ区は古墳時代から古代にかけてである。

検出した遺構は2×2間総柱建物が2棟、土坑、溝、柱穴等である。

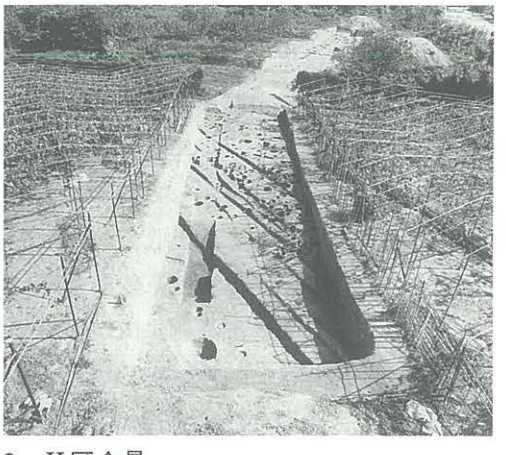
出土遺物　本調査では古墳時代から古代を中心に須恵器の甕、高杯、蓋杯、土師器の甕等を総量でコンテナ10箱を出土した。

ま　と　め　今回の調査では竪穴住居は検出できなかったが、古墳時代から古代にかけての集落であることは確認できた。しかしながら第2次調査で推定された官衙、豪族居館の可能性を指摘することはできなかった。

報告書は1996年刊行予定である。



1．調査地点の位置（011-0038　1:8,000）


2．Ⅱ区全景

3．Ⅲ区全景

9440　西新町（にしじんまち）遺跡第８次調査（NSJ-8）

所　在　地　早良区西新５丁目15-43
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940906～941118
調査面積　610㎡
担　当　者　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、博多湾岸の中央部、東西に延びる新砂丘の南後背緩斜面に位置する。現地表面で標高５ｍ。現状は宅地で、地表下1.3ｍの包含層上と1.8ｍの黄灰砂上の二面に遺構が広がる。

検出遺構　・弥生時代中期：竪穴住居１軒、土器溜り２基
・弥生時代終末～古墳時代：竪穴住居７軒、土壙10基、溝３条
・古代：溝２条

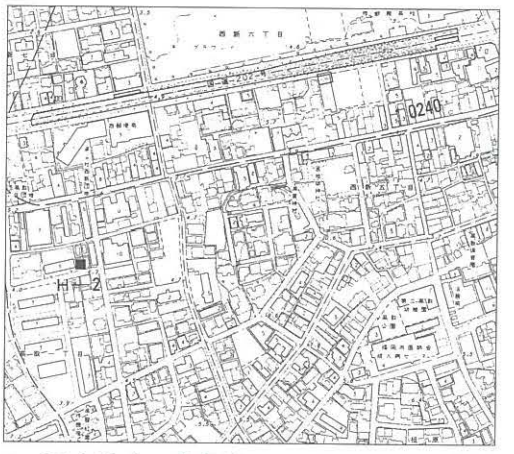
出土遺物　遺物は弥生土器を主に、古墳時代前期の土師器・近世陶磁・高取焼・窯道具等コンテナ36箱検出している。

弥生中期と古墳前期の住居址から各１点の滑石製紡錘車、弥生中期の土器溜りから半島系の有孔取手付土器と鉄塊系遺物を検出している。

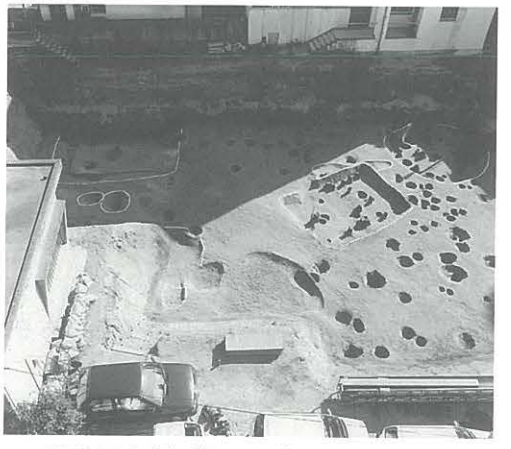
まとめ　古代の溝は、東に隣接する７次調査から延びて本調査区を横断しており、本調査区内で斜格子印の平瓦片を検出し、幅８ｍ程の陸橋部を設けている。北側の地下鉄調査時には検出されておらず、南の旧道側に広がる可能性をもつ。また遺跡群内で弥生中期の遺構は甕棺墓のみであったが、今回の調査で初めて同期の生活遺構が検出された。

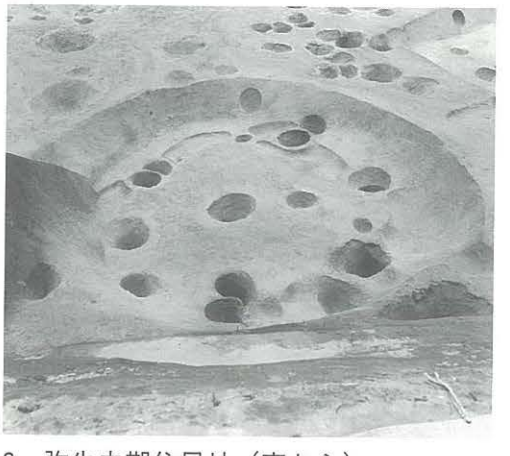
中期後半の土器溜りから検出された有孔取手付土器と鉄塊系遺物は、中期における初期鍛冶技術の半島からの将来を印象づける。

報告書は1996年刊行予定である。



1．調査地点の位置(072-0240 1:8,000)

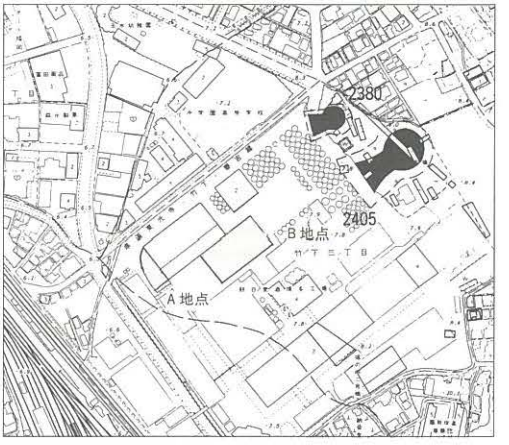

2．調査区全景（北から）


3．弥生中期住居址（南から）

9441　那珂（なか）遺跡群第50次調査（NAK-50）

所在地　博多区竹下３丁目１－１
調査原因　工場整備
調査期間　940929～941220
調査面積　3,000㎡
担当者　下村　智
処置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、那珂遺跡群の西側にあたり、那珂川右岸標高８ｍ前後の中位段丘上に位置する。工場内はこれまでにも数次の調査を実施しており、第２１次調査地点を挟んで西側がＡ地点、東側をＢ地点として調査を実施した。既に旧工場でかなり削平を受けており、基盤の黄褐色ロームが部分的に露出していた。Ｂ地点南側には谷部が形成され中世の遺物包含層となっている。遺構は基盤の黄褐色ロームに掘り込まれている。



1．調査地点の位置(037-0085 1:8,000)

検出遺構　弥生時代から古墳時代・古代を中心に近世までの遺構を検出した。

・弥生時代前期：袋状竪穴６基、方形土坑１基、不定形土坑１基、土壙墓２基
・弥生時代中期：大型土坑１基、井戸４基、甕棺墓１基、不定形土坑１基
・弥生時代後期：井戸４基、不定形土坑１基
・古墳時代前期：溝１条、ピット群
・古墳時代後期：竪穴住居址３軒、土坑２基、溝１条、井戸１基、ピット群
・古代　：井戸４基、不定形土坑１基、ピット群
・近世　：溝１条
・時期　未確定：土坑１基、溝１条、井戸２基、不定形土坑１基

2．Ｂ地点東半部全景（南から）

出土遺物　Ａ地点の大型土坑からは、弥生時代中期の壺、甕、高坏など100個体以上出土しており、多くは丹塗磨研が施されている。中には発見例がきわめてまれな丹塗りの桿頭形土製品も含まれている。Ｂ地点の井戸からは、木製の鋤先、越州窯青磁碗が出土している。遺物総量はコンテナ205箱分。

3．Ｂ地点SE04出土木製平鍬

まとめ　Ａ地点では弥生時代前期の袋状竪穴がまとまって出土しており、第21次調査出土の袋状竪穴と一連のものであろう。また、庄内・布留式土器を出土する「Ｖ」字溝は、集落の西を限るものと考えられる。報告書刊行予定は1996年である。

9442　博多（はかた）遺跡群第87次調査（HKT-87）

所在地　博多区上川端町7
調査原因　電話通信施設建設
調査期間　941003～941122
調査面積　100㎡
担当者　大庭康時
処置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、博多遺跡群が所在する2列の砂丘の内、内陸側砂丘の西縁にあたり、砂丘が下降した谷部に立地する。

現況は公園の敷地内であり、建物等の撹乱はほとんどなく遺構の遺存状態は良好であった。

検出遺構　13世紀から近世までの4面の遺構調査と、旧地形確認のためのグリッド調査を実施した。検出した遺構は次のとおりである。

・中世：柱穴、土坑、井戸、道路
・近世：土坑、井戸

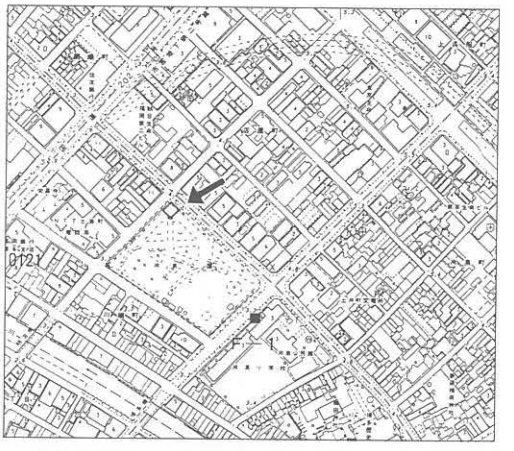
出土遺物　主として、中世・近世の土器・陶磁器がコンテナ46箱分出土した。このほか、中世の金属製品がコンテナ1箱、獣骨1箱が出土した。

まとめ　16世紀代の遺構としては、調査区北辺に沿って道路遺構を検出した。14世紀には、逆に調査区南辺に沿って溝が掘られている。13世紀以前には生活遺構はなく、標高0.7～1.2m付近の湧水レベル近くでは、砂泥質の粘土層がほぼ水平に堆積し、水が淀んでいた状態が考えられる。その下層は粗砂層であり、流水状態にあった。泥土層から第4面までの間は夾雑物の多い砂層で、人為的な埋立による。これには、12世紀後半から13世紀初めまでの遺物が混入しており、埋立の時期を示している。

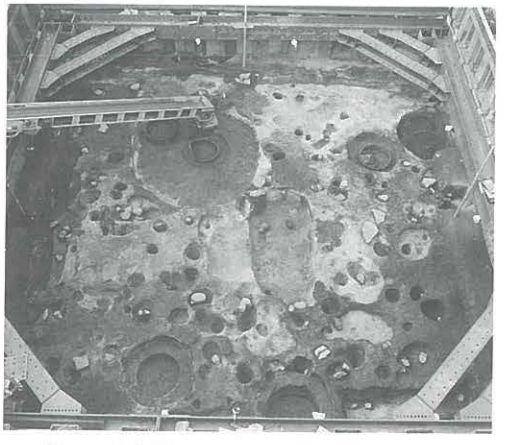
本調査地点は、12世紀初めの波打ち際＝荷揚げ場を検出した第14次調査地点の更に海側にあたる。本調査地点で13世紀初め頃の埋立と、13世紀以降の生活面が検出されたことは、埋立による都市域の拡大とそれにともなう港の移動を示すと考えられる。

この生活域＝都市域の海側へのさらなる拡大の結果、かつての埋立地は次第に安定した町場となり、16世紀には道路が作られるにいたるのであろう。

1996年報告書刊行予定。



1. 調査地点の位置(049-0121 1:8,000)


2. 第4面遺構検出状況（南東から）

3. 埋立層下の堆積状況

9443　比恵（ひえ）遺跡群第54次調査（HIE-54）

所　在　地　博多区博多駅南４丁目15-３
調査原因　商業ビル建設
調査期間　941011～941122
調査面積　187㎡
担　当　者　吉武学・山口譲治・白井克也
処　　置　調査後破壊

位置・環境　那珂川と御笠川に挟まれた台地上に位置する比恵遺跡群の中央西側、標高６ｍ地点に所在する。現況は宅地であり、建物の基礎などで破壊されているが、概ね遺存状態は良い。

検出遺構　・弥生中期　：竪穴住居跡３棟（円形１棟）
掘立柱建物跡１棟以上
土坑４基（方形３基）
柱穴多数
・弥生中期末：井戸２基（深さ約３ｍ）

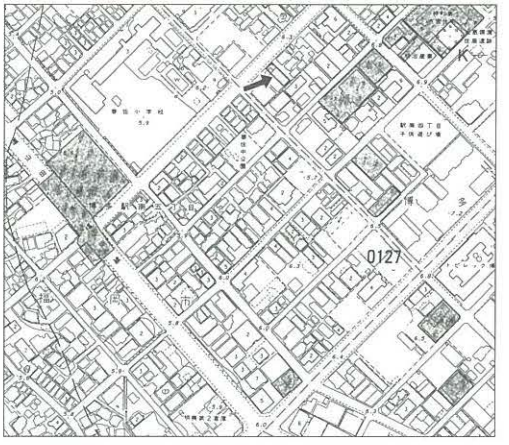
出土遺物　遺構からコンテナ25箱の遺物が出土した。

井戸からは弥生中期末の土器が、そのほかの遺構からは弥生中期土器が出土した。また、井戸SE－01最下層からは板状木製品、木鍬なども出土した。

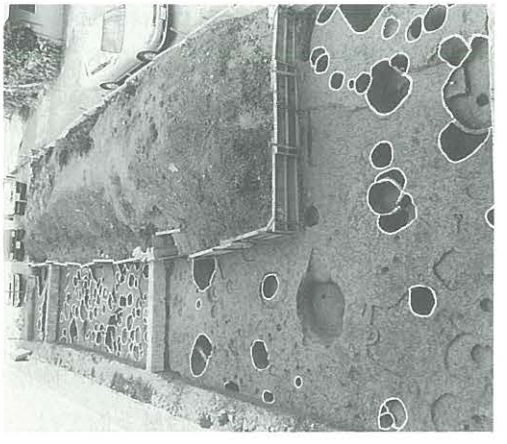
SE－01出土の性格不明の板状木製品６片は、ヒノキ様の木を用い、同一個体ないし極めて類似した複数個体とみられる。このうち２片は互いに接合する。線刻紋を施し、紋様部分に水銀朱を塗っている。

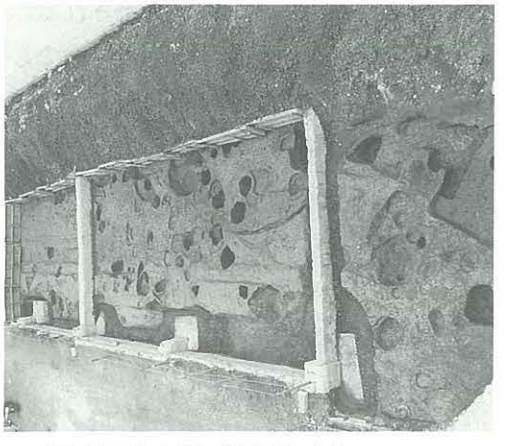
まとめ　検出された遺構は、出土土器からいずれも弥生中期後半に属す。古墳時代の遺構はみられなかった。調査地点は比恵遺跡群の中央集落西端と目され、集落範囲の変動のためこの地点の集落内での位置づけが遷移していると思われる。SE－01出土の赤彩線刻紋木製品は、比恵中央集落西端に設置された屋外標識の如きものだったかもしれない。

1996年度報告書刊行予定である。



1．調査地点の位置図(037-0127　1:8,000)


2．調査区西半部（南東から）


3．調査区東半部（北西から）

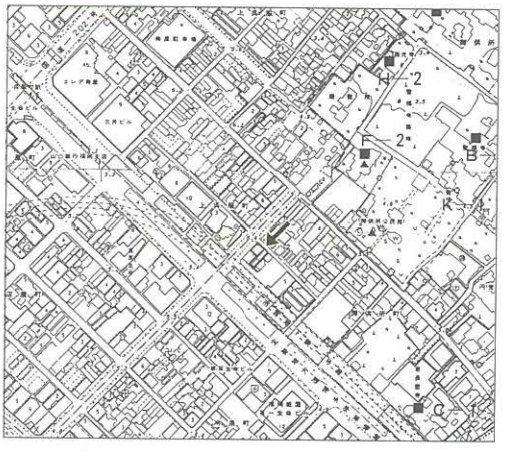
9444　博多（はかた）遺跡群第88次調査（HKT-88）

所　在　地　博多区御供所町311外
調査原因　共同住宅建設
調査期間　941001～950314
調査面積　255m²
担　当　者　佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

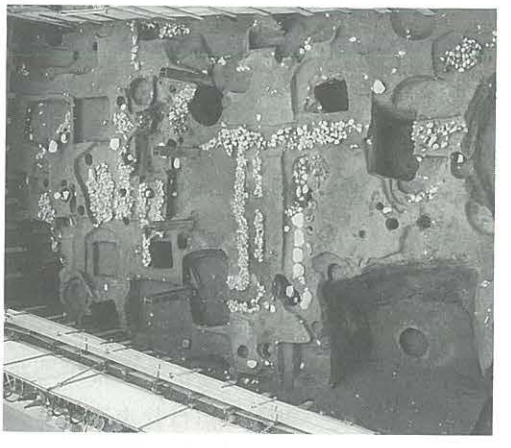
位置・環境　調査地は博多区御供所町311外、博多浜の北側に位置する。

検出遺構と出土遺物　層位を大きく４層に分け、それぞれの層の上面で遺構の検出にあたった。各層の時期は、第Ⅰ層が14世紀後半～15世紀前半、第Ⅱ層が13世紀後半～14世紀前半、第Ⅲ層が11世紀後半～13世紀前半、第Ⅳ層が８～９世紀である。第Ⅰ層上面では建物の基礎とみられる石組遺構、井戸１、土壙多数を検出した。遺構内からは、かわらけ類の他、青花、赤絵、銅製繭形分銅、笄が出土した。第Ⅰ層中からは鋳型、堝などの鋳造関係遺物が出土した。第Ⅱ層上面においても建物の基礎とみられる石組遺構、暗渠、土壙多数が検出された。第Ⅱ層中からは元代の龍泉窯系青磁、青白磁、土製人物像２、銅銭多数が出土した。第Ⅲ層上面では、規模は小さくなるが建物の基礎となる石組遺構を検出した。第Ⅳ層上面では、柱穴群が検出された。柱穴内からは白磁、青磁、土師器の他、ガラス製容器の蓋が完全な形で出土している。第Ⅳ層中からは須恵器の他、越州窯系・長沙窯系の陶磁器が少量出土している。地山の砂層上面では、８～９世紀の溝３条、弥生時代終末の甕棺墓３基を検出した。

ま　と　め　第Ⅱ層中からは龍泉窯系青磁の優品がまとまった量出土しており、特筆される。土製人物像は国内では鎌倉、博多遺跡群内でも御供所町周辺などに出土が限られており、完形品の出土は国内では初めてである。第Ⅳ層上面では井戸は全く検出されず、博多遺跡群内ではきわめて異例である。



1．調査地点の位置（049-0121 1:8,000）



2．Ⅰ区上面全景（北西から）

3．SK82土坑検出状況

9445　箱崎（はこざき）遺跡第6次調査（HKZ-6）

所　在　地　東区箱崎3丁目2437-1,4
調査原因　共同住宅建設
調査期間　941020～950131
調査面積　430.5m²
担　当　者　宮井善朗
処　　置　調査後破壊

位置・環境　箱崎遺跡は砂丘上に立地する遺跡で、福岡市の中心部にある博多遺跡群の立地する砂丘の東側に位置する。砂丘上には箱崎宮が鎮座し、その両翼に広がる遺跡である。西側は博多湾に面し、東側は宇美川に面している。今回調査地点は砂丘の南側斜面に位置するが、遺構面は風成砂ではなく、水成砂である。

検出遺構　今回調査地点は近現代の撹乱が多く、また調査区中央付近に大形の溝状を呈する近世遺構があり、遺跡の性格や、変遷については不明な点が多い。中世の遺構としては井戸、土壙があり、中世前半期頃から集落が形成されていたようである。井戸は板材を円形に巡らしたものを枠としている。近世遺構には他に井戸、土壙などがある。

出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ23箱である。中世遺物には土師器・中国陶磁器などがあり、石鍋などの滑石製品も見られる。近世遺物には多量の国産陶磁器がある。この他土錘も相当量出土している。

ま　と　め　調査地点は砂丘の縁辺に近い位置と思われ、集落の中心は大学通りとバス通りの間ではないかと考えられる。今後この周辺については開発が増加すると考えられ、慎重な対応が必要である。

1．調査地点の位置（034-2639 1:8,000）

2．北半区全景（南から）

3．井戸120

9446　志賀島（しかのしま）遺跡群第４次調査（SKS-4）

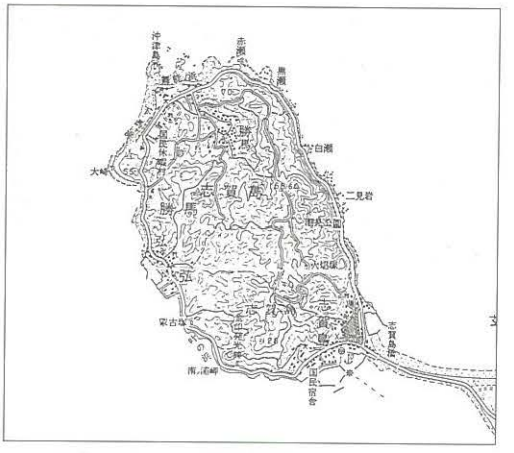
所　在　地　東区大字志賀島,弘,勝馬
調査原因　遺跡発掘事前総合調査
調査期間　940511～941031
調査面積　145㎡
担　当　者　塩屋勝利
処　　置　保存

位置・環境　志賀島は博多湾の東部を限る海ノ中道で陸繋された島で、周囲約８km、面積5.77㎢の南北に長い楕円形の島で、『万葉集』には「志賀の海人」に関する歌が数多く詠まれている。

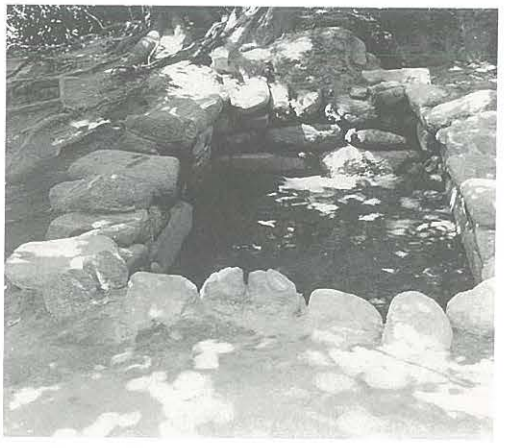
調査の概要　調査は全島の遺跡分布調査と重点地区の試掘調査を行った。南部の志賀島地区では、縄文時代後期を上限として、弥生・古墳・古代・中世の遺跡が分布し、これまで知られていたより広範囲にわたっている。弘地区はこれまで遺跡の存在は殆ど知られていなかったが、弥生時代中期初頭の城ノ越式土器をはじめ、古墳時代の須恵器・土師器の良好な包含層を確認した。勝馬地区は志賀島の中で最も多く遺跡が分布する地区であり、今回の調査では弥生時代終末～古墳時代初期の遺物包含層を新たに確認した。

「漢委奴国王」金印出土推定地の一つである叶ノ浜地区の試掘調査では、金印に関連する遺構・遺物は全く検出されなかった。勝馬の中津宮丘陵頂部の試掘では、７世紀前半代の竪穴系石室を検出し、志賀島で初めて本格的な古墳を確認できた。細形銅剣鋳型出土地隣接地（旧前田遺跡）の試掘では、遺構は確認できず、工房跡や集落はより上部の丘陵上に立地することが明らかとなった。また、かつて調査された堂山箱式石棺墓の調査では、積石塚であったことを再確認した。

ま　と　め　分布調査の結果、志賀島には弥生時代中期初頭から定住的な集落が形成されていることが知られた。金印出土推定地の調査では全く関連遺構は検出されず、出土地点や遺構の性格についてますます謎が深まった。勝馬で古墳を確認できた意義は大きく、今後は勝馬地区を重点的に調査して、志賀島の原始～古代の歴史を明らかにする必要があろう。



1．調査地点の位置（1:80,000）

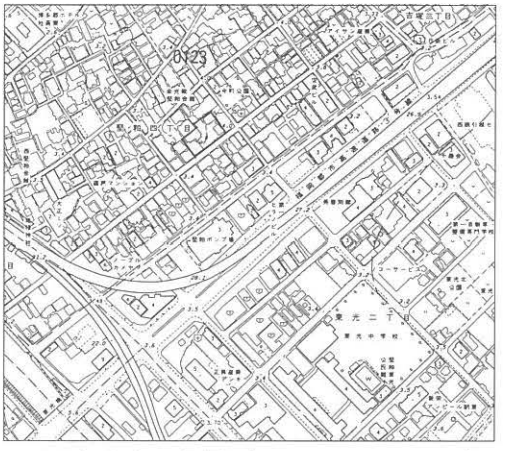

2．中津宮古墳石室検出状況

3．堂山石棺墓検出状況

9447　吉塚（よしづか）遺跡群第２次調査（YSZ-2）

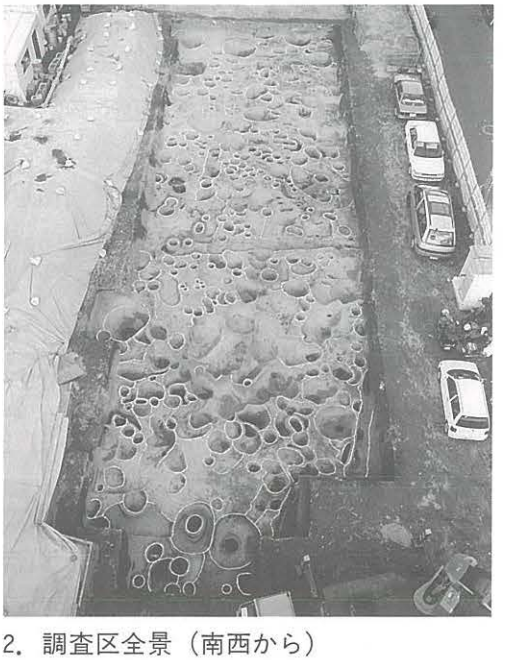
所　在　地　博多区堅粕４丁目327外
調査原因　共同住宅建設
調査期間　941107～941228
調査面積　337㎡
担　当　者　吉武学
処　　置　調査後破壊

位置・環境　吉塚遺跡は、博多湾岸の砂丘上に営まれた遺跡のひとつである。この砂丘は北東－南西の方向に伸びており、２次調査地点の周辺で最も高くなっていることが現在の地形図から見て取れる。調査前の現況は住宅地で、標高は４ｍ弱である。遺構面は地表下0.5ｍに設定した。遺構面上層に約20㎝厚の遺物包含層があり、遺構はこの層中から掘りこまれているが、撹乱等により包含層の残りが悪く、包含層上面での遺構検出が困難であったため、基盤土まで一気に掘り下げた。包含層は黒褐色砂質土、基盤上は黄白色砂である。



1．調査地点の位置（036-0123　1:8,000）

検出遺構　遺構は比較的密に検出された。
・古墳時代前期：竪穴住居跡１軒、土坑３基
・古墳時代後期：土坑多数
・古代～中世　：溝２条
　土坑多数
　掘立柱建物３棟
　竪穴住居跡２軒
　井戸４基


2．調査区全景（南西から）

出土遺物　日常土器を始めとする遺物が、コンテナにして約10箱分出土した。

ま　と　め　古墳時代前期の遺構は数は少ないが、遺物は多く、おそらく調査地点の周辺に集落が広がるものと考えられる。

古墳時代後期の土坑を多数検出しており、集落が存在する。

古代～中世の遺構は比較的濃密であった。土坑から土錘が出土しており、漁業を主な生業とする集落が存在したものと考えられる。

9448　箱崎（はこざき）遺跡第７次調査（HKZ-7）

所　在　地　東区箱崎１丁目2711外
調査原因　共同住宅建設
調査期間　941115～941227
調査面積　85㎡
担　当　者　加藤隆也
処　　置　調査後破壊

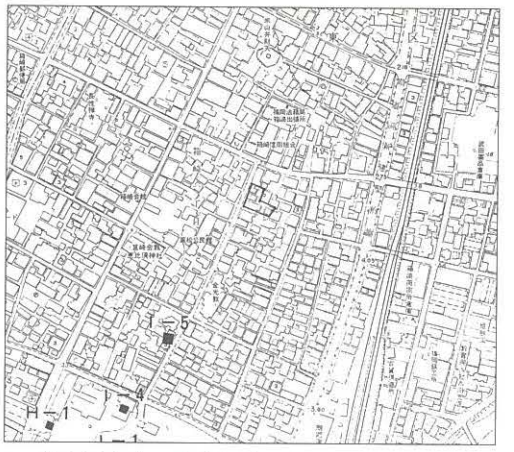
位置と環境　箱崎遺跡は博多湾岸に形成された千代松原から箱崎までのびる古砂丘上に立地し、今回の調査地点はそのほぼ中央に位置する。現標高は4.6ｍを測り、地表下1.4～1.5ｍで灰褐色砂層に達し遺構が確認できた。これまでの調査で集落・井戸・墓などが確認されている。今回の調査区においては近現代の撹乱が顕著で遺構の残存状態は良くなかった。

検出遺構　調査区内の基本層位は下層から黄褐色砂層の上に厚さ約40㎝の遺物包含層があり、その上に整地層と思われる灰白色粘質土と茶褐色粘質土との互層となっている層を確認した。調査では整地層上面を第１面とし、包含層上面を第２面、黄褐色砂層を第３面として調査を行った。主要遺構は13世紀の桶組井戸５基、土坑、柱穴が確認された。井戸群は第１面の上から掘られており、第１面・第２面では柱穴群が検出された。第３面では柱穴以外に12世紀前半の土坑が確認された。

出土遺構　遺物は総量でコンテナ７箱ほどである。内容は土師器、陶器、輸入陶磁器である青磁・白磁の碗・皿が主に出土しており、また渡来銭や滑石製の匙などもある。

ま　と　め　今回の調査は調査面積が狭く、井戸群以外は良好な遺構が少なかったが、集落関係の遺構群が残っていることが確認できた。箱崎遺跡群全体からみた、これらの遺構の分布や範囲は、今後の調査によらねばならないが、集落の景観を考える上で大きな成果となった。

報告書の刊行は1996年を予定している。



1．調査地点の位置（034-2639 1:8,000）

2．調査区全景（西から）

3．桶組井戸群（北から）

9449　三苫（みとま）遺跡群第２次調査（MTM-2）

所　在　地　東区三苫７丁目地内
調査原因　小学校建設
調査期間　941107～950127
調査面積　1,200㎡
担　当　者　榎本義嗣
処　　置　調査後破壊

位置・環境　三苫遺跡群は玄界灘に面する独立低丘陵上に立地し、南東側には舌状に派生する小丘陵を有する。本調査区はその丘陵先端部付近に位置する。調査区は丘陵を南北に横断しており、中央部から南北両端に傾斜する。遺構は黄褐色土上面で検出され、標高は4.3～6.2ｍを測る。

検出遺構
・弥生時代：竪穴住居（中期）１軒
・古墳時代：滑石製品工房（後期）２軒
　竪穴住居（前期、後期）14軒
　土坑、溝、ピット
・中世：土坑１基

弥生時代の竪穴住居は円形を呈し、東半部は調査区外に位置する。復元径は約９ｍを測り、壁溝を有する。

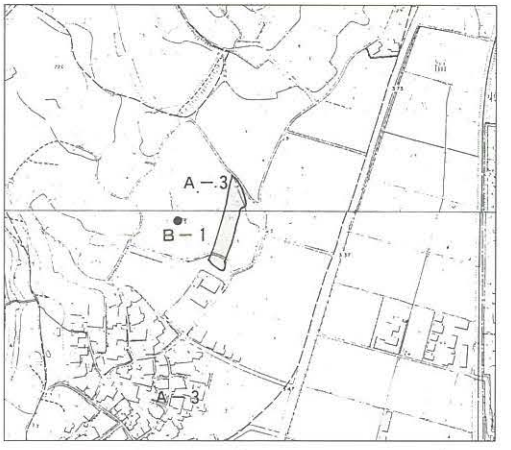
滑石製品工房と考えられる遺構は、調査区北側（SC001）及び中央部南側で検出した。遺存状況の良好なSC001は１辺4.5ｍの方形を呈し、多量の滑石製品と共に未製品、滑石剝片、原石が出土した。構造は一般竪穴住居と類似するが、中央部に径１ｍ、深さ20cmの作業用と考えられる土坑が検出された。

古墳時代の竪穴住居は中央部南側に重複し、検出された。後期に属するものは竈・壁溝を有する。

出土遺物　遺物の総量はコンテナ60箱で、黒曜石、弥生土器、土師器、須恵器、鉄製品等の他に上述した滑石製品（臼玉・勾玉・管玉・石錘・紡錘車・有孔円盤）がある。

ま　と　め　今回の遺構検出状況から、同丘陵上の西側高所には、古墳時代後期の集落が更に拡がっている可能性が高い。工房出土遺物は滑石製品製作工程を復元する上での格好の資料となる。また、その供給場所についても興味がもたれる。

なお、報告書は1996年に刊行予定である。



1．調査地点の位置（028-A-3　1:8,000）

2．調査区全景（北から）

3．SC001検出状況（東から）

9450　野芥（のけ）遺跡群第４次調査（NOK-4）

所　在　地　早良区野芥４丁目
調査原因　市営住宅建設
調査期間　941107～950812
調査面積　12,000㎡
担　当　者　常松幹雄・屋山洋・中村啓太郎
処　　置　調査後破壊

位置と環境　野芥遺跡群は早良平野、油山丘陵の裾に位置し、南北約1,500ｍ東西約250ｍにわたる遺跡群である。調査地は遺跡群の南部、標高29～34ｍに立地する。現況は市営住宅であったが、遺構の保存状況は意外に良好であった。

検出遺構　弥生時代から中世の遺構を多数検出した。

・弥生時代：竪穴住居、土坑、柱穴
・古墳時代：竪穴住居、土坑、柱穴
・古代　　：掘立柱建物、布掘建物、土坑、溝、柱穴
・中世　　：池状遺構？、掘立柱建物、土壙墓、土坑、溝、井戸、製鉄関連遺構、柱穴

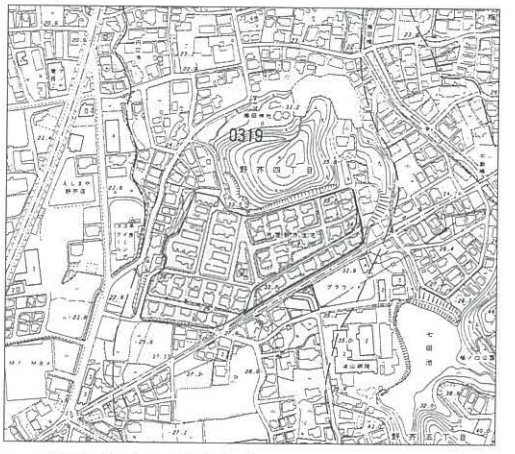
池状遺構は長軸9.1ｍ、短軸6.1ｍを測り、内部に築山状の削り出しを２つ有し、底面には人頭大に石が一面に広がる。

出土遺物　総量でコンテナ120箱の遺物が出土した。

旧石器時代、縄文時代の石器、弥生土器、古墳時代から古代にかけての土師器、須恵器、中世の輸入陶磁器類、土師皿等が遺構を中心に出土した。また直接遺構に伴わないが、多量の瓦が出土しており、鬼瓦が２点出土している。

ま　と　め　今回の調査では、弥生時代から中世にかけて多数の遺構が検出された。概ね古墳時代までは一般的集落の様相を示すが、古代には建物が大型化し、公的機関の存在が考えられる。中世の池状遺構は庭園の可能性がある。これに関連する建物は検出されていないが、多量の瓦の出土はその存在を伺わせる。

報告書は1997年刊行予定である。



1．調査地点の位置（084-0319 1:8,000）

2．調査区全景

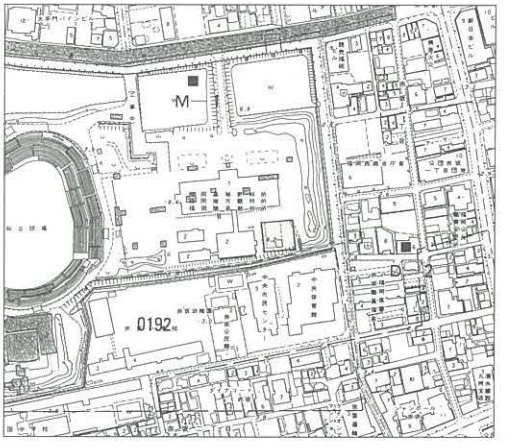
3．池状遺構

9451　福岡城跡（ふくおかじょう）第29次調査（FUE-29）

所　在　地　中央区城内1-1
調査原因　裁判所庁舎建設
調査期間　941017～950224
調査面積　1,276㎡
担　当　者　力武卓治
処　　置　盛土保存

位置と環境　調査地点は、国史跡福岡城の三の丸東端に位置している。江戸時代の福岡城絵図によると家老屋敷に当り、明治時代以降は軍施設に利用された。さらに戦後は一時米軍が占有し、現在は福岡高等裁判所などの庁舎が建っている。

古代の迎賓館である鴻臚館跡は当該地の西約200ｍと近接した場所にあり、鴻臚館関連施設の発見も期待された。なお裁判所敷地内は昭和38、39年にトレンチ法による発掘調査が行われているが、その東側に当たる。



1．調査地点の位置（060-0193 1:8,000）

検出遺構と出土遺物　古墳時代：溝１条。北西から南東方向に深くなり、６世紀代の須恵器、土師器が出土した。溝の一部だけなので性格は不明だが、この一帯に生活跡や古墳などの遺構があったことが推測される。福岡城内ではこれまで古墳時代の遺物は発見されていたが、遺構確認は最初のことであり注目される。

古代・中世：遺構は検出できなかったが、鴻臚館と同時期の瓦、中国製陶磁器などが出土した。古墳時代の溝が残っていることから、古代には大きな削平はなかったと思われるが、これらの遺物の分布状況から、鴻臚館施設の範囲をある程度限定できるようになった。

2．古墳時代の溝

江戸時代：井戸１基、礎石数個、瓦だめを検出。瓦だめには多量の瓦に混じって陶磁器類が堆積している。おそらく福岡城廃城時に屋根から一度に落としたのであろう。瓦には瓦工の名前を刻印したものがあり、当時の瓦生産とその供給状況をも知ることができる。

ま　と　め　明治時代から戦後まで軍施設として使用されたために刀剣、銃弾、薬品瓶などの特殊遺物が数多く出土し、当該地の歴史的変遷を明らかにするうえで貴重である。これら検出した遺構は真砂土で厚く覆い保存処置を施した。

3．江戸時代の井戸と軍施設の埋設管

9452　南八幡（みなみはちまん）遺跡群第5次調査（MHM-5）

所　在　地　博多区寿町2丁目84,85-1
調査原因　ビル建設
調査期間　941201～941220
調査面積　56m²
担　当　者　白井克也
処　　置　調査後破壊

位置・環境　福岡平野南東部に所在する南八幡遺跡群の中央に当たり、第4次調査の南側隣接地で、標高20mである。北東に高く南西に低い旧地形が削平され、現況では南高北低の緩斜面をなす。

現代の撹乱層直下の鳥栖ローム上面で遺構を検出したが、調査区南西隅でわずか数センチ黒色包含層が残っていた。ローム層は調査区南西寄りでは茶褐色を、北東寄りでは明るい黄色を呈する。

検出遺構　旧地形のもっとも低かった敷地の南西隅に、竪穴住居跡1棟が良好に遺存していた。

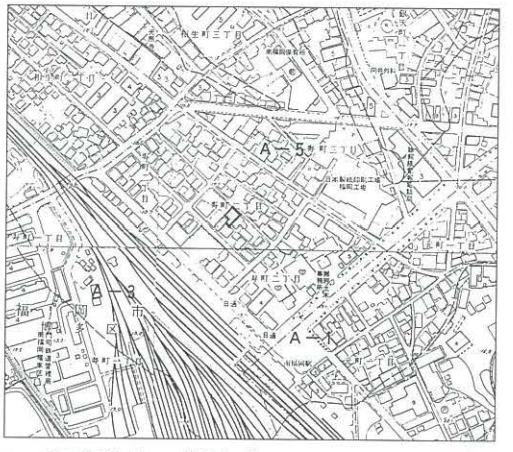
竪穴住居跡SC01は弥生時代後期に属す。長方形を呈し、主柱穴は確認されなかった。床面に直接柱を立てたとみられる。南壁沿いにロームを貼ってベッドとする。東壁沿いのSK01の底の小ピット2基はそれぞれ外寄りの位置に細長く柱痕跡が確認された。西壁下のSK02は、住居跡西壁の下に入り込んでいる。

なお、遺構覆土中には全く石器を混ぜず（床面出土の砥石を除く）、鳥栖ローム層を掘り下げてもローム層中の遺物は確認されなかった。

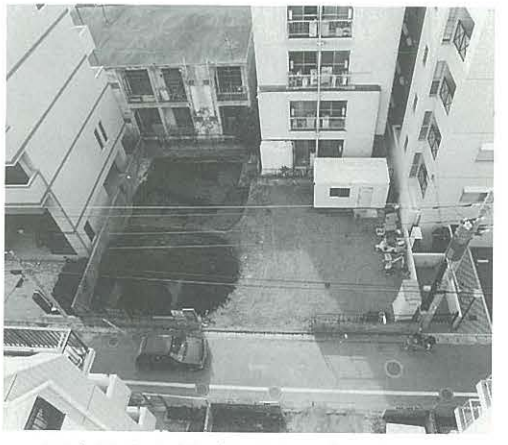
出土遺物　遺構からコンテナ4箱の遺物が出土した。SC01床面より完形の弥生時代後期土器と砥石が出土したほか、覆土下層（茶褐色土）から完形に近い弥生土器十数点が廃棄された状態で出土した。覆土上層（黒色土）からもわずかに土器片数片が出土した。すべて弥生時代後期に属す。

まとめ　南八幡遺跡群は古代の集落遺跡として知られていたが、今回の調査で弥生時代後期の集落も存在した可能性が示された。ただし、集落として大々的に展開するといった類のものではなかったこともわかる。

1996年報告書刊行予定である。



1．調査地点の位置（012-0051 1:8,000）


2．調査地点全景（北西から）

3．SC01

9453　雀居（ささい）遺跡第8次調査（SAS-8）

所在地　博多区雀居（福岡空港西側整備地区）
調査原因　空港整備
調査期間　941107～950320
調査面積　4,850㎡
担当者　松村道博・白井克也
処置　調査後破壊

位置・環境　三笠側の右岸に位置し、標高５ｍに前後の沖積地に立地する。調査地点は、福岡空港の西側整備地区にあたり昨年度調査した２・３次調査の北及び東に隣接する。

検出遺構　２・３次調査と同様な遺構の在り方を示し、上層に古代末の集落跡、その下に洪水砂を挟んで８～９世紀の水田跡の調査を行った。集落跡は洪水で埋まった微高地に立地する。遺構の遺存は悪く、溝６条と土壙16基を検出したに過ぎない。溝の中にはＬ字状に屈曲するのもあり建物を区画するものか。遺物は土師器の小皿等が少量出土しており11世紀前後の一時期の集落が存在していたものであろう。下層の水田は10～30㎝の洪水砂に覆われ検出が容易であった。中央部から南側にかけては自然の流路があり畦畔及び水田耕土が流出し、基盤層の上の砂層を取り除く凹凸が著しく水田面を確認出来なかった。北半分には建物の基礎や地下貯蔵庫等多くの撹乱が認められたが、地山削り出しの畦畔を伴う水田を検出した。水田跡は計11枚を確認し、更に北側へ拡がる。畦畔は幅30～40㎝、高さ20㎝前後でほぼ直線的に延びる。畦畔は十字に交わることはなくＴの字に交わり、水田の平面形も長方形を示す。水田の広さは統一性は認められないが200㎡前後のものが多い。

出土遺物　遺物の量は少なく集落跡と水田跡から出土したものも含めてコンテナ６箱の出土である。水田跡からは「花」と墨書した坏も出土している。

ま と め　空港西側地区の調査を1991年度から実施し、大まかに全体の概要が把握出来た。縄文時代晩期から微高地上に進出が始まり、中期に衰微し、後期から古墳時代にかけて隆盛を極め、その後は水田可耕地となり、古代末に一時期集落が築かれその後は水田地帯となる。

1．調査地区の位置図（022-2633　1:8,000）

2．上面遺構全景

3．水田全景（北東から）

9454　野芥（のけ）遺跡群第5次調査（NOK-5）

所在地　早良区野芥2丁目,干隈6丁目
調査原因　外環状道路建設
調査期間　940420～941215
調査面積　5,555m²
担当者　山崎龍雄
処置　調査後破壊

位置と環境　野芥大藪遺跡とは西に川を隔てた位置関係にあり、標高は約15～16mを測る扇状地状の地形に立地する。今回の調査で初めて遺構が確認された。

検出遺構　調査は道路を基準に5区域に分けて行った。以下それぞれ述べる。

・6区　調査面積1,070m²。地表下1m位で溝、ピット、土坑などを検出した。時期は古墳時代か。

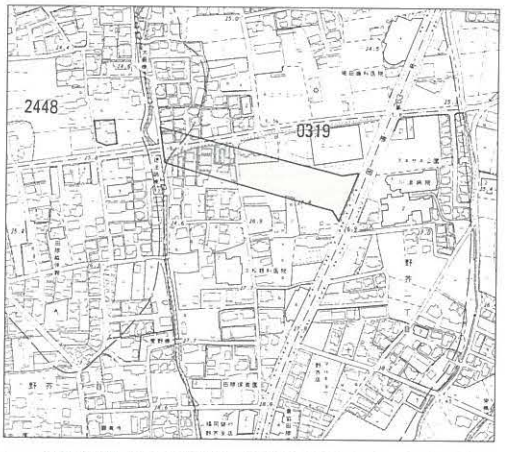
・7区　調査面積83m²。深さ70cmの所でピット群を検出した。遺物の出土が無く、遺構の時期・性格は不明。

・8区　調査面積234m²。深さ約1mで検出した。溝や土坑、ピットで、時期は古墳時代が主体である。

・9・10区　調査面積4,168m²。隣接する地区でまとめる。遺構面は2面あり、上面は古墳時代の集落と中世以降の水田、下面はそれ以前の水田面を検出した。上面では竪穴住居址3軒、掘立柱建物2棟、土坑、溝、ピット群などである。下面は溝と足跡群を確認した。9区のほうが遺構面が高く集落が集中し、10区は溝と水口、不明土坑、ピットが主体となる。

出土遺物　遺物は調査面積の割りにはそれ程多くない。9・10区からの出土が多い。遺物は縄文晩期の土器・石器、弥生土器・石器、古墳時代の土師器・須恵器、中世の土師器・陶磁器、近世の陶磁器、古墳時代のガラス玉などがある。

まとめ　今回の調査で、外環状道路の調査で初めて古墳時代の竪穴住居址を検出した。竪穴住居は調査区の高所部に立地しており、周辺の微高地にも集落が点在する可能性がある。9区の弥生時代の溝からは磨滅した突帯文土器の破片がかなり出土しており、該期の遺構が上流部にある可能性がある。また9区で検出された足跡群から、水田の存在が認められる。今回の調査では明確に確認できなかったが、周辺特に北側では水田遺構が確認される可能性がある。



1. 調査地点の位置（083-0319 1:8,000）

2. 9区全景

3. 9区竪穴住居址検出状況

9455　飯氏古墳群A群1号墳第1次調査（IJK-A-1）

所　在　地　西区大字飯氏字マツヲ
調査原因　重要遺跡確認調査
調査期間　941214～950420
調査面積　195㎡
担　当　者　杉山富雄
処　　置　埋め戻し保存

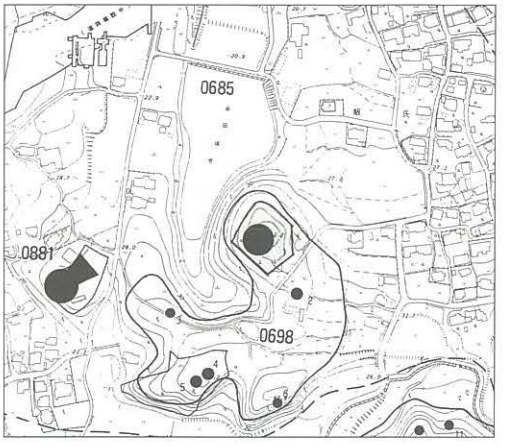
位置と環境　本古墳は、高祖山から延びる丘陵の末端部、標高40ｍ程の孤立丘状の地形を利用して築造されている。谷によって隔てられた西側に、飯氏二塚古墳が立地している。

検出遺構　古墳の石室は、江戸時代の盗掘により開口している。墳丘は、1954年頃に上半部が削られて、その折りの土砂が、残る墳丘を覆っている。調査はトレンチによりおこなった。

各トレンチの成果と現況測量の成果から、墳丘の平面形は、短い前方部をもつ前方後円墳と復元できよう。後円部では現状で、２段の段築を確認し、それの各斜面に葺石が遺存している。各段に円筒埴輪が置かれていたことがこの出土位置からわかる。墳丘の規模は、葺石の配置から、後円部の径42ｍ、現況実測図から、前方部を含めた長さ54ｍ以上、さらに、高さは５～６ｍ程であったことが推測される。

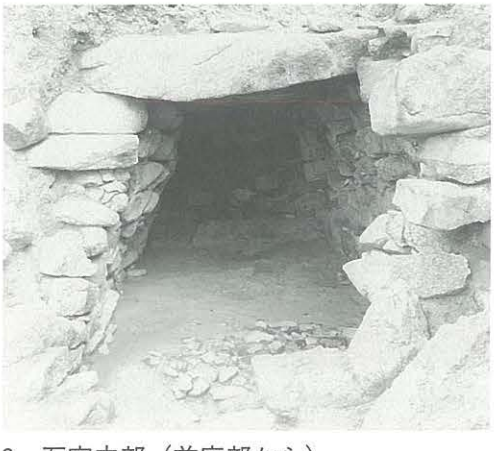
石室は、盗掘により、入口部分の半ばと床面の大半が破壊されている。石材には花崗岩の転石を用い、基部に方柱状の大礫を配するほかは多く枕大前後の材を用いる。入口部分は、玄室と同様の構造で短い羨道部を作り付け、その床面の位置は、玄室床面より一段高かったように復元できる。石室の前庭部の床面はほぼ水平に前方部へ向かって広がっている。前庭部は、埋葬後埋め戻され、葺石を葺き直したものと観察される。石室は、古墳長軸に合わせて構築され、玄室の長さ4.3ｍ、最大幅2.3ｍ、高さ1.7ｍを測る。羨道部は長さ1.0ｍ程であると復元できる。

出土遺物　石室内で、盗掘時及び盗掘後の堆積土からガラス製丸玉、鉄器細片を出土したほかに、墳丘の堆積土から、円筒埴輪を出土している。また、墳丘および周辺から、須恵器の破片若干を採集している。



1．調査地点の位置（121-0698 1:8,000）

2．後円部墳丘の検出（北から）


3．石室内部（前庭部から）

9456　四箇（しか）遺跡群第26次調査（SIK-26）

所　在　地　早良区重留７丁目8-8
調査原因　道路建設
調査期間　941215～950118
調査面積　75㎡
担　当　者　屋山洋
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、室見川を中心とする河川によって形成された沖積台地状に位置する。北側は1987年に老人福祉センター建設に伴い調査（四箇遺跡群第22次調査）がされており、中世水田、縄文晩期～弥生初頭・古墳時代等の溝、縄文時代中期初頭の包含層等が出土している。

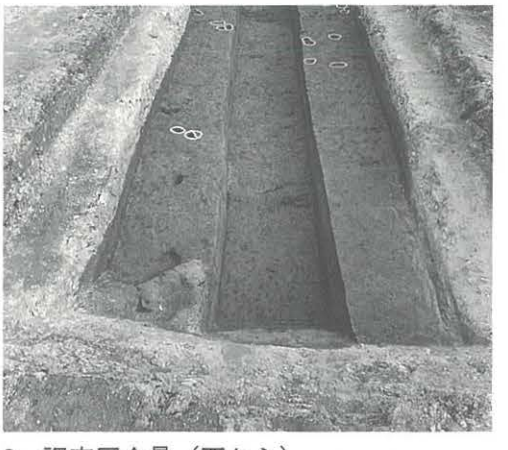
検出遺構　・縄文時代包含層
・近世水田

出土遺物　遺構・包含層からコンテナ１箱の遺物が出土した。縄文包含層からは鷹島式土器が１点、スクレイパー・石鏃等が出土した。

ま　と　め　縄文包含層の下に２～３cmほどの黄色粘質土層が広がっており、火山灰層の可能性も考えられる。

1997年報告書刊行予定である。

1．調査地点の位置（084-0320 1:8,000）


2．調査区全景（西から）

3．出土遺物

9457　井相田（いそうだ）C遺跡群第5次調査（ISC-5）

所在地　博多区井相田2丁目8-3
調査原因　共同住宅建設
調査期間　950109～950303
調査面積　900㎡
担当者　吉武学
処置　調査後破壊

位置・環境　井相田C遺跡群は福岡平野の東部に位置し、御笠川中流域の沖積微高地上に立地している。現在の行政単位では福岡市南東部にあって、大野城市との境に接するが、同一の微高地上に位置する遺跡を福岡市では井相田C遺跡群、大野城市では仲島遺跡と便宜上別々に取り扱っている。5次調査地点は井相田C遺跡群の南端にあたり、東に水田一筆を挟んで仲島遺跡となる位置にあり、両遺跡の関連性を考える上で、注目される調査となった。

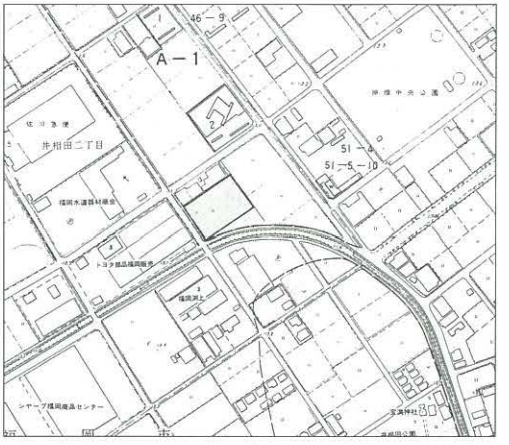
検出遺構　地表下80cmで遺構面となる。古墳時代～中世の集落跡と水田跡を検出した。検出した遺構を時代別に列記すると、

・古墳時代前期：水田水路1（給排水口を持つ）
・古墳時代後期：溝1
・古代　：掘立柱建物1（出土遺物が無く、時期は不確実）
・中世　：水田跡（農耕牛の足跡が残る）
　河川1
・中世以降　：杭列2

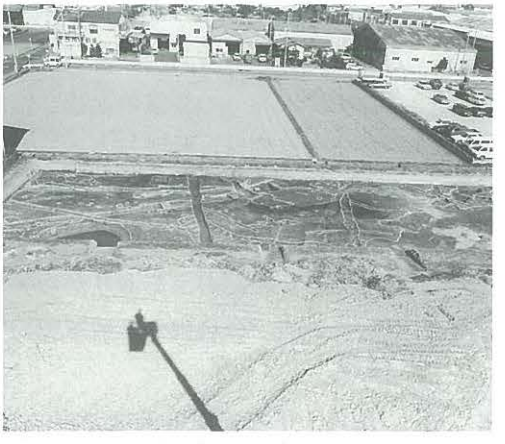
である。集落遺構は古代に限られ、調査区北西隅に掘立柱建物1棟を検出したのみである。他の時代は全て水田に関わる遺構が検出された。

出土遺物　出土遺物はコンテナにして約5箱分であり、弥生時代、古墳時代、古代、中世にわたる多様な遺物がある。なかでも調査区の南側に検出した中世の河川からは弥生時代～中世の土器に混じって古代のものと見られる木簡2点が出土しており、内一点は短冊形を呈し、切り込みを施す。表面には墨の痕跡は認められたものの、文字は判読できず、おそらく表面を削って再利用しようとしたものと考えられる。

まとめ　調査地は中世に水田を造成する際に削平されており、それ以前の時代の遺構の残りが悪かったが、古墳時代前期以降、連綿として水田として利用されてきた可能性が高いことを示している。これにより、これまで井相田C遺跡で調査されてきた古代集落の境界を把握でき、なおかつ集落の縁辺部で水田が営まれていたことの傍証を確認できたことが最大の成果と言えよう。



1．調査地点の位置（012-2630 1:8,000）


2．調査区全景（西から）

3．調査区全景（南から）

9458　西新町（にしじんまち）遺跡第９次調査（NSJ-9）

所　在　地　早良区西新５丁目564外
調査原因　自宅兼共同住宅建設
調査期間　950119～950424
調査面積　920㎡
担　当　者　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、博多湾岸の中央部、東西に延びる新砂丘の南後背緩斜面に位置し、標高3.7ｍの包含層上と標高3.3ｍの水成砂上に遺構面が広がる。現状は宅地で、地表下３ｍを測る。

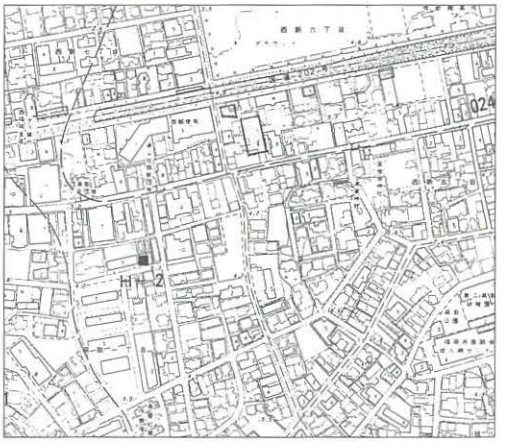
検出遺構
・弥生時代中期　：竪穴住居６軒、土壙８基、土器溜り２基
・弥生終末～古墳時代：竪穴住居15軒、木棺墓1基、土壙33基、溝1条
・古代　：溝１条
・近世～近代　：井戸３基、高取焼等廃棄土壙15基
・他柱穴多数

出土遺物　遺物は弥生中期の土器を主体に、弥生終末～古墳時代初頭の古式土師器・高取焼・窯道具等コンテナ80箱分の多量の遺物を検出した。古式土師器の時期には鉄関連の遺物が目立ち、複数の住居内から板状鉄斧１・鉄鏃２・釣針１・鉄片３点、包含層中から鉄滓・鞴羽口を数点検出している。中期の土器溜りからアサリ・カキの貝殻を数点、住居内から翡翠製勾玉片を検出している。

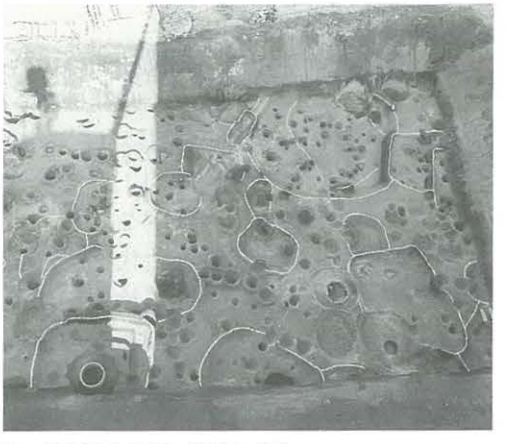
ま　と　め　奈良～平安前期の溝は砂丘に並行して東100ｍの７次調査区から続いている。多数の柱穴は古墳時代～奈良～平安前期の掘立柱建物に対応すると思われる。本遺跡内の弥生中期甕棺墓に対応する生活遺構は東に隣接する第８次調査で初めて竪穴住居を１軒検出したが、本調査区では６軒以上を検出しており、うち１軒は径９ｍの大型の円形住居であり、集落の中心をなしていると思われる。

古墳時代の木棺墓は割竹か舟底形と思われ、長脚鏃10数本・刀子1 ・錫環1 ・滑石製臼玉多数を副葬する。

報告書は1997年刊行予定である。



1．調査地点の位置（072-0240 1:8,000）


2．調査区全景（西から）

3．SC85板状鉄斧出土状況（北から）

9459　清末（きよすえ）遺跡群第４次調査（KYS-4）

所　在　地　早良区東入部,西入部
調査原因　下水道整備
調査期間　950209～950403
調査面積　672㎡
担　当　者　屋山　洋
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は室見川の右岸の貞島川等が形成する沖積台地上に位置する。北側は1990年に調査された清末遺跡群第２次調査に接し、12世紀中頃の大型建物、14世紀の居館址等が検出されている。

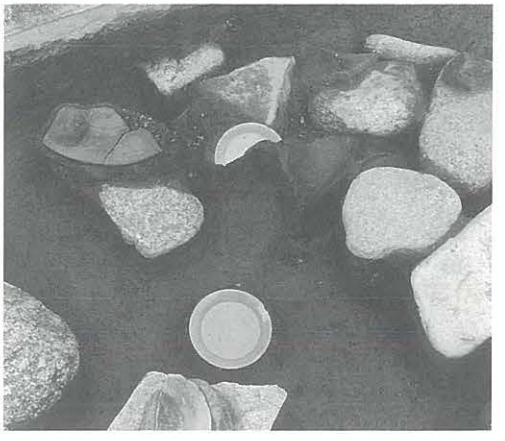
検出遺構　・古墳時代　　：溝３条、包含層
・古代末～中世：溝17条、土壙20基、土壙墓３基、井戸１基

出土遺物　遺構からはコンテナ24箱の遺物が出土した。遺物としては、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・青磁器・白磁器・貨幣・滑石製品・漆製品等がある。

ま　と　め　今回の調査は下水道整備に伴うもので調査区が非常に細長く、全体を把握するのが困難であるが２次調査に隣接する部分では居館区を区画すると考えられる溝を検出した。また、溝の西側では直線状に並ぶ柱穴９個を検出した。遺物はないが２次調査の２・３期の建物に伴う可能性があり、西側に遺構が広がる可能性がでてきた。

1．調査地点の位置（094-0341 1:8,000）

2．調査区東側


3．遺物出土状況

9460　原（はら）遺跡群第17次調査（HAR-17）

所　在　地　早良区原７丁目881-1
調査原因　戸建分譲住宅建設
調査期間　950206～950322
調査面積　730㎡
担　当　者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査区は、原遺跡群の南東部の東側に稲塚川が流れる沖積台地上に立地し、標高は約６ｍを測る。現況は水田であった。

検出遺構　遺構は水田耕作土20～40㎝下の褐色地山粘土上面で確認した。遺構は主に南側で検出された。北側は後世の造成によるものか、遺構の残りは悪い。検出遺構の時代は弥生時代から中世である。主な検出遺構は以下のとおり。

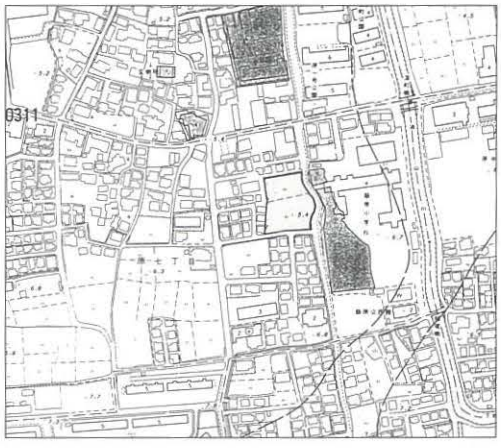
・弥生時代前期：土坑２基
・弥生時代中期～古墳時代前期：竪穴住居址３軒、掘立柱建物１棟、土坑、溝１条
・中世：溝３条、土坑

掘立柱建物は南北棟で、妻側に棟持ち柱を有す。竪穴住居址は残りが悪く、床面と壁溝を残すだけだが、ベッド状遺構と出入り口部の土坑を有し、主柱は２本である。溝はいずれも小溝である。

出土遺物　遺物は土坑、溝を中心に弥生時代から古墳時代にかけての遺物が多く、総量でコンテナ25箱程出土した。種類としては弥生土器が比較的多い。滑石製勾玉１点、越州窯青磁片などを含む。

まとめ　今回の調査では、原遺跡群で最も古い弥生前期の時期の遺構を確認出来た。該期の集落が当地点の南側を中心に広がっている事が予想される。東側の原深町遺跡では大溝から、弥生時代前期から古墳時代前期の遺物が多量に出土しているが、それらの時期の集落が西側の台地に存在することが確認できた。

報告書は1996年に刊行する予定である。



1．調査地点の位置（082-0311　1:8,000）

2．調査区全景（南から）

3．SK60（西から）

平成6年度調査遺跡索引（五十音順）

遺跡名	次数	調査番号	P
〔ア行〕			
有田（ありた）遺跡群	175	9401	23
有田遺跡群	176	9417	39
有田遺跡群	177	9422	44
飯氏（いいじ）古墳群A群	1	9455	77
井尻（いじり）B遺跡群	5	9408	30
井相田（いそうだ）C遺跡群	5	9457	79
板付（いたづけ）遺跡	66	9424	46
大原（おおばる）E遺跡	1	9434	56
〔カ行〕			
堅粕（かたかす）遺跡群	6	9419	41
カルメル修道院(しゅうどういん)遺跡	4	9410	32
清末（きよすえ）遺跡群	4	9459	81
玄界海底（げんかいかいてい）遺跡	1	9426	48
〔サ行〕			
雀居（ささい）遺跡	7	9435	57
雀居遺跡	8	9453	75
雑餉隈(ざっしょのくま)遺跡群	5	9407	29
雑餉隈遺跡群	6	9431	53
四箇（しか）遺跡群	25	9409	31
四箇遺跡群	26	9456	78
志賀島（しかのしま）遺跡群	4	9446	68
重留村下(しげとめむらした)遺跡群	1	9403	25
下月隈（しもつきぐま）B遺跡群	2	9402	24
下月隈B遺跡群	3	9430	52
下月隈C遺跡群	1	9404	26
鋤崎（すきさき）古墳群A群	3	9425	47
〔タ行〕			
天神森(てんじんもり)遺跡群	3	9413	35
〔ナ行〕			
那珂（なか）遺跡群	47	9414	36
那珂遺跡群	48	9437	59
那珂遺跡群	49	9438	60
那珂遺跡群	50	9439	61
永浦（ながうら）遺跡	86	9362	86
長峰（ながみね）甕棺遺跡	2	9462	84
〔ナ行〕			
西新町（にしじんまち）遺跡	7	9411	33
西新町遺跡	8	9440	62
西新町遺跡	9	9458	80
野芥（のけ）遺跡群	4	9450	72
野芥遺跡群	5	9454	76
〔ハ行〕			
博多（はかた）遺跡群	84	9423	45
博多遺跡群	85	9433	55
博多遺跡群	86	9436	58
博多遺跡群	87	9442	64
博多遺跡群	88	9444	66
箱崎（はこざき）遺跡	6	9445	67
箱崎遺跡	7	9448	70
原（はら）遺跡群	17	9460	82
比恵（ひえ）遺跡群	53	9415	37
比恵遺跡群	54	9443	65
比恵遺跡群	55	9461	83
東入部(ひがしいるべ)遺跡群	10	9427	49
東入部遺跡群	9	9418	40
東那珂（ひがしなか）遺跡	2	9406	28
福岡城（ふくおかじょう）跡	26	9416	38
福岡城跡	27	9420	42
福岡城跡	28	9432	54
福岡城跡	29	9451	73
福岡城跡	30	9463	85
藤崎（ふじさき）遺跡群	26	9405	27
古田（ふるた）B遺跡	1	9428	50
〔マ行〕			
三苫（みとま）遺跡群	2	9448	71
南八幡(みなみはちまん)遺跡群	5	9452	74
麦野（むぎの）A遺跡群	4	9412	34
席田大谷（むしろだおおたに）遺跡群	5	9421	43
〔ラ行〕			
立花寺（りゅうげじ）遺跡群	4	9439	61
立花寺B遺跡群	1	9429	51

附　平成6(1994)年度刊行報告書一覧

（　）内は、報告された遺跡の調査番号

第316集　「福岡城　月見櫓」（9065）
第391集　「志賀島・玄界島」（9426・9446）
第392集　「博多　43」（9323）
第393集　「博多　44」（9222）
第394集　「博多　45」（9205）
第395集　「博多　46」（9126）
第396集　「博多　47」（8648・8976）
第397集　「博多　48」（8963）
第398集　「那珂遺跡　13」（9328）
第399集　「那珂　14」（9225・9264・9308・9347）
第400集　「東那珂遺跡　1」（9343）
第401集　「比恵遺跡群　（15）」（9211・9318）
第402集　「比恵遺跡群　（16）」（9237）
第403集　「比恵遺跡群　（17）」（9240）
第404集　「比恵遺跡群　（18）」（9361）
第405集　「堅粕　2」（9419）
第406集　「雀居遺跡　2」（9241）
第407集　「雀居遺跡　3」（9317）
第408集　「席田青木遺跡　2」（9304）
第409集　「中南部　（4）」（9002・9316・9324・9349・9367）
第410集　「環境整備遺構確認調査　板付遺跡」（8866・8990・9050・9051・9052・9141・9266・9330・9331）
第411集　「井尻B遺跡　2」（9201）
第412集　「井尻B遺跡　3」（9335）
第413集　「野多目台」（9204・9313）
第414集　「警弥郷B遺跡　2」（9366）
第415集　「福岡城跡」（9345）
第416集　「鴻臚館跡　5」（9326）
第417集　「長尾遺跡」（9212）
第418集　「四箇遺跡25次調査　熊本遺跡2次調査」（9351・9409）
第419集　「藤崎遺跡　10」（9356）
第420集　「クエゾノ遺跡」（9213）
第421集　「東入部遺跡群　4」（9348・9418）
第422集　「四箇船石　1」（9048・9133・9350）
第423集　「田村遺跡　XI」（9248・9320）
第424集　「入部　V」（9163）
第425集　「小笠木」（9370・9371）
第426集　「有田・小田部　第21集」（8854・8960）
第427集　「有田・小田部　第22集」（8116・8209・8220・8214）
第428集　「四箇周辺遺跡群　（6）」（7813・7849・8015）
第429集　「周船寺遺跡群」（9001）
第430集　「大原A遺跡　1」（9220）
第431集　「大原A遺跡　2」（9220）
第432集　「桑原遺跡群」（9243・9254）
第433集　「大原C遺跡　1」（9346）
第434集　「都地遺跡　（4）」（9311・9117）
第435集　「飯氏二塚古墳」（9258）
第436集　「徳永古墳群　3　女原上ノ谷製鉄址」（9235・9337）
第437集　「吉武遺跡群　VII」（8102・8234・8335・8416・8518・8535）
第438集　「野方久保遺跡　3」（9232）
第439集　「史跡　板付遺跡　環境整備報告」
第440集　「飯倉D遺跡」（9360）

福岡市埋蔵文化財年報　Vol.8　1993年度
「福岡市文化財分布地図（西部II）」

福岡藩主黒田家墓所

所有者　宗教法人　東長寺　代表役員　藤田　泰實

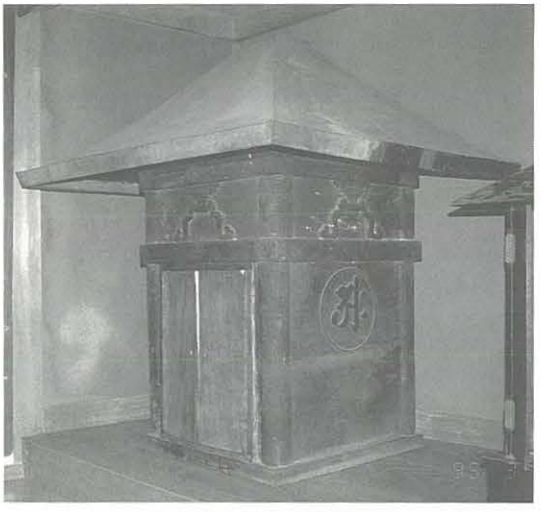
所在地　博多区御供所町２番４号

福岡二代藩主黒田忠之（慶長７年・1602～承応３年・1654)、三代藩主黒田光之（寛永５年・1628～宝永４年・1707)、八代藩主黒田治高（宝暦４年・1754～天明２年・1782）の墓所である。

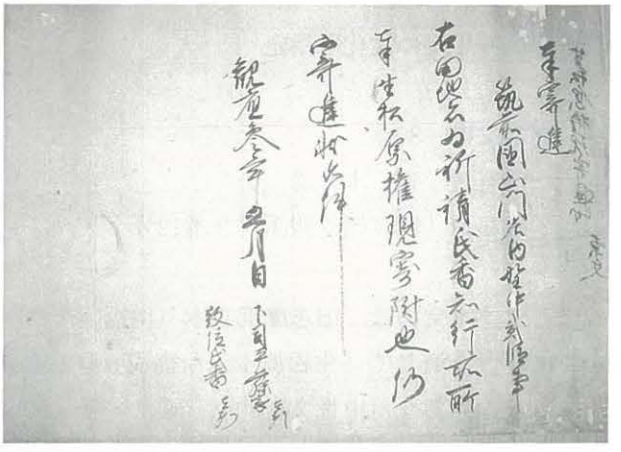
墓碑は三藩主とも花崗岩製の五輪塔であり、それぞれの墓碑は兜率天の摩尼宝殿に由来する四十九本の花崗岩製の卒塔婆で囲まれる。

忠之の墓前とその傍らには殉死した家臣５名と山伏秀栄の五輪塔が建つ。

現在の境内地は明治の市内電車開通、最近の地下鉄建設のため狭められているが、江戸時代の境内図や明治33年の測量図に照らしても三墓塔の位置は当初の位置を保っている。



銅造塔婆型厨子



青木文書

福岡藩主黒田家墓所

III　文化財調査の概要

(1)　文化財調査

福岡市の絵馬調査

平成４年度から始めた絵馬の所在調査について平成６年度を以て終了した。対象となった社寺は135社寺。江戸時代から現代に至るまでの2,373点の所在を確認するとともに、１点毎に写真を撮り、調書を作成した。引き続き、目録作成及び報告書作成を計画している。

区	東	博多	中央	南	城南	早良	西	計
社寺	9	23	5	7	21	30	40	135
点数	226	559	165	64	217	438	712	2,373

(2)　平成６年度の文化財指定

青木文書　80点

所有者　青　木　眞　夫

所在地　西区姪浜四丁目９番12号

本文書は、旧志摩郡青木（現福岡市西区今宿青木）を名字の地とした土豪であり、中世時代を通じて「生松原十二所権現」（現壱岐神社ヵ）の大宮司であった青木氏に伝えられたものであり、中世文書30点、近世・近代文書50点の計80点からなる。

このうち、南北朝時代の観応３年（1352）の寄進状から戦国時代の大友義統の書状までからなる中世文書は、生松原、下山門、十六丁等を庄域とした山門庄に関する一連のまとまりのある史料である。当地域における戦国大名大内氏、大友氏の政治支配の変遷を示すとともに、一方で農民の動向をも伝え、中でも「十六丁御百性同心申状案」は山門庄における「百性」の惣的結合を示す九州では稀な史料である。

銅造塔婆型厨子　１基

所有者　旦過だるま堂保存会　代表　西村　初雄

所在地　福岡市西区姪浜六丁目13番７号

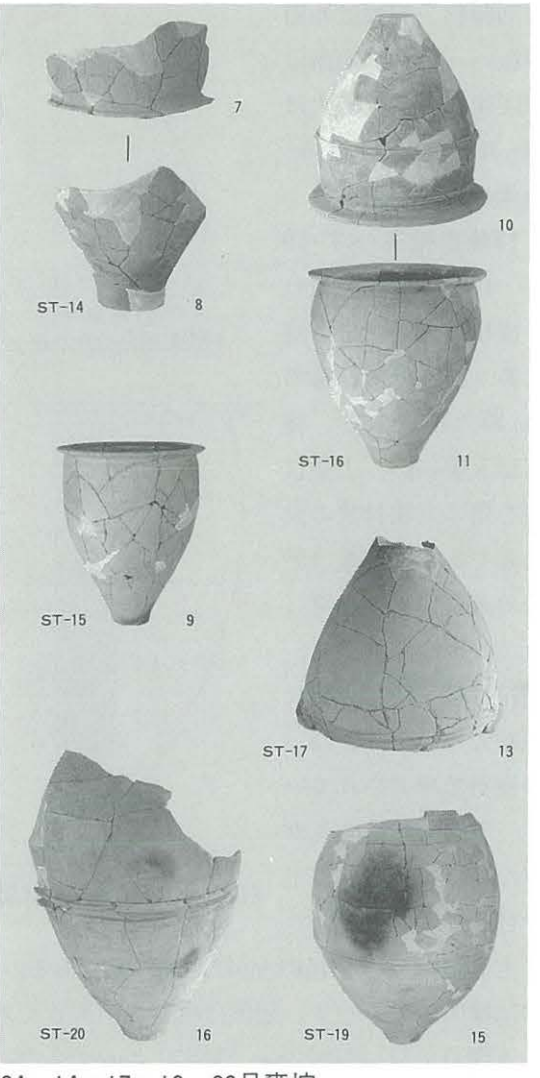
元禄15年（1702）、姪浜の有力者であったと思われる石橋紹善が五穀豊穣と家内繁栄を祈って、住吉神社に奉納した銅造の塔婆型厨子（総高119.0cm）であり、中に木造の観音坐像を安置する。内部の墨書から明治の神仏分離の際、現在地に移されたことが知られる。

鋳造者は博多に移住してきた芦屋鋳物師大田氏の流れを汲む博多金屋町の大田喜兵衛尉兼達。大田氏（後に山鹿氏を名乗る）は「新芦屋」と藩内外で賞揚された献上釜を鋳造した近世博多を代表する鋳物師であり、本厨子は大田氏の優れた鋳造技術を示すとともに、現存作品の少ない近世博多鋳物師の作品として貴重である。

２０号甕棺墓　ST-20　(20.23.24)

11号甕棺墓の南４ｍにある成人墓で、12～19号甕棺墓群より１段低い整地面上に立地する。甕棺は緩斜面に穿った横穴にほぼ水平にして南北に埋置されていたが、土留めの養生壁下に埋没していたため調査時には検出できなかった。甕棺は胴部上半が既に消失しており、単口式か合口式かは判然としない。

甕(16)は、底径16cm、現高98cmの大型甕である。砲弾形の胴部には２条の「コ」字凸帯が巡る。外面は凸帯下が粗いハケ目、凸帯上はナデ調整で叩き痕状の凹凸が横方向に観られ、煤様の黒色顔料が付着している。内面は押圧後にナデ。色調は明赤褐色。



24．14～17・19・20号甕棺

４．おわりに

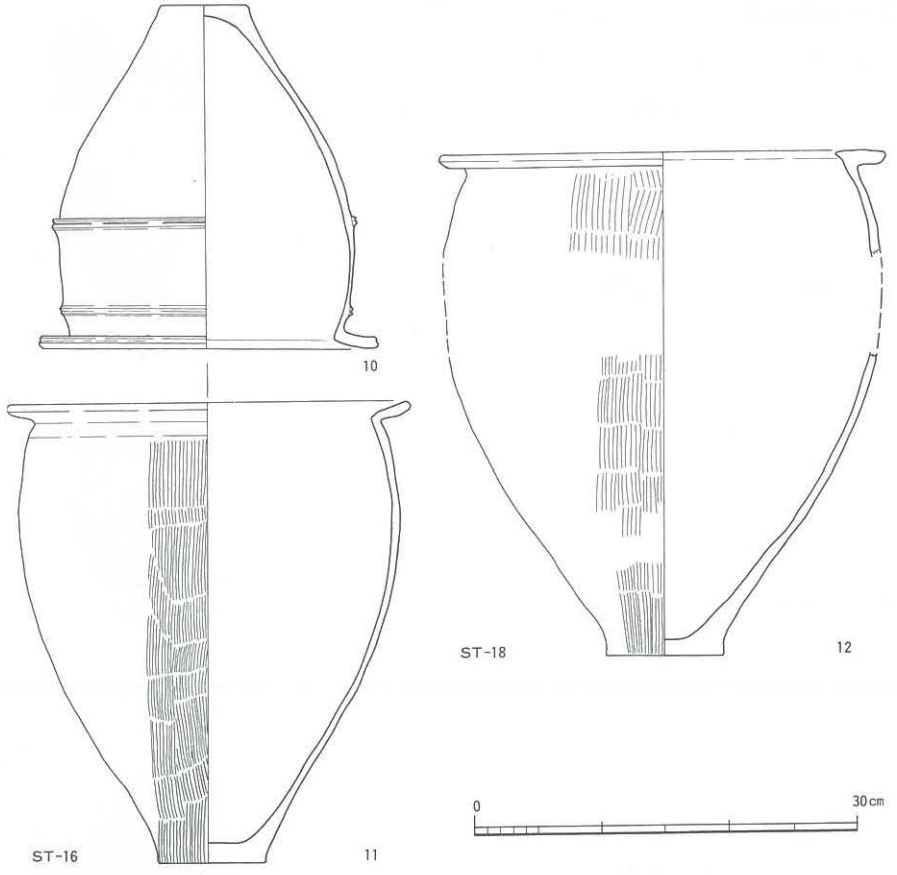
浦田甕棺遺跡は、弥生時代中期の共同墓地で、第１次調査と第２次調査を合わせて20基が調査されたにすぎない。しかも北縁の切り通し面に露呈していた甕棺墓も1995(平成7)年の住宅地造成に際してその大半が消失してしまい、今日墳墓群の全容を明らかにすることはできない。浦田甕棺遺跡の弥生墳墓は、甕棺墓のみによって構成される。土壙墓は未検出であるが、甕棺墓群が比較的急峻な舌状丘陵の外縁線に沿って貼り付く様に占地する状況からして、その存在は容易に想起しがたい。その造墓期も中期後半に限られ、分村的な小集団の営んだ新墓域的性格をもって理解することができよう。北方には穹入する谷を隔てた舌状丘陵の緩斜面上に対峙してある岩隈遺跡は、前期末から中期末の甕棺墓70基と土壙墓、木棺墓からなり、その占地や墓域の拡がりは造墓期と併せて好対照をなす。いずれにしてもこれらは、細型銅剣や銅釧等を副葬した東入部遺跡の甕棺墓群を中核とする一つの地域共同体を構成する小集団の墳墓群として性格付けられよう。

一方、11号甕棺墓は２個の甕形土器と縦に半裁した甕形土器を覆い被せて連ねた４連式の甕棺墓で、単口か合せ口式が一般的な中にあって特異な埋葬形態を示す。甕形土器や壺形土器を３個以上連ねて埋葬主体とした、いわゆる多重連甕棺墓は50例を越えるが、そのほとんどが３連式の甕棺墓で、４連式、５連式のものは数例にすぎない。その分布域も佐賀平野から筑紫平野を主域とし、甕棺墓制の分布域限とされる遠賀川流域や菊地川流域にわずかに認められる。また、年代的にも前期から中期前半に集中する。早良平野では、本遺跡の外には小型の丹塗り壺と甕形土器を連ねた３連式の甕棺が吉武遺跡で、中型甕の３連式甕棺が浦江谷遺跡で出土しているが、いずれも中期末のもので佐賀～筑紫平野の一群とはやや異なる。初現期の多重連甕棺墓を伸展葬を主葬とする土壙墓や木棺墓葬から甕棺墓葬への変容の中で生じた特殊な地域的埋葬形態として理解すると、早良平野での在り方はその意味において大きな差異がある。定形化した甕棺墓の中にあって伸展葬を意識した埋葬形態をとる必然的要件を何れに求めるか、墓制と被葬者、社会情勢との関連性を改めて詳細に検討したい。

は倒卵形。調整は外面が粗いハケ目、内面は押圧後にナデ。胎土は細～粗砂粒を多く含み、色調は淡黄橙色。

19号甕棺墓 ST-19 (14.15.19.23.24)

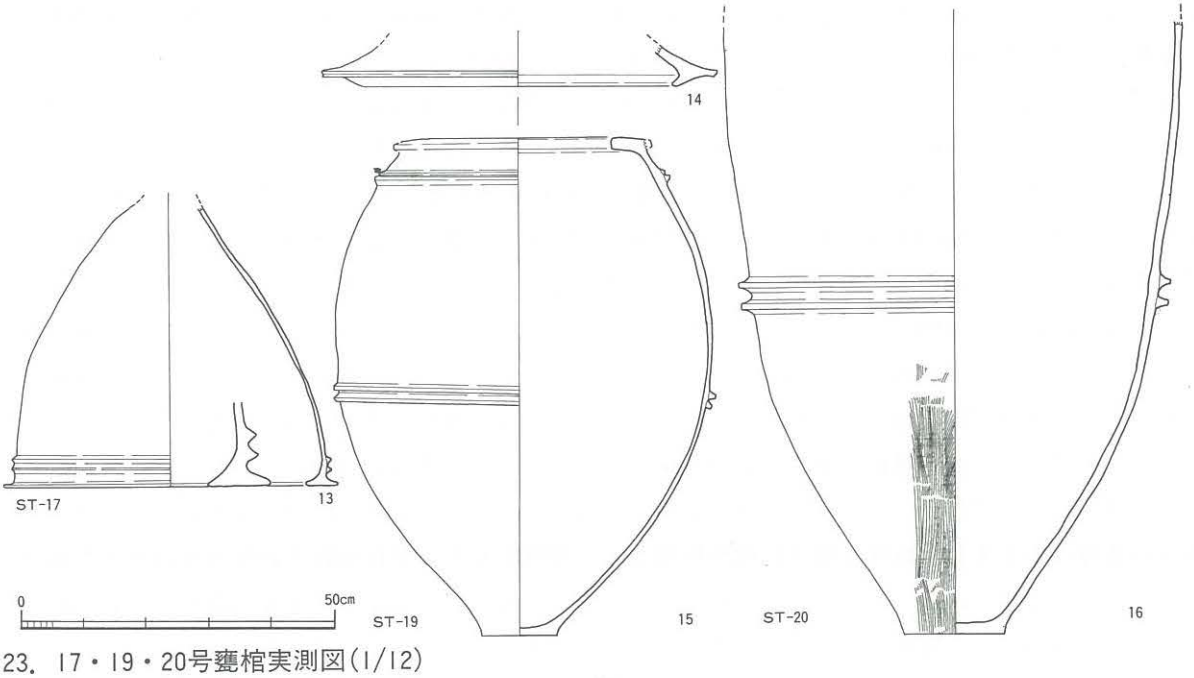
甕棺墓群中の最東端にあり、12号甕棺墓の1m西に位置する。甕棺は上甕に鉢、下甕に甕を用いた覆口式の成人墓である。墓壙は竪穴の東壁に斜壙を穿った2段掘りの構造で、甕棺はN－67°－Wに主軸方位をとり、23°の傾斜で埋置されている。下甕に水抜き孔が穿たれ、黒灰色粘質土で目貼りされていた。



22. 16・18号甕棺実測図(1/6)

上甕(14)は、口径63cmの大型の壺である。鋤先状の口縁部は内唇が鋭く内傾し、ナデて整えた端部は横凹線状をなす。頸部は朝顔状に大きく外反する。胎土は細～粗砂粒を含み、色調は淡黄橙色。

下甕(15)は、底径12cm、器高79.4cmの大型の甕で口径は42cmになろう。「T」字状の口縁部は内唇が強く張り出す。胴部中位に2条の「コ」字凸帯が、口縁部下には三角凸帯と「コ」字凸帯が連接して巡る。



23. 17・19・20号甕棺実測図(1/12)

17. 15、16号甕棺墓(南より)

18. 17号甕棺墓(北西より)

19. 19号甕棺墓(南より)

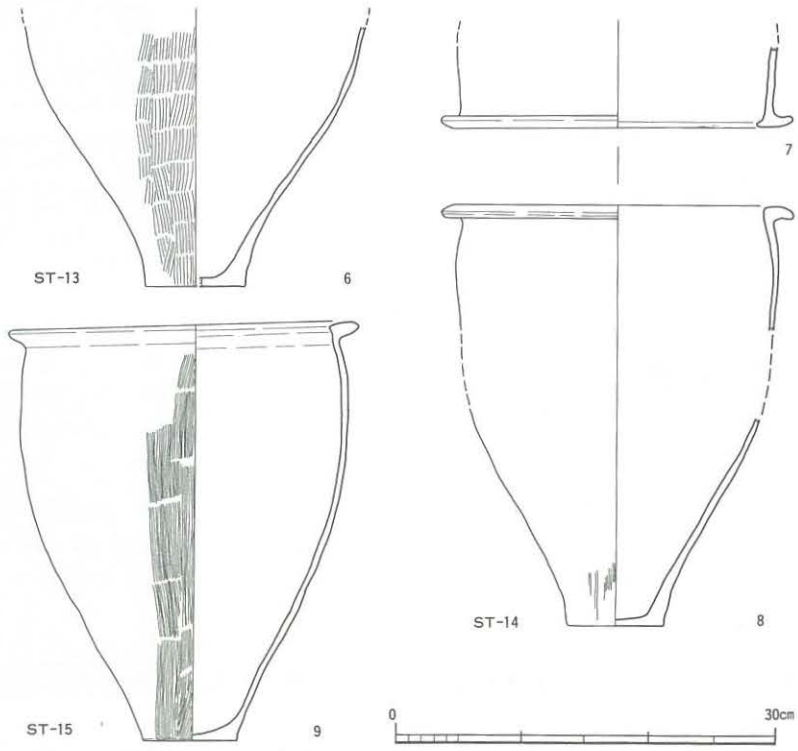
20. 20号甕棺墓(西より)

内唇が強く張り出す。胴部は内弯気味にストレートに窄り、口縁部下に2条の三角凸帯が巡る。調整は外面が粗いハケ目、内面はナデ。黄橙色。

18号甕棺墓 ST-18 (14.15.22)

調査区上縁の甕棺墓群のほぼ中央にある小児墓で、14・15号甕棺墓よりも古い。甕棺は、棺底面を浅く残すのみで消失が著しいが、楕円形の墓壙に南北方向に水平に埋置されていたと思われる。

甕(12)は、口径35.4cm、底径は9.3cm。「L」字状の口縁部は上唇を水平に整え、内唇は小さく摘み出す。胴部

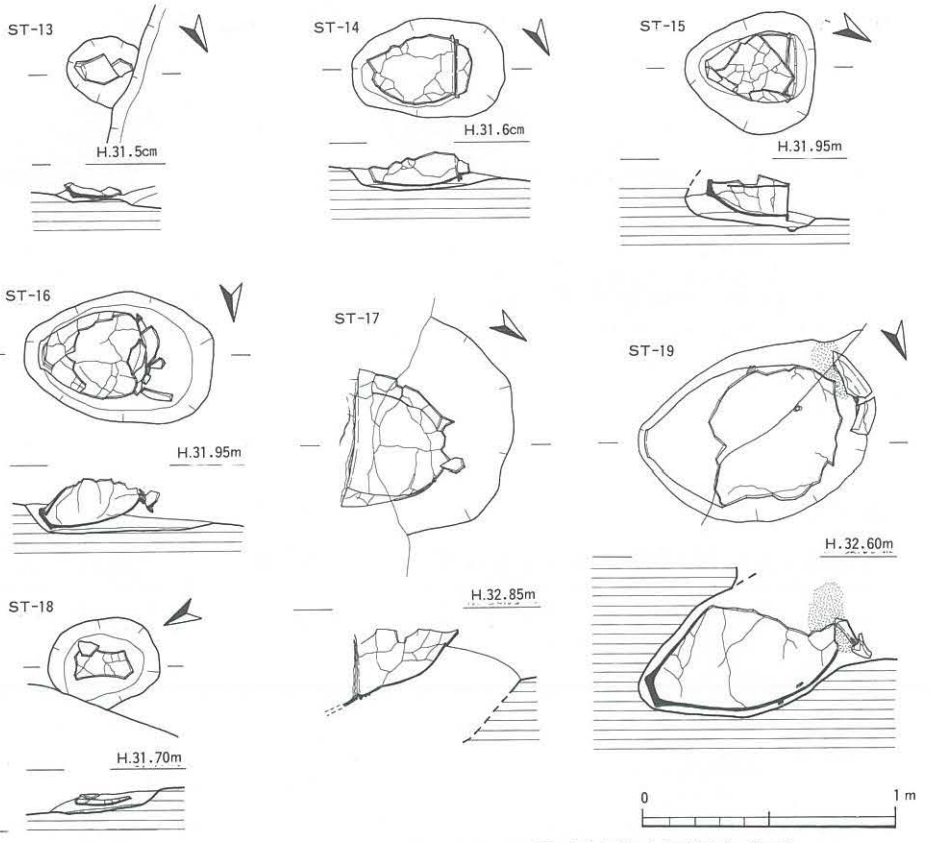


21. 13～15号甕棺実測図(1/6)

16号甕棺墓 ST-16 (14.15.17.22.24)

調査区の上縁に群集する甕棺墓群の南端にある接口式の小児墓で、15号甕棺墓より古い。上甕には丹塗りの甕を用いている。甕棺は、楕円形の竪穴にN－1°－Wに主軸方位をとり、39°の傾斜で埋置されている。壙底には墓壙掘削時の真砂土を充塡して棺の安定を図っている。

上甕(10)は、口径26.8cm、底径6.8cm、器高27.6cmの丹塗り甕である。「L」字状の口縁部は端部に横凹線を巡らす。胴部は倒卵形をなし、口縁部下と胴部中位には1条の「M」字凸帯を貼りつけている。口唇部～外面は丹塗り研磨、内面はナデ調整。胎土は精良で細～小砂粒をわずかに含み、焼成は良好。色調は外面が赤褐色、内面は明橙色。



14. 13～19号甕棺墓実測図(1/30)

15. 12～19号甕棺墓群(南より)

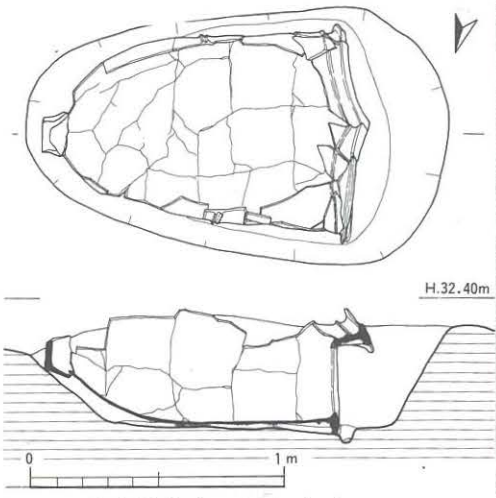
16. 14号甕棺墓(北より)

下甕(11)は、口径31.8cm、底径8.5cm、器高が36.6cmの甕形土器である。「L」字状の口縁部は小さく外傾する。底部は厚い平底で、胴部は倒卵形をなす。調整は外面が粗いハケ目、内面はナデで多くの鼠歯痕が残る。胎土は細～中砂粒を含み、色調は淡白褐色。

17号甕棺墓 ST-17 (14.15.18.23.24)

調査区の上縁にある甕棺墓群の中央に位置する接口式の成人墓で、14号甕棺墓よりも古い。甕棺は上甕に鉢、下甕に口縁部を打ち欠いた甕を用いている。墓壙は斜面に直交してやや緩やかに斜壙を穿ち、その中に約25°の傾斜を以て甕を埋置しているが、下甕が調査区外にあるために詳細は明らかでない。上下甕の接口部には粘土の目貼りはない。主軸方位はN－35°－Wにとる。

上甕(13)は、底部を欠く大型の鉢で、口径53.6cm、現高は44.8cm。上唇を平坦に整えた「L」字状の口縁部は



10. 12号甕棺墓実測図(1/30)

11. 12号甕棺墓(南より)

古い。上下甕ともに小型の甕であるが道路開削時の消失が著しい。甕棺は浅い楕円形の墓壙に主軸方位をN－56°－Wにとって水平に埋置し、甕棺の接口部には粘土等による目貼りは施されていない。

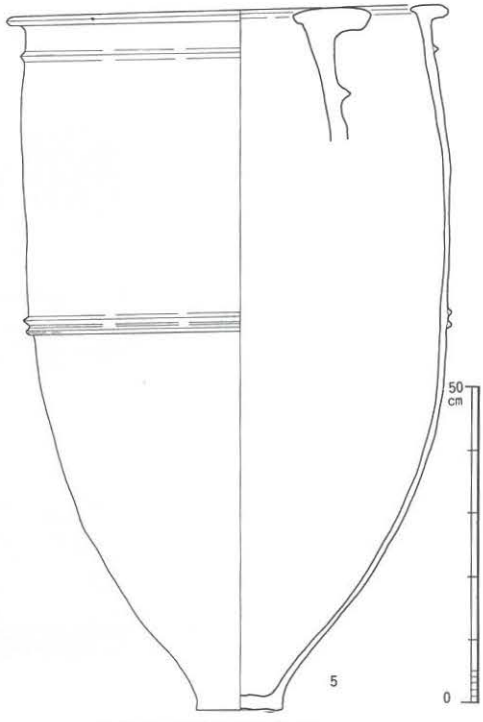
上甕(7)は、口径27.8cm、現高6.5cmの甕である。外傾する「T」字状の口縁部は内唇をシャープに摘み出す。内外面ともに摩滅が著しく、胎土には多くの砂粒と雲母微細を含む。色調は白橙色。

下甕(8)は、口径14cm、底径7.6cm、器高は33cm程になろう。「L」字状の口縁部は厚く、端部はわずかに外傾する。内外面とも摩滅が著しい。胎土は砂粒を多く含み、内面が明赤褐色、外面は白橙色。

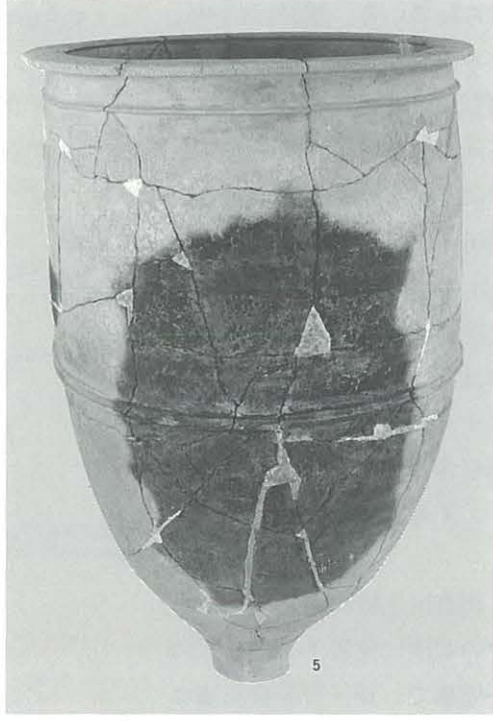
15号甕棺墓 ST-15 (14.15.17.21.24)

群集する甕棺墓群の南部にある単口式の小児墓で、16・18号甕棺墓よりも新しい。甕棺は、48cm×52cmの楕円形プランをなす墓壙の中央部に埋置され、主軸方位をN－17°－Wにとる。甕棺は、口縁部側が約8°低くなっており、底部側を頭位としたものであろう。口縁部下の壙底には幅約3cmの浅い溝状の窪みがあり、板材で蓋をしたものと考えられる。

甕(9)は、口径27.4cm、底径7cm、器高33.4cmの小型甕である。厚い「L」字状の口縁部はわずかに外反し、内唇は小さく摘み出す。倒卵形の胴部に平底の底部がつく。外面は粗いハケ目、内面はナデ。胎土は細～中砂粒を含み、色調は明褐色。



12. 12号甕棺実測図(1/12)



13. 12号甕棺

黒色顔料が塗布されている。胎土は粗く細～粗砂粒と雲母を含む。内面が黄橙色、外面は淡明橙色。

12号甕棺墓 ST-12 (10.11.12.13)

調査区上縁に群集する甕棺墓群の北端にある単口式の成人墓で、14号甕棺墓よりも新しい。墓壙は楕円形の竪穴を掘り、その東壁に甕の底部を接して水平に埋置している。壙底には甕の口縁部に沿って幅約5cm、深さ4～6cmの浅い溝があり、木蓋で密封したと考えられるが、粘土等による目貼りはない。主軸方位はN－73°－Eにとる。

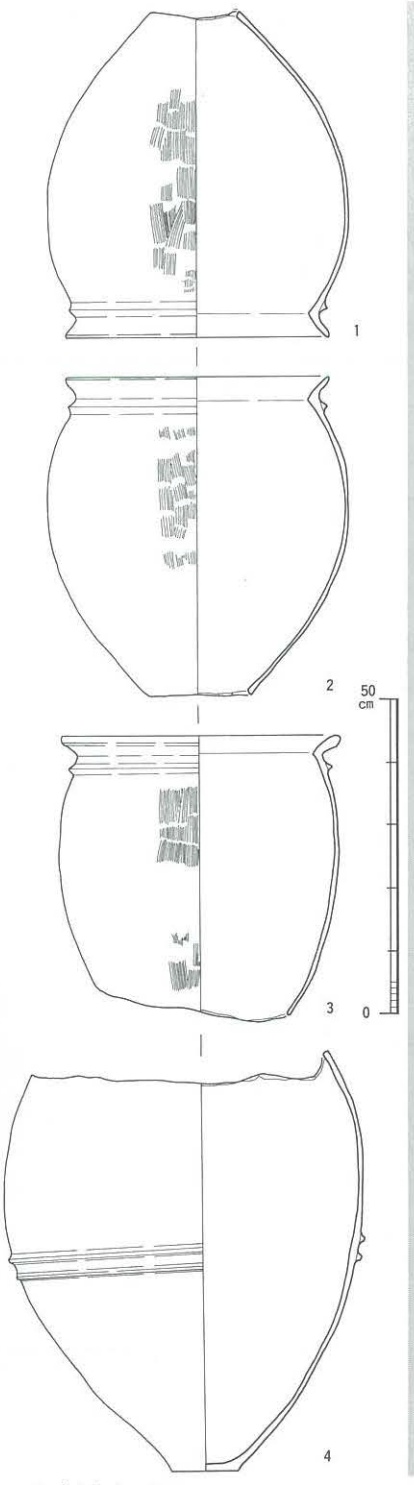
甕(5)は、口径71.2cm、底径14cm、器高112.6cmの大型の甕である。「L」字状の口縁部は小さく内唇を摘み出し、口縁部下に1条の三角凸帯が巡る。砲弾形の胴部中位には2条の「コ」字凸帯が巡るが、上段の凸帯は上方に鋭く摘み上げて三角凸帯状をなす。内外面に黒色顔料の塗布痕が残る。調整は内外面ともナデて仕上げ、内底面には指頭押圧痕が残る。胴部外面には70cm×50cmの大きな黒斑がある。胎土は砂粒を含み、色調は黄橙色。

13号甕棺墓 ST-13 (14.15.21)

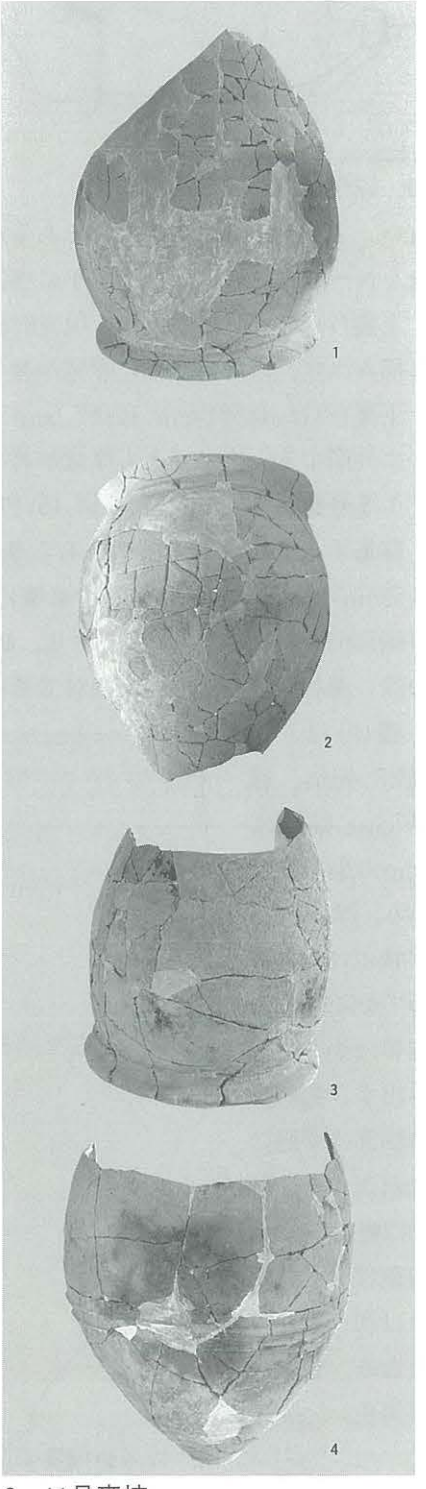
甕棺墓群中の北側にある小児墓で、西半は14号甕棺墓に切られている。甕棺は削平による消失が著しいが、浅い楕円形の墓壙に約27°の傾斜をもって埋置され、N－57°－Wに主軸方位をとっている。甕(6)は、底径7.8cm、現高20.8cmの小型甕で、底部は平底で胴部は倒卵形になろう。調整は外面が粗いハケ目、内面はナデ。胎土は砂粒と雲母微細を含み、色調は淡橙色。

14号甕棺墓 ST-14 (14.15.16.21.24)

調査区上縁にある甕棺墓群中の北側に位置する接口式の小児墓で、13・17号甕棺墓より新しく、12号甕棺墓よりも



8. 11号甕棺実測図 (1/12)



9. 11号甕棺

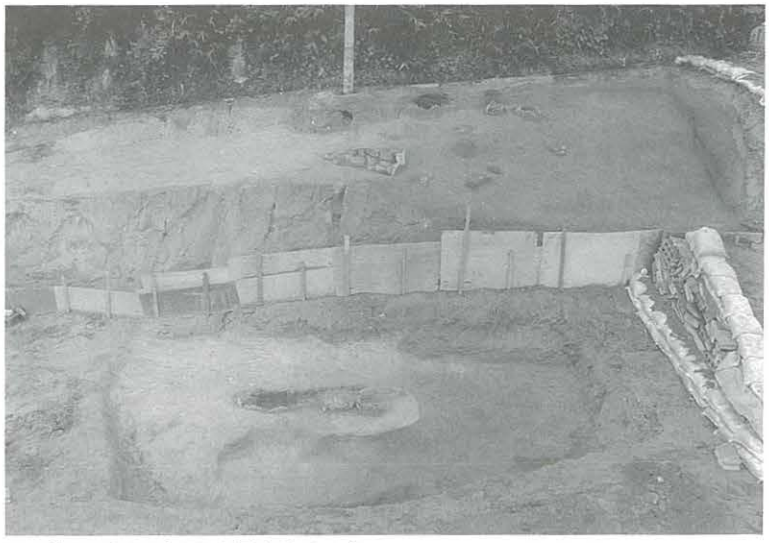
甕棺墓

１１号甕棺墓　ST-11　(6.7.8.9)

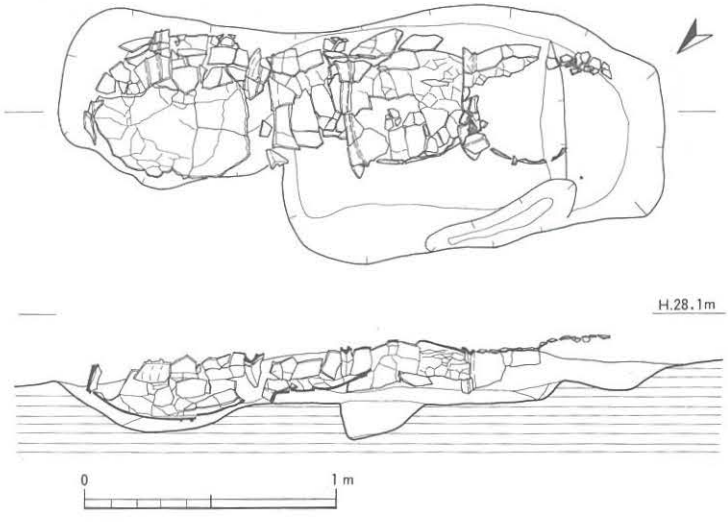
調査区の下縁に立地する合口式の成人墓で、20号甕棺墓の北３ｍにある。甕棺は、丘陵裾を削り出し、西側に排土を拡げて造り出した狭い平坦地に長楕円形の墓壙を穿ち主軸方位をＮ－53°－Ｅにとって水平に埋置している。甕棺は、下甕に口縁部と底部を各々打ち欠いた甕形土器を、上甕には底部を打ち欠いた甕形土器を半裁して上蓋として並べた４連式をなす。墓壙底は平坦で、半裁した上甕下には10cm程の段がつく。この段から下甕底部までは180cm程あり、仰臥伸展葬が想定される。

上甕(1)は、底部を打ち欠いた中型の甕で口径44cm、現高は52.2cm。「く」字状の口縁部はストレートに立ち上がり、口縁下には１条の三角凸帯が巡る。胴部は倒卵形をなす。調整は外面が粗いハケ目、内面は押圧ナデ。胎土は砂粒を含み、淡橙色。

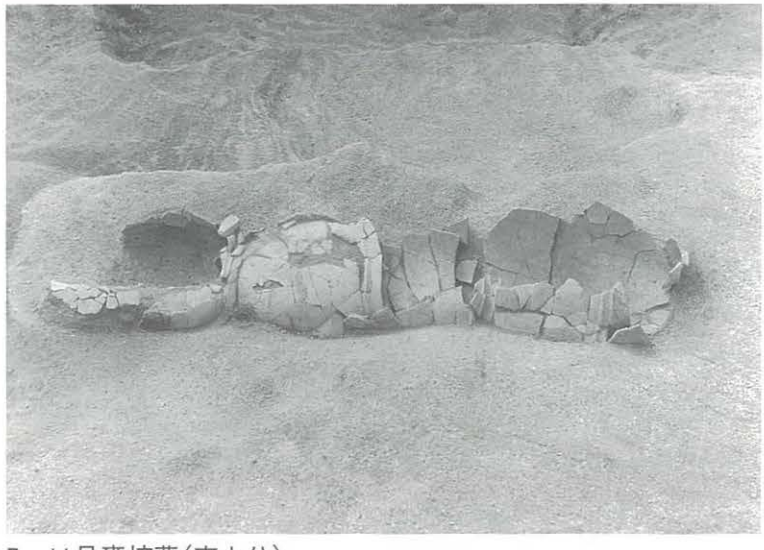
下甕(2・3・4)は連接した3個の甕形土器からなる。２は底部打ち欠きの中型甕を縦に半裁したもので一半を上甕(1)としている。現高は50.8cmで上甕より底部の打ち欠きが深い。３は口径44cm、現高が45cmの中型甕で、底部を打ち欠く。「く」字状の口縁部は短く外反し、端部は平坦である。胴部は肩の張りが弱く、口縁部下には１条のシャープな三角凸帯が巡る。外面は細かいハケ目、内面はナデ。胎土は小～中砂粒を多く含み、淡褐色。４は口縁部を打ち欠いた大型の甕で、底径10.4cm、現高は67cm。倒卵形の胴部中位には２条の「コ」字凸帯が巡る。内底面が指頭押圧痕の外はナデ調整。外面は煤様の



5. 第２次調査区全景(北より)



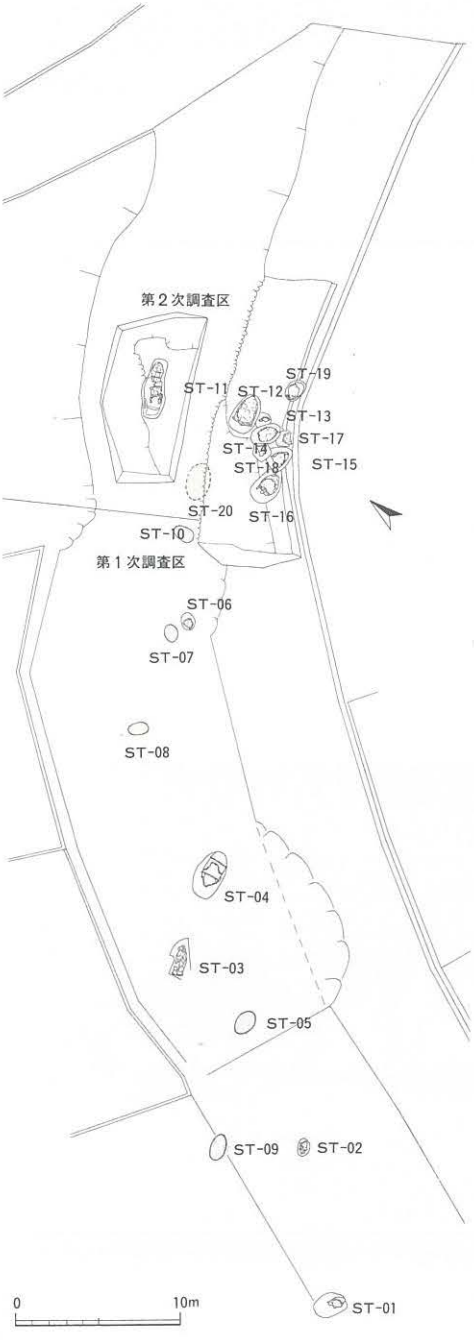
6. １１号甕棺墓実測図(1/30)



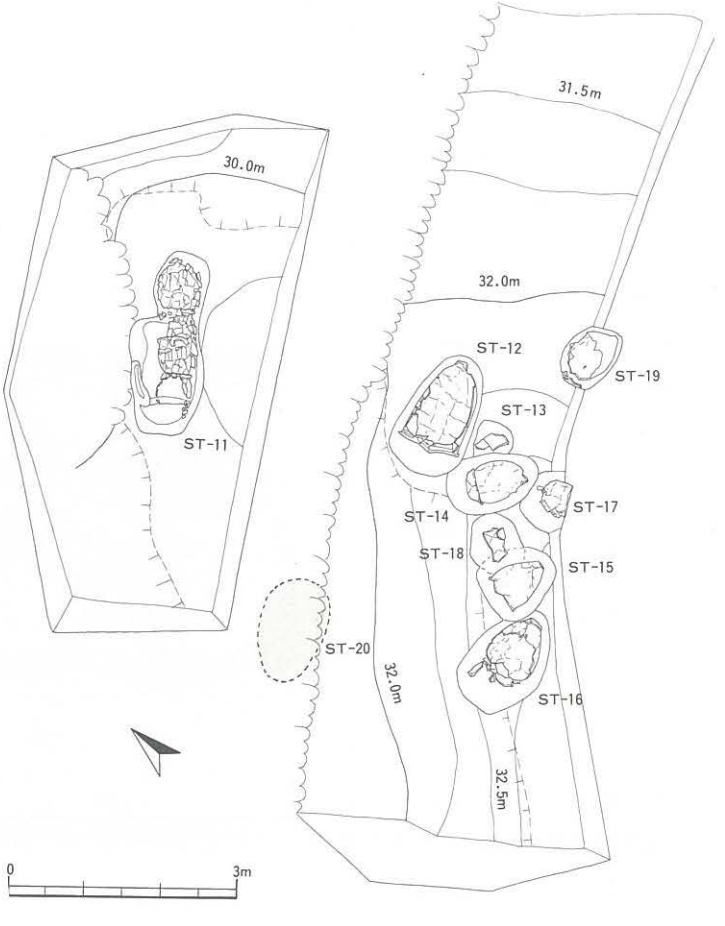
7. １１号甕棺墓(南より)

3．調査の記録

浦田甕棺遺跡は、油山の西麓から早良平野にむかって西方に突出する舌状丘陵の斜面上に立地し、その丘陵頂には八幡不動尊神社が祭祀されている。丘陵は比較的急峻で、北縁側は市道によって切り崩され、その崖面には数基の甕棺墓が露呈していた。一方、西縁側には丘陵に沿って市道から八幡不動尊社殿へ登る私道が弓形にのびており、この北縁から西縁の斜面上に貼り付く様にして弥生時代中期の甕棺墓群が占地している。第２次調査区は、八幡不動尊神社へ弓形にのびる私道の登坂口に位置し、舌状丘陵北西縁の中段位にあたる。調査区の南縁側には浅い谷状の窪みが緩やかに弯入し、この窪みを挟むようにしてすぐ南には第１次調査区の甕棺墓群が帯状に続いている。第２次調査区では10基の甕棺墓を検出した。甕棺墓は、調査区の南縁側に弯入する浅い谷状の窪みに沿って８基が並んでいる。一方、甕棺墓群より約4ｍ下方の丘陵裾部には２基の甕棺墓が南北に並んで立地している。このうち11号甕棺墓は丘陵の裾を削り出して小さなフラット面を造り出し、ここに中型の甕形土器を４個連ねて埋葬施設としており、他の甕棺墓とはややその様相を異にしている。この２基の甕棺墓の南に接して第１次調査区の甕棺墓10基が長さ約35ｍに亘って拡がっている。甕棺墓群は第２次調査区下段の甕棺墓と同じレヴェルで長く帯状に拡がっているが、その分布状況はきわめて疎らな在り方を示す。



3．１・２次調査区現況図(1/300)



4．第２次調査区遺構配置図(1/100)

2．立地と歴史的環境

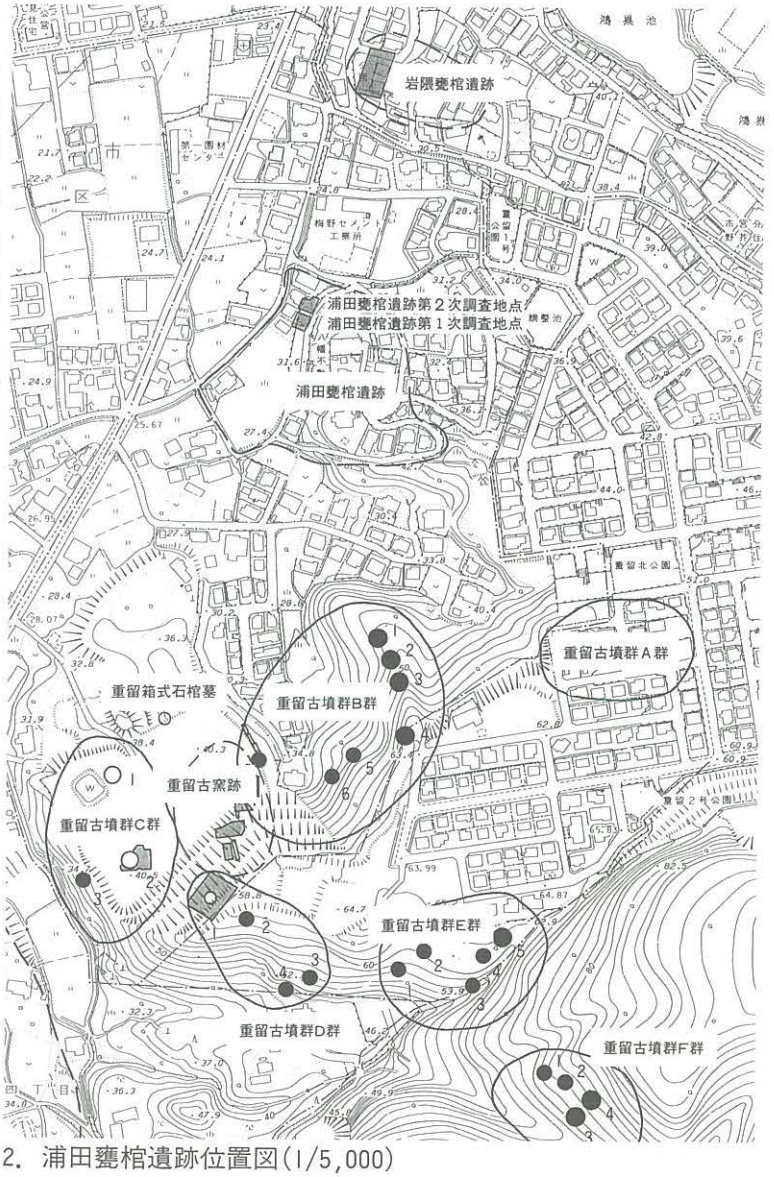
浦田甕棺遺跡のある早良平野は福岡市の西部に拡がる狭小な平野で、南は背振山地とそれから派生する油山、飯盛山から長垂山とつづく山塊によって囲まれ、北は博多湾にむかって開口する。この平野は、背振山地から流れ出した室見川によって造り出された沖積地と海岸砂丘からなり、平野内には第三紀丘陵と洪積台地が点在している。この早良平野の東縁には、背振山地から派生した油山山塊があり、これが福岡平野との境をなしている。浦田甕棺遺跡は、この油山山塊の北西縁にあり、山塊から派生した小さな舌状丘陵の丘陵裾に立地し、行政的には早良区重留字浦田地内にある。

この早良平野では、海岸部に立地する藤崎遺跡や西新町遺跡、五島山遺跡や山麓に拡がる古墳等が古くから知られていたが、開発の増加に伴う緊急発掘調査の増加とともに旧石器時代から中世までの多くの遺跡が知られるようになり、平野内における先人の営みが次第に明らかになりつつある。

旧石器時代はカルメル修道院遺跡や干隈熊添遺跡、五ケ村池遺跡で尖頭器やナイフ型石器が出土しているが遺跡は少なく多くは丘陵上に立地している。縄文時代になると五ケ村池遺跡や梅林七夕遺跡、クエゾノ遺跡、四箇遺跡、田村遺跡等があり、遺跡は次第に平野の沖積地全域に拡大していく。

弥生時代になると、早良王墓として著名な吉武遺跡群を頂点として遺跡は平野全域に急速に拡大していく。田村遺跡や重留遺跡では、前期初頭の墳墓や集落跡が確認されている。中期には平野の開口部に位置する野方久保遺跡、有田遺跡、飯倉唐木遺跡や平野奥部の東入部遺跡で細形銅剣や銅鏡、銅戈、素環頭鉄刀、碧玉製管玉等が甕棺墓や土壙墓に副葬されている。しかし、室見川左岸の吉武遺跡群の土壙墓、甕棺墓とは隔世の感があり、平野内における両者の関係を如実に物語っている。この中で浦田甕棺遺跡は、谷を隔てた北方の岩隈遺跡とともに南西方の東入部遺跡を中核とする小集団の傘下に含まれよう。

古墳時代になると、遺跡は更に拡がり、飯倉遺跡や東入部遺跡、田村遺跡などが丘陵上や平野内に水田の水利施設を伴って営まれ、油山西麓等の山麓には重留古墳群や三郎丸古墳群等の群集墳が広く分布している。また、首長墓としては、京の隈古墳や円筒埴輪、形象埴輪を配した拝塚古墳がある。奈良時代以降はこの傾向が更に顕著で、条里制のもとに水田が平野全域に拡大する。



2．浦田甕棺遺跡位置図(1/5,000)

8716　浦田甕棺遺跡第２次調査（URT－２）

所在地	早良区大字重留字浦田	調査面積	116㎡
調査原因	道路建設	担当者	小林義彦
調査期間	870629～870708	処置	調査後に破壊

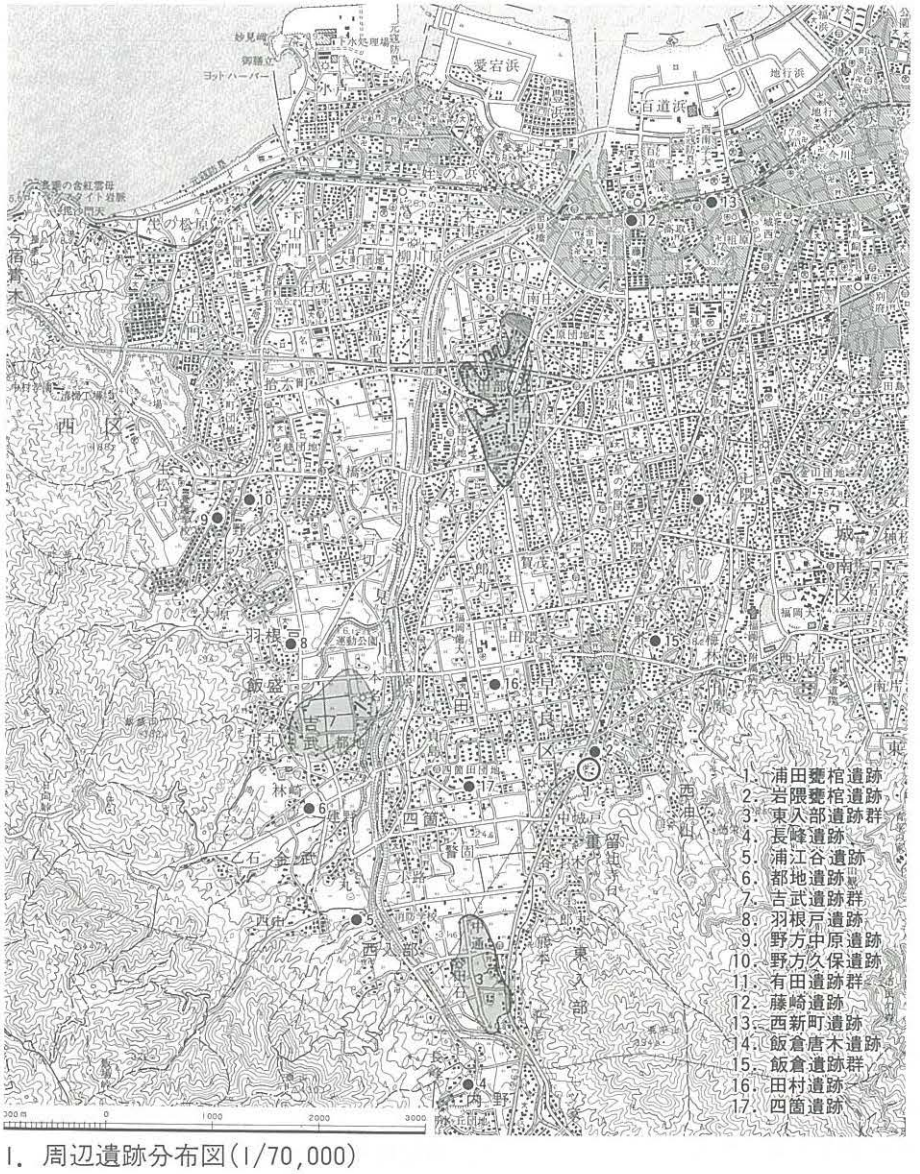
１．調査にいたるまで

福岡市の西部に拡がる早良平野は、東は油山と西麓から派生する低丘陵が長く延び、西は飯盛山から長垂山とつづく小山塊によって画され、その眼下には青々とした水田が拡がっていました。しかし、急速にすすむ人口の増加は郊外の市街化を推し進め、古墳等多くの遺跡が立地する丘陵や平野には次々と家々が建ち並んで新しい街が急速に拡がっています。

浦田甕棺遺跡のある重留地区も例外ではなく、丘陵は造成され、田畑は埋め立てられて旧地形は大きく変容している。浦田甕棺遺跡は、油山の西麓から派生した舌状の北西縁に立地し、その北縁を開削した道路の切り通し面には数基の甕棺が姿を覗かせており、甕棺墓遺跡として周知されていた。

1982(昭和57)年5月、丘陵の西裾が住宅建築に伴う造成時に甕棺墓が発見され、10基が緊急に発掘調査(第１次調査)された。

1987(昭和62)年の6月に第１次調査区の東側上段にあった私設道路の拡幅工事が行なわれ、路面がパワーショベルで大きく開削された。この開削面に数基の甕棺墓が露呈していることが、「福岡の自然と歴史を愛する会」の神田宏太郎氏によって発見され、その旨が届けられた。これを受けて地権者との協議の結果、甕棺墓域の拡がりとその性格を明らかにすべく時間的猶予をいただいて緊急に発掘調査(第２次調査)を実施した。



1．周辺遺跡分布図(1/70,000)

Ｉ地区（字前の池）

調査面積：5,187㎡

検出遺構：竪穴式住居25棟、掘立柱建物数棟、土壙数基、甕棺１基、柱穴多数。

竪穴式住居は弥生時代中期後半から古墳時代初頭までと、古墳時代後期に二分される。前者では円形住居から次第に方形住居へ変化している。住居などからは多くの土器類、石器類、鉄器類などが出土した。鉄器に釣針、ヤリガンナ、鉄斧などがあり、また石器に漁網錘、釣り用錘などがある。また、碧玉、水晶、ガラス玉、滑石製品やその未製品なども出土している。

３．出土遺物

全地区で総量コンテナ約250箱

４．まとめ

永浦遺跡群では、旧石器、縄文、弥生、古墳の各時代において重要な成果があった。

旧石器、縄文では当該資料の少ない市内東部地域を補填するものである。

弥生時代は５地区に住居群を検出した。中心集落はＡ地区→Ｉ地区と移動し、他は中期後葉に一時的に分村したものとみられる。このうちＪ地区は高地性集落である。

古墳時代はＤ、Ｉ地区に集落があり、丘陵上に３基の古墳が造られている。永浦１、２号墳は小型の前方後円墳であり、隣接し、規模、主軸方向、石室の開口方向がほぼ一致する。６世紀前葉～６世紀中葉頃に造られた二代の累代墓とみられる。本地域の首長墓であり、同じ丘陵上の他の大型古墳と系列が推定される。また、Ｌ地区の古墳は小規模であり、古墳終末期の様相をもつ。

弥生～古墳時代の集落からは農工具以外に漁業、交易関連遺物も多く含まれ、集落立地と共にこの集落の経営基盤の様相を示唆している。

2．Ｈ地区全景

3．Ｈ地区溜井検出状況

古墳は「永浦２号墳」とした。本古墳は１号墳よりさらに破壊が著しい。墳丘は全く残らず、北側の周溝痕跡と、旧地形に沿った造成跡や木根の抜き跡などから前方後円墳と判断した。永浦２号墳の大きさは後円部が径約19ｍ、全長約27ｍと推定した。石室は後円部中央にあり、全ての石が抜かれ、床の敷石だけが遺存する。南西に開口する単室両袖の横穴式石室であり、南西に開口する。内法は長さ約2.7ｍ、幅約1.5ｍである。敷石上から武器（鉄鏃）や装身具（管玉、ガラス小玉）が出土した。他に石室の周辺から須恵器などが出土した。築造時期は６世紀初頭から前葉頃とみられる。

Ｈ地区（字四十ヶ浦）

調査面積：8,778㎡

検出遺構：弥生時代の溜井９基、溝３条、竪穴式住居６棟、土壙、柱穴多数。

溜井は谷頭付近に集中して造られている。溜井の規模は大小あるが、最も西側の10号溜井は長さ53ｍ、幅約13ｍ、深さ約６ｍを測る。溜井のうち、西側の２基に暗渠が確認された。北側の暗渠は幅0.3～0.8ｍ、深さ約0.5ｍ、長さ約10ｍを測る。溝底に挙大円礫を多く詰め、埋め土で覆う。溜井の内部からは多量の遺物が出土した。土器類には甕、壺、高杯、鉢、器台、支脚、ひさご形土器、筒形土器など。石器には石斧、砥石、石包丁、石錘、磨石、凹石、石戈、石鏃などがある。また、鉄器として鉄斧、鉄鏃がある。竪穴式住居は谷頭を囲むように分布し、径３～４ｍの不整円形である。覆土中より土器類が出土した。本調査区の遺構は出土遺物から弥生時代中期後半から後期初頭とみられる。

Ｊ地区（湊坂）

調査面積：1,100㎡

検出遺構：竪穴式住居２棟、土壙２基、柱穴多数、遺物包含層。

本調査区は丘陵最高所に立地し、博多湾を含めて周囲約30kmを見渡すことができる。竪穴式住居は円形で直径６～７ｍである。１棟は火災を受けており、床面に炭化した建築材、焼土が多数残り、壁面が赤く焼けている。住居内からは少量の土器片、砥石などが出土した。またそのほか遺構からも土器類が出土している。これらは弥生時代中期後葉頃と見られる。

この遺跡は、立地条件などから「高地性集落」と考えられた。

Ｌ地区（字四十ヶ浦）

調査面積：1,800㎡

検出遺構：古墳１基、焼土壙１基、柱穴多数。

古墳は直径約10ｍの円墳である。墳丘は破壊される。石室は単室両袖の横穴式石室であり、天井石は落下していた。石室全長は約５ｍである。床面敷石上から須恵器類、鉄器などが出土した。また、墳丘上からも須恵器片が出土した。築造時期は７世紀中葉と見られる。

Ｋ地区（字永浦）

調査面積：731㎡

検出遺構：竪穴式住居８棟、土壙、柱穴など。

付近は畑地造成により大きく削平されている。丘陵尾根に弥生時代の大型住居、丘陵斜面に弥生時代の小型住居と古墳時代の住居が分布する。大型住居は円形で径約10ｍである。数回の建て替えの後、火災を受けている。そのほかの住居跡は斜面の造成面に設けられ、密集し、切り合っていた。

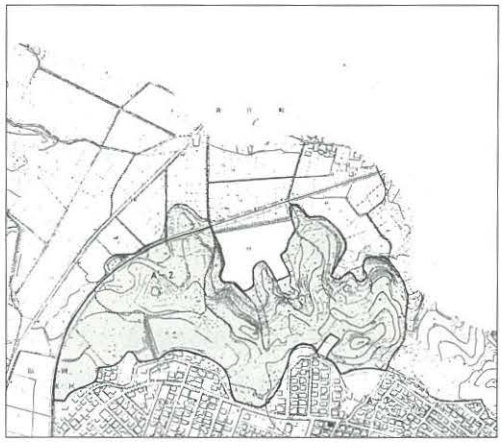
住居の時期は弥生時代中期後半と古墳時代後期に二分される。土器類、石器類が出土した。

9362　永浦（ながうら）遺跡第Ⅰ次調査（NGU-Ⅰ）

所在地	東区大字三苫平原外	調査面積	26,650㎡
調査原因	区画整理事業	担当者	吉留秀敏・加藤隆也
調査期間	19940401～19950331	処置	調査後破壊

1．位置・環境

本遺跡群は福岡市東部の丘陵地帯にあり、東西に延びる丘陵上に立地する。丘陵尾根線は博多湾と新宮浜の分水嶺となっている。丘陵の標高は10～40ｍである。同じ丘陵の西側には三苫京塚古墳、東側には新宮町人丸古墳などの大型古墳がある。また、周辺の丘陵では団地造成工事などに伴う発掘調査によって古墳、弥生～古墳時代遺構が多く確認されている。



1．調査地点の位置(028-A-2 1:16,000)

調査前は雑木林、荒地であったが、近年まで全域が段々畑に造成されていた。区画整理事業地内に11カ所の遺跡があり、うちＤ地区は昨年度に調査を行った。本年度は残りの地区の調査を行った。

2．検出遺構と概要

Ａ地区（字永浦・七枝）

調査面積：6,316㎡

検出遺構：弥生時代中期前葉の竪穴式住居２棟、土壙４基、柱穴多数、中世～近世の埋め甕、土壙、柱穴、溝など。

竪穴式住居は直径7.5ｍの円形で、建替えがある。住居内から土器類、石器類が多く出土した。また、ローム層から１カ所に石器群集中ブロックを確認した。ナイフ形石器、剥片類が出土した。この他に縄文時代の遺物も出土している。

Ｅ地区（字永浦）

調査面積：1,680㎡

検出遺構：古墳１基・掘建柱建物２棟・柱穴など。

古墳は「永浦１号墳」とした。本古墳は畑地造成により大きく破壊され、古墳北側の一部、周溝の一部、石室下部などが遺存する。前方後円墳であり、規模は後円部径約20ｍ、全長約30ｍである。主体部は後円部中央にある単室両袖の横穴式石室であり、南西に開口する。内法は長さ2.9ｍ、幅1.9ｍである。石室内の敷石上から武器類（鉄鏃、弓金具）や工具（鉄刀子）、装身具（管玉、ガラス小玉）などが出土した。また、周溝内から須恵器・土師器が出土した。築造時期は６世紀中頃とみられる。古墳の周辺からは前後する時期の建物跡や、土器、石器類が出土した。その中には縄文時代晩期の石器や曲玉もある。

Ｆ地区（字永浦）

調査面積：1,058㎡

検出遺構：古墳１基、井戸１基、溝など。

9463　福岡城跡（ふくおかじょう）第30次調査（FUE-30）

所在地　中央区城内1-1
調査原因　鴻臚館跡範囲確認
調査期間　940201～940309
調査面積　50㎡
担当者　田中壽夫・瀧本正志
処置　調査後埋め戻し保存

位置・環境　福岡城跡は、大休山、赤坂山から北へ突き出した丘陵の鞍部～先端部に立地している。この地点は博多湾のほぼ中央部に位置しており、湾岸全体をほぼ一望できる高台である。

調査地点は、三の丸東側郭の南縁に残る土塁の西端部分であり、平和台野球場南東側約50ｍの地点に位置している。

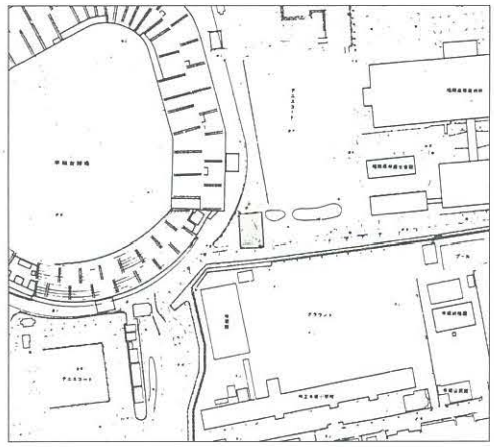
調査の目的　福岡城土塁の部分測量および断面観察と、その下部における鴻臚館跡関係遺構の有無について調査を行った。

調査の成果　土塁の現状計測値は、現地表面から高さ約２．６ｍ，基底部幅約７ｍ、土塁上面幅３ｍである。土塁は本来の形状を失っている。特に外壁にあたる南壁は、城内道路を作った際に大きく削平されており、基底部はその半分近くを失っているものと思われた。

土塁は旧地表土上面から頁岩風化土を版築状に叩きしめながら構築している様子が断面観察の結果わかった。

旧地表土の下部には、深さ３ｍ以上の整地層がみられた。この整地層の時期については、福岡城築城時期の整地層または、第８次調査で確認された筑紫館造館時期のものと考えられたが、今回のトレンチ調査では明らかにできなかった。

ただし整地層の確認によって、この地点の旧地形がかなり深い谷地形であったことが推定できた。1963年度の第１次調査、およびこれまでの地質調査の成果を踏まえて、三の丸東側郭の旧地形復元が可能になると思われる。



1．調査地点の位置（060-0193 1:4,000）

2．福岡城土塁現状（西から）

3．トレンチ全景（北から）

9462　長峰甕棺遺跡第２次調査（NGM-2）

所　在　地　早良区大字東入部735-２
調査原因　土取り
調査期間　950213～950310
調査面積　35㎡
担　当　者　池田祐司
処　　置　調査後破壊

位置・環境　室見川の上流域、背振山系から長垂山へ南北に連なる山塊から東に突出した丘陵状に位置する。調査地点は痩せた尾根状になっており、すぐ横を戦時中の畑開墾時に削平されている。その削平による露頭部に甕棺が露出していた。標高78ｍを測る。

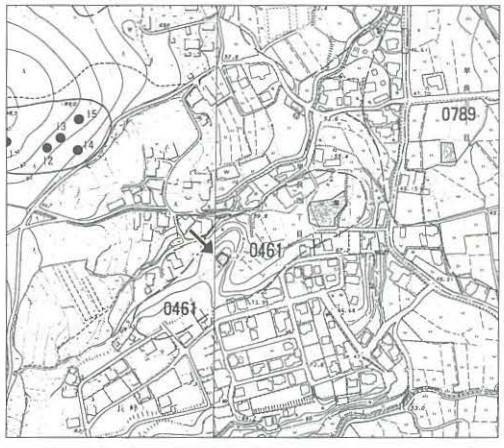
検出遺構　・弥生時代：甕棺墓８基、人骨１体

このうち３基が小児棺で２基は甕の合口、１基は壺の単棺である。他の５基はいずれも合口の成人棺であるが、やや小振りである。

出土遺物　コンテナ30箱の遺物が出土した。すべて弥生中期の土器である。

ま　と　め　畑の造成、土取りで破壊を受けており、上下棺ともほぼ完形で残る成人棺は２基のみである。そのうち１基は棺内の空洞が保たれており、１体の人骨が残っていた。全体の時期は中期中ごろから末におさまる。

報告書は1996年刊行予定である。



1．調査地点の位置（早良16-0461　1:8,000）

2．調査区全景（南から）

3．ST05検出状況

9461　比恵（ひえ）遺跡群第55次調査（HIE-55）

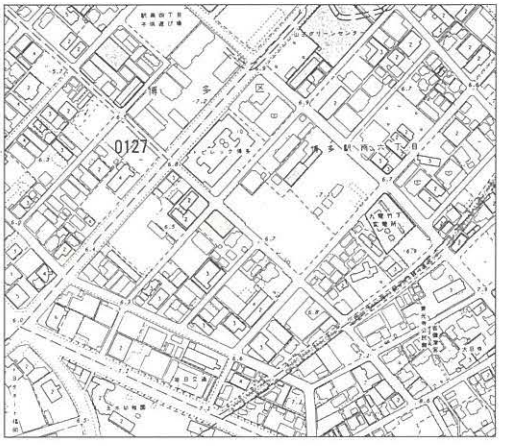
所在地　博多区博多駅南１丁目16-２
調査原因　共同住宅建設
調査期間　950213～940322
調査面積　390㎡
担当者　宮井善朗
処置　調査後破壊

位置・環境　比恵遺跡群は福岡平野の中央部の台地の最北端に立地する。北側は後背湿地に面し、南側は那珂遺跡群に隣接する調査地点は遺跡の南西部に位置する。

検出遺構　今回の調査では弥生時代～古墳時代の遺構・遺物が検出された。まず弥生時代の遺構としては、竪穴住居跡、井戸、溝などが見つかっている。住居跡は、円形のもので、径8.5ｍほどに復元される。中期のものである。この他後期の井戸、溝が検出されている。また古墳時代の遺構としては、後期の井戸２基、溝３条などが検出された。

出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ22箱である。弥生土器、須恵器、土師器が多数出土している。弥生後期井戸からは底部に穿孔を持つ甕、壺が出土した。また古墳後期井戸からは穿孔を施すつまみを持つ滑石製品が出土している。携帯用の砥石、もしくは権の可能性がある。

ま と め　今回調査地点は多数の遺物、遺構が発見された50次調査地点のすぐ近くに位置するが、遺構の分布は散漫で、遺物量も比較的少ない。集落の縁辺部と考えられよう。また、北側に隣接する36次調査地点で検出された古墳に関連する遺構も検出されていない。古墳時代前期から中期にかけての遺構は見られず、再び生活空間として利用されるのは後期に入ってからである。調査地点の北側から西北側400ｍ程に見られる該期の倉庫群と集落との関係がこれからの検討課題であろう。



1．調査地点の位置（037-0127 1:8,000）

2．調査区全景（南東から）

3．井戸18

福岡市埋蔵文化財年報Vol. 9
－平成 6 （1994）年度－

発　行　日　1996年 3 月29日

編集・発行　福岡市教育委員会埋蔵文化財課
福岡市中央区天神一丁目 8 － 1

印　　刷　福博綜合印刷株式会社

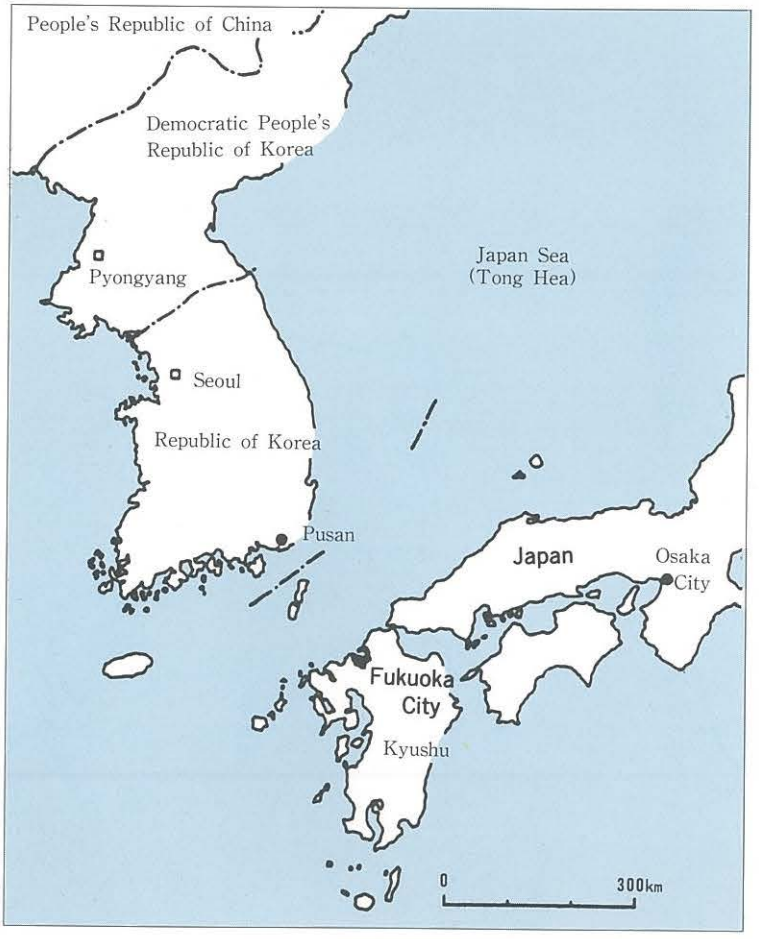
THE ANNUAL REPORT

OF THE

BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

Volume 9

1994



THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

March 1996

Japan